

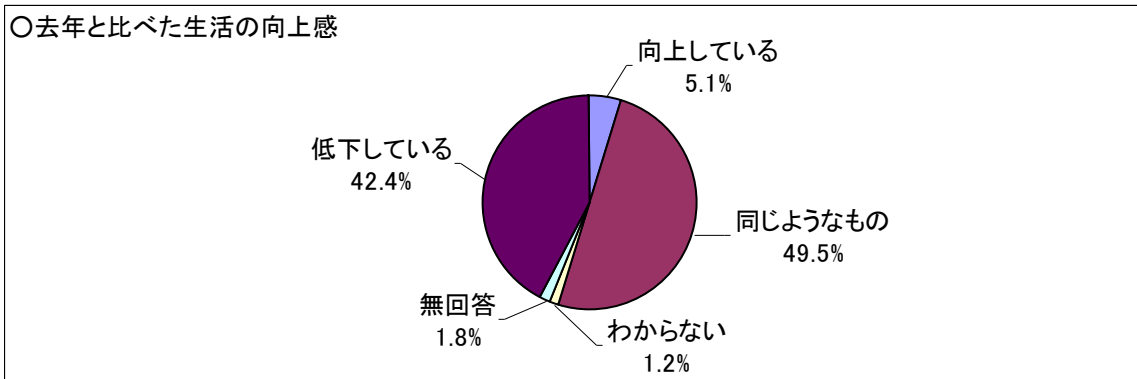
4 生活向上感について

(1) 去年と比べた生活の向上感

問 12 あなたが、今の生活をどう思っておられるかお聞きします。あなたの生活は、去年の今頃と比べてどうでしょうか。次の中から1つ選んで番号に○印をつけてください。

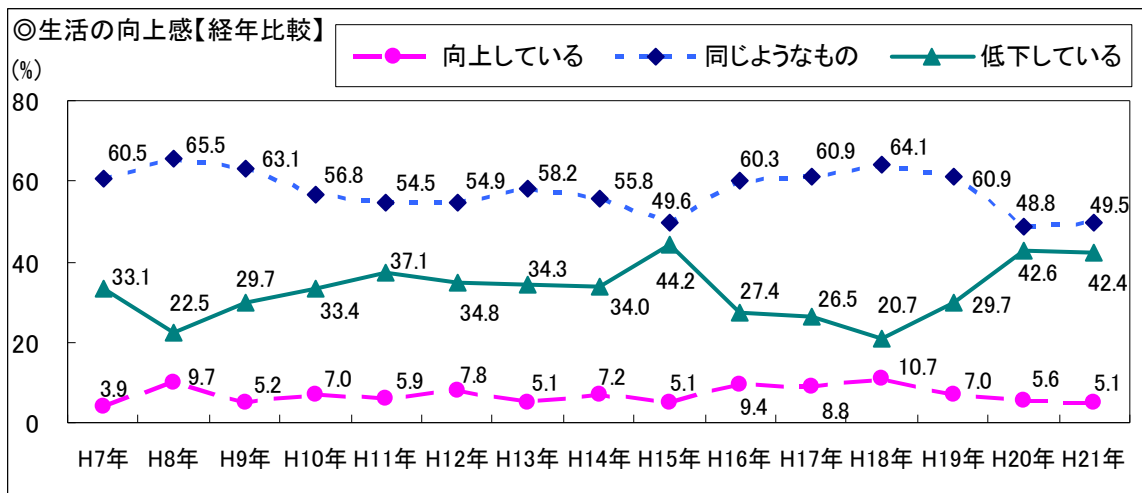
- | | |
|----------|-----------|
| 1 向上している | 2 同じようなもの |
| 3 低下している | 4 わからない |

○ 「同じようなもの」(49.5%)が半数近いが、「低下している」(42.4%)も4割を超えており、「向上している」(5.1%)は1割未満である。



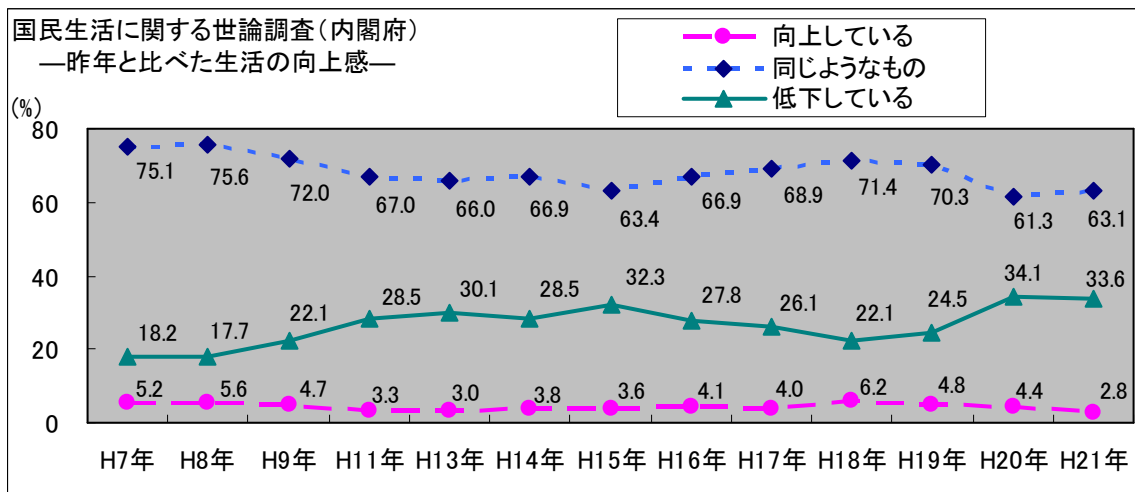
◆経年比較

○ 前年度調査結果と比べると、「向上している」、「低下している」が0.5ポイント(5.6%→5.1%)、0.2ポイント(42.6%→42.4%)それぞれ減少し、「同じようなもの」が0.7ポイント(48.8%→49.5%)と増加している。



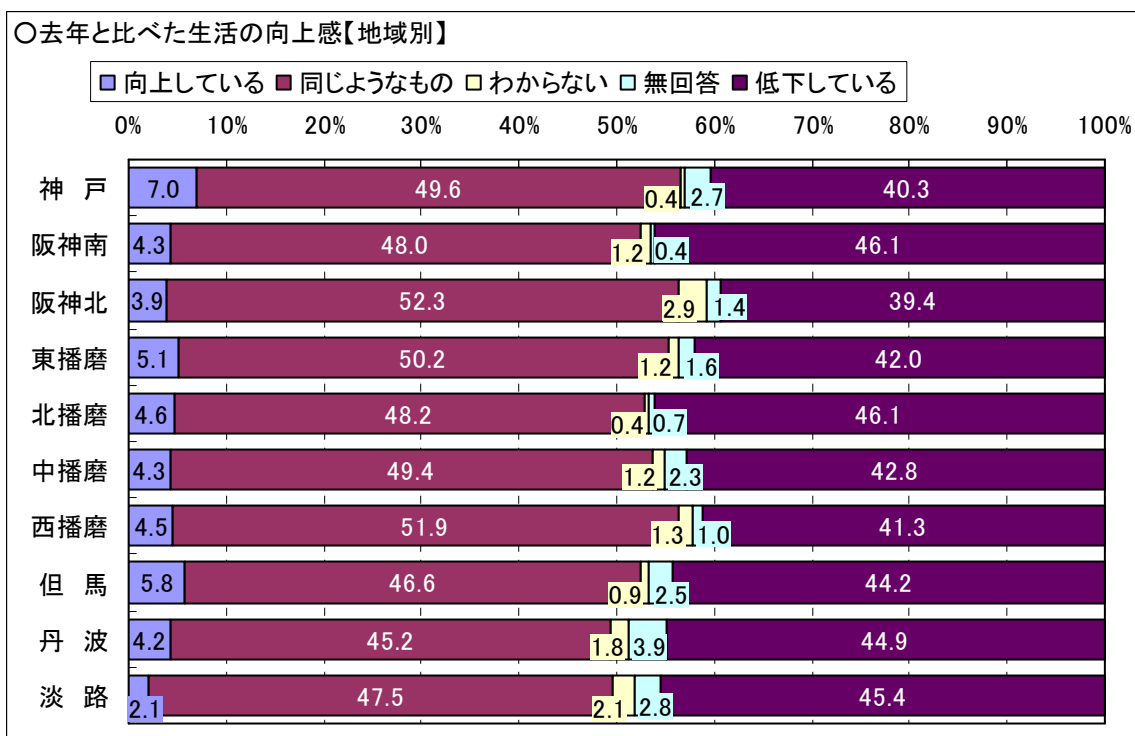
【参考：平成 21 年の全国調査】

- 内閣府が実施（平成 9～13 年は隔年実施）している「国民生活に関する世論調査」では、「同じようなもの」(63.1%)が 6 割強、「低下している」(33.6%)が 3 割強、「向上している」(2.8%)が 1 割未満となっている。前年より「向上している」(-1.6ポイント)や「低下している」(-0.5ポイント)が減少し、「同じようなもの」(+1.8ポイント)が増えており、増減幅は本県調査結果の方が小さいが、同様の傾向を示している。



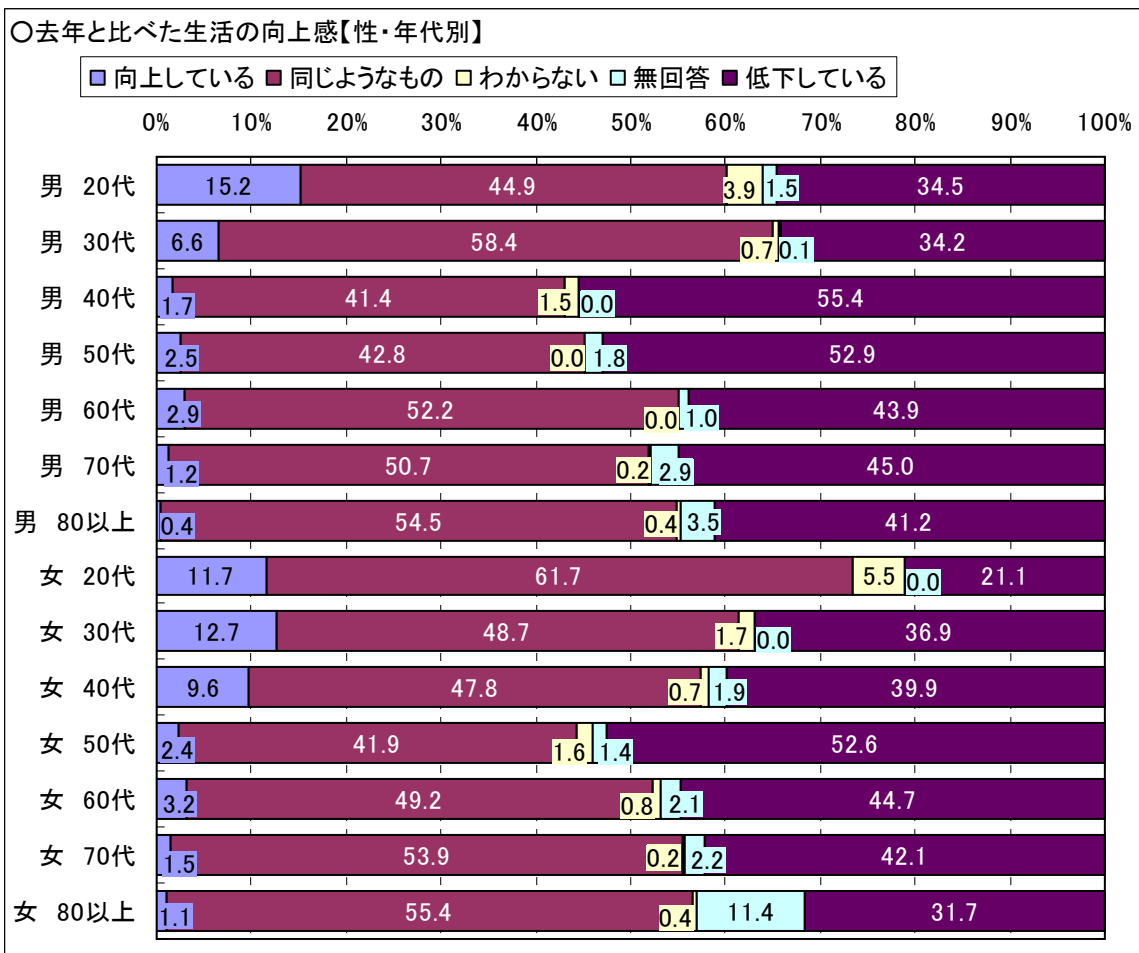
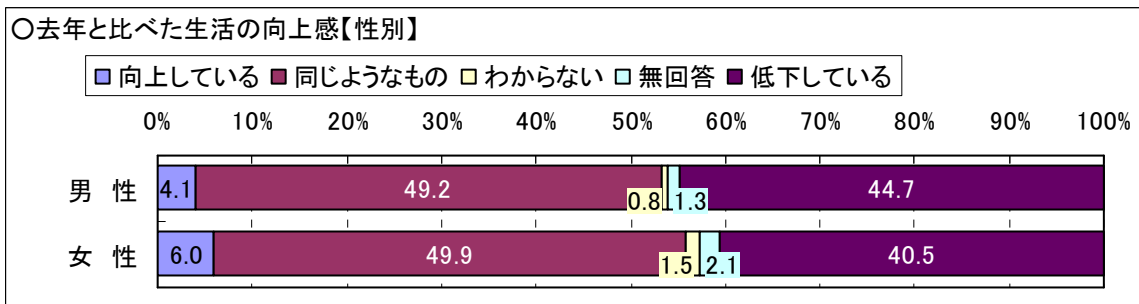
◆地域別

- 「向上している」は、最も多い神戸(7.0%)も含め、いずれの地域も 1 割未満である。一方、「低下している」は、阪神南、北播磨(ともに 46.1%)で最も多く、阪神北(39.4%)で最も少ないが、6.7ポイントの差に止まっている。



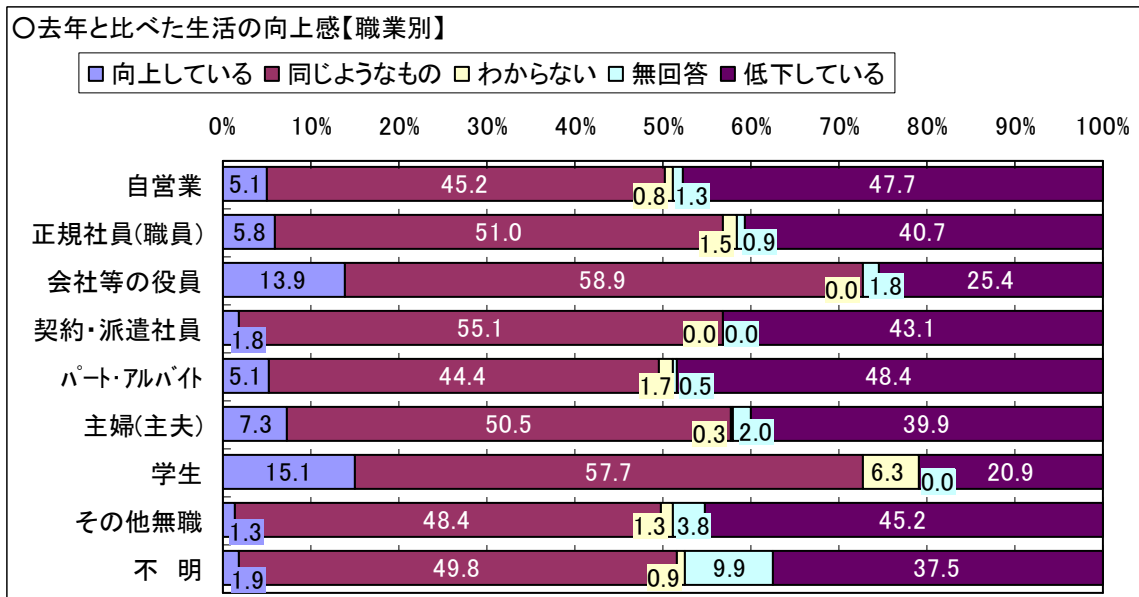
◆性別／性・年代別

- 性別で見ると、「低下している」が、男性(男 44.7%、女 40.5%)でやや多い程度で、男女で特段の差はない。
- 性・年代別で見ると、男性では、「向上している」は、20代(15.2%)では1割台半ばあるが、30代で6.6%と減少し、40代以降ではわずかである。「低下している」は、40代(55.4%)、50代(52.9%)では5割を超えているが、20代(34.5%)、30代(34.2%)では3割台半ばに止まる。
- 女性では、「向上している」は、20～40代で1割前後あるが、50代以降ではわずかである。「低下している」は、20代(21.1%)で2割、80歳以上(31.7%)で3割と少ないが、50代(52.6%)では5割を超えている。



◆職業別

- 職業別でみると、「向上している」は、学生(15.1%)、会社等の役員(13.9%)で1割を超えるが、他は1割未満である。「低下している」は、パート・アルバイト(48.4%)、自営業(47.7%)で5割近くに及ぶ一方、学生(20.9%)、会社等の役員(25.4%)では2割台と少ない。



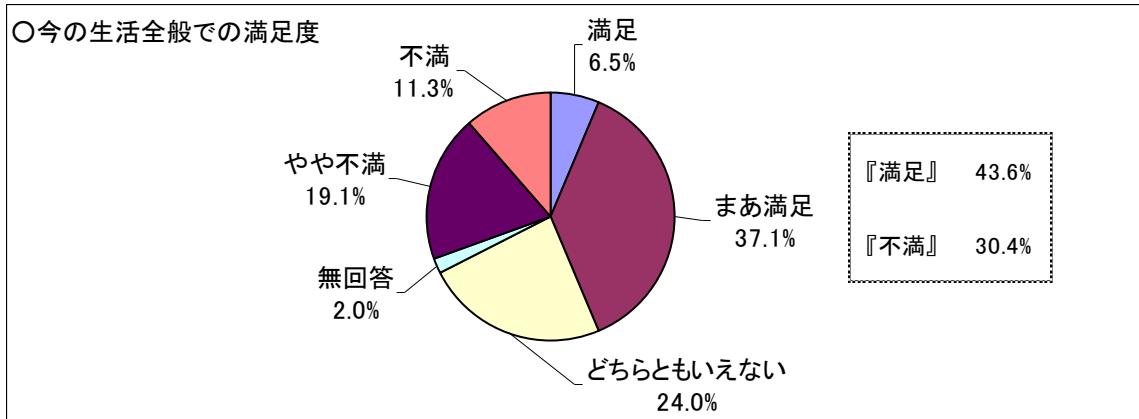
5 生活満足度について

(1) 今の生活全般での満足度

問 13 あなたは、全体として、今の生活にどの程度満足していますか。次の中から1つ選んで番号に○印をつけてください。

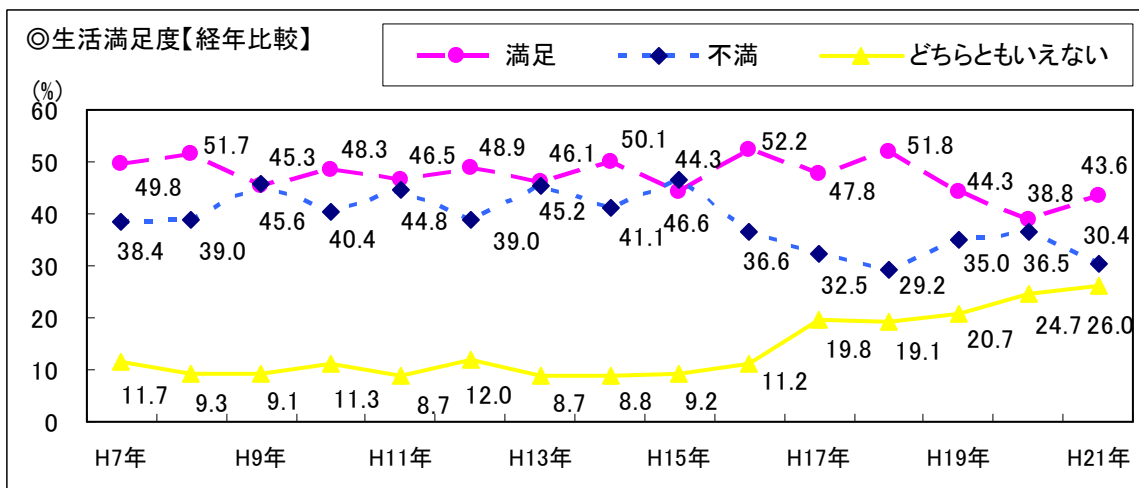
- | | | |
|--------|--------|-------------|
| 1 満足 | 2 まあ満足 | 3 どちらともいえない |
| 4 やや不満 | 5 不満 | |

- 生活全般に対する満足度では、『満足』（「満足」と「まあ満足」の合計 43.6%）が4割を超えており、『不満』（「不満」と「まあ不満」の合計 30.4%）を13.2ポイント上回っている。



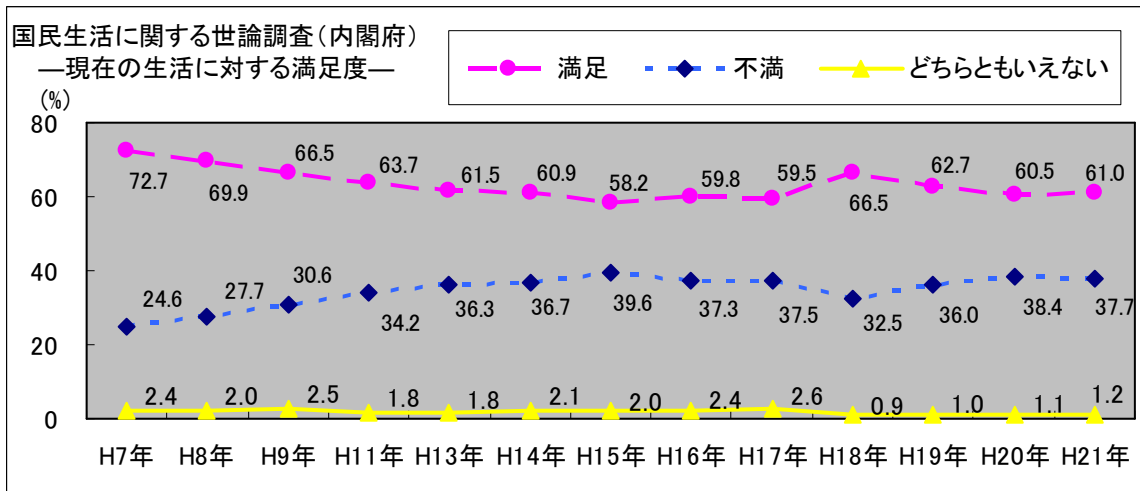
◆経年比較

- 『満足』は、過去最低の前年より4.8ポイント増加(38.8%→43.6%)したが、過去2番目に低い水準である。一方、『不満』は、前年より6.1ポイント減少(36.5%→30.4%)している。「どちらともいえない(無回答含む)」は、前年より1.3ポイント増加(24.7%→26.0%)し、過去最高となっている。



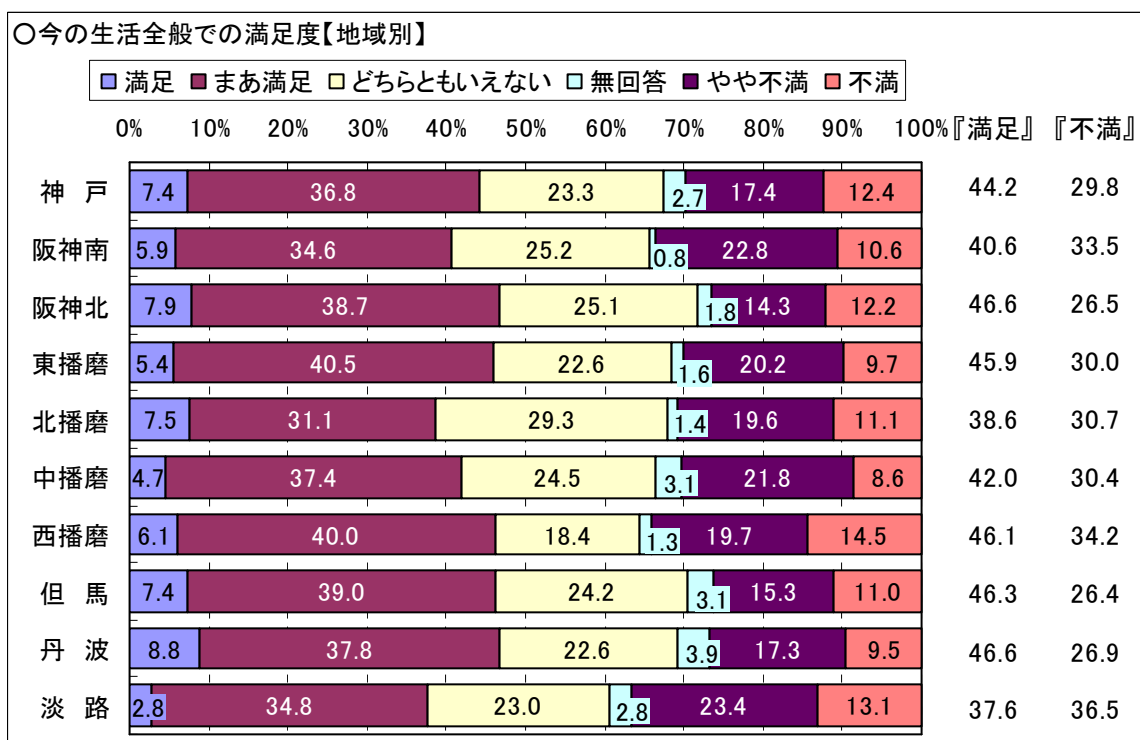
【参考:平成 21 年の全国調査】

- 内閣府が毎年(平成 9～13 年は隔年)実施している「国民生活に関する世論調査」では、『満足』(「満足している」と「まあ満足している」の合計)が増加に転じ、『不満』(「不満だ」と「やや不満だ」の合計)が減少に転じており、増減幅は本県調査結果の方が大きい、同様の傾向を示している。



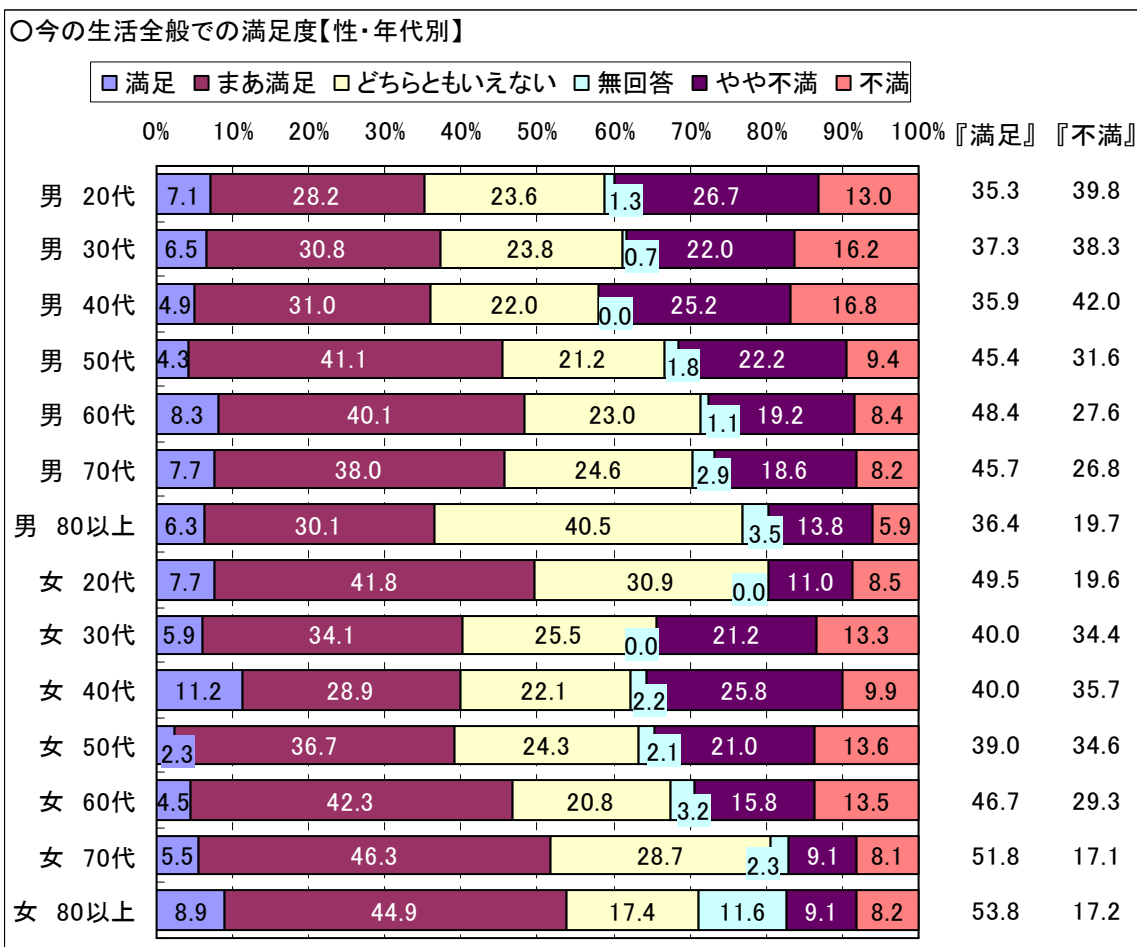
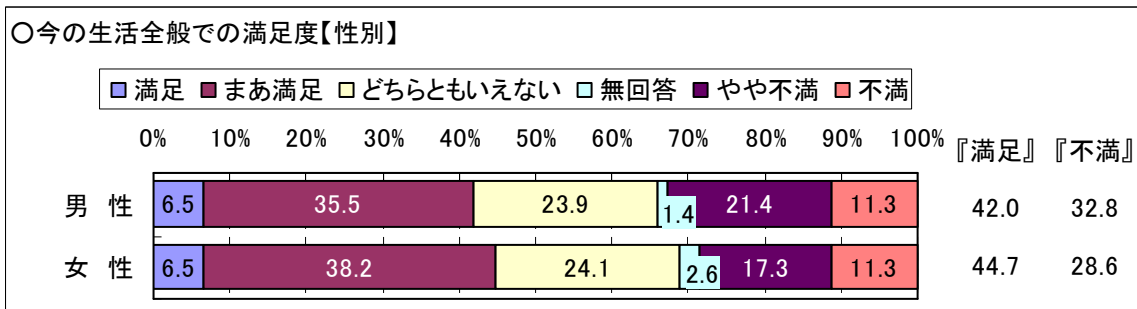
◆地域別

- 『満足』は、4割台半ばを超える地域が阪神北、丹波(ともに 46.6%)など半数ある中、淡路(37.6%)と北播磨(38.6%)では3割台に止まっている。
- 一方、『不満』は、淡路(36.5%)、中播磨(30.4%)、阪神南(33.5%)などで多く、但馬(26.4%)、阪神北(26.5%)、丹波(26.9%)で少なくなっている。
- いずれの地域も『満足』が『不満』を上回るが、阪神北(20.1ポイント)、但馬(19.9ポイント)、丹波(19.7ポイント)では約 20ポイント上回るものの、淡路(1.1ポイント)、阪神南(7.1ポイント)、北播磨(7.9ポイント)では10ポイント未満とその差は小さくなっている。



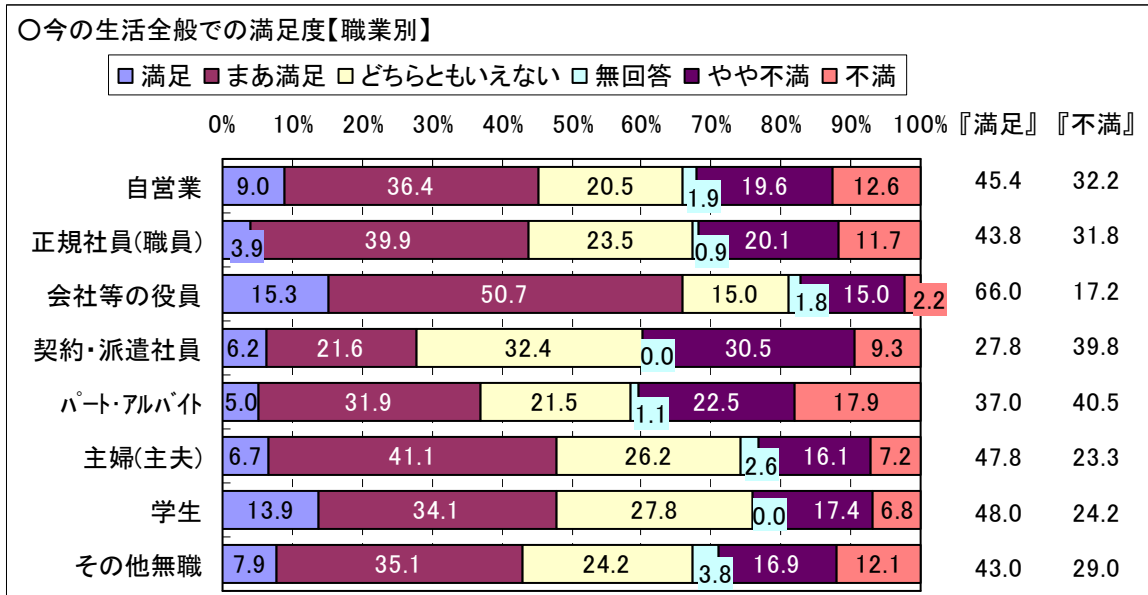
◆性別／性・年代別

- 性別では、『満足』は男性(42.0%)より女性(44.7%)でやや多く、『不満』は女性(28.6%)より男性(32.8%)で多くなっている。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は50～70代で4割台半ばを超えるが、他の年代は3割台後半に止まる。『不満』は、40代(42.0%)、20代(39.8%)、30代(38.3%)で多く、80歳以上(19.7%)、70代(26.8%)、60代(27.6%)で少なくなっている。
- 女性では、『満足』は70代以上で5割を超えるが、30～50代では約4割と少ない。一方、『不満』は30～50代で3割台半ばと多いが、20代と70代以上では2割未満と少なくなっている。
- 『不満』が『満足』を上回っているのは、男性の20～40代である。



◆職業別

- 職業別でみると、『満足』は、会社等の役員(66.0%)で6割を超え、4割台の職業が多い中、パート・アルバイト(37.0%)で3割台、契約・派遣社員(27.8%)では2割台に止まる。
一方、『不満』は、パート・アルバイト(40.5%)、契約・派遣社員(39.8%)で4割前後であるが、会社等の役員(17.2%)では1割台に止まる。
- 『不満』が『満足』を上回っているのは、契約・派遣社員とパート・アルバイトのみである。



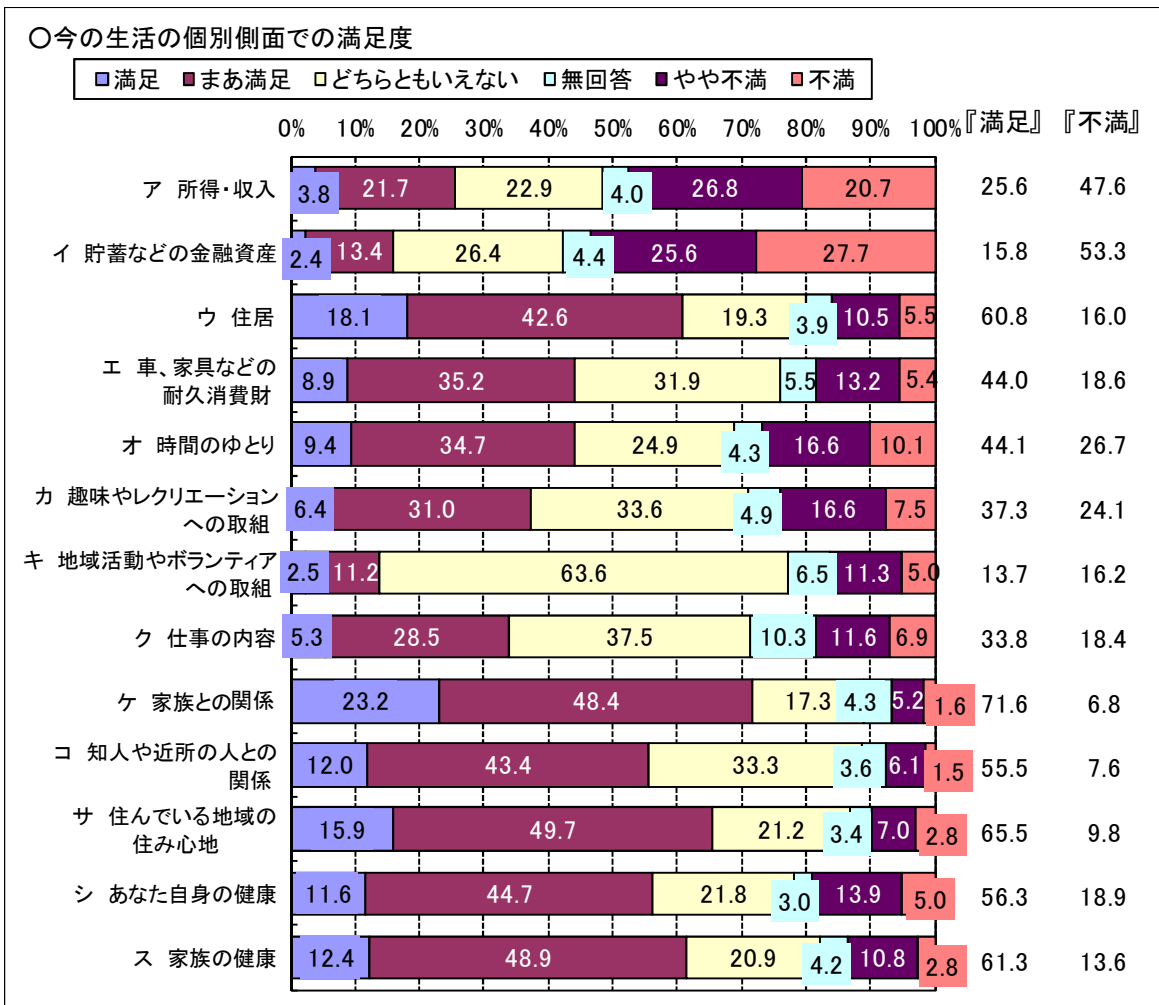
(2) 今の生活の個別側面での満足度

問 14 あなたは、今の生活の次のような面ではそれぞれの程度満足していますか。ア～スの項目それぞれで1つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ア 所得・収入 | イ 貯蓄などの金融資産 |
| ウ 住居 | エ 車、家具などの耐久消費財 |
| オ 時間のゆとり | カ 趣味やレクリエーションへの取組 |
| キ 地域活動やボランティアへの取組 | ク 仕事の内容 |
| ケ 家族との関係 | コ 知人や近所の人との関係 |
| サ 住んでいる地域の住み心地 | シ あなた自身の健康 |
| ス 家族の健康 | |

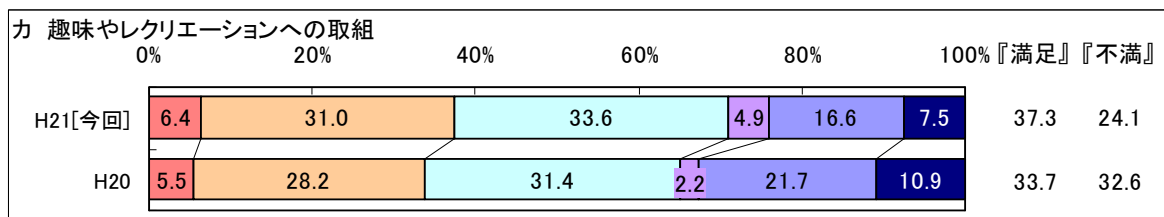
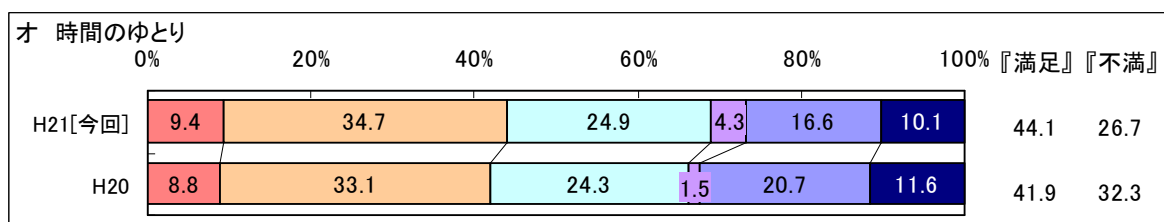
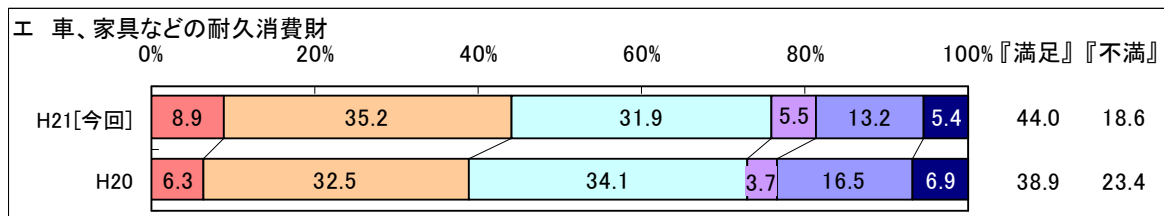
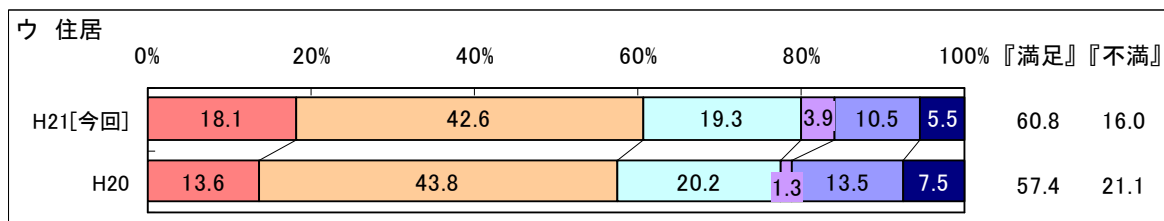
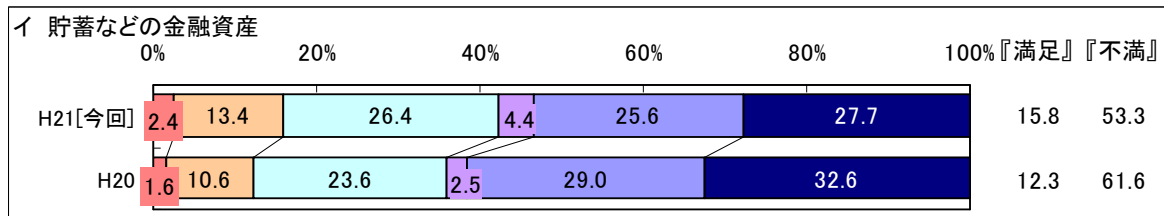
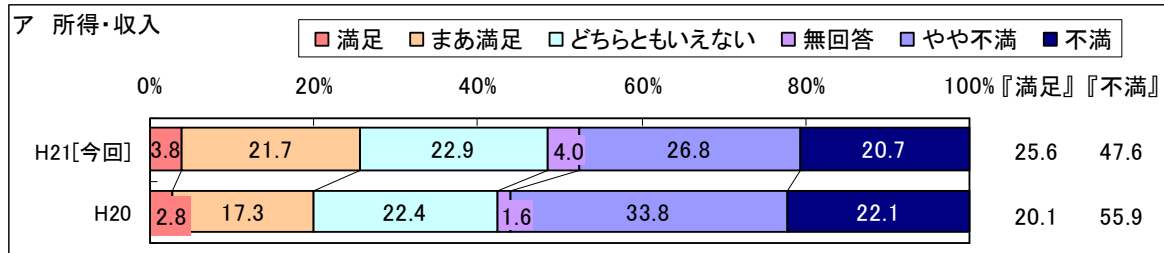
1：満足 2：まあ満足 3：どちらともいえない 4：やや不満 5：不満

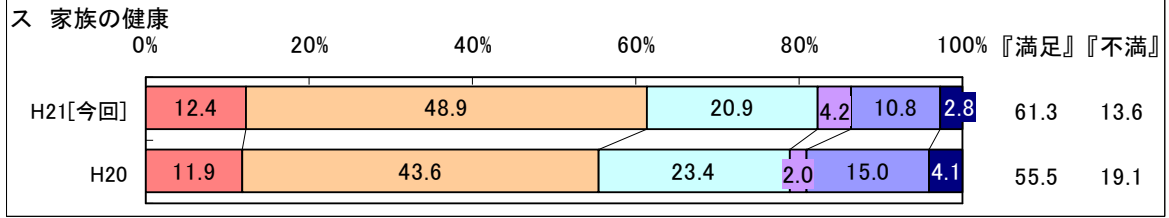
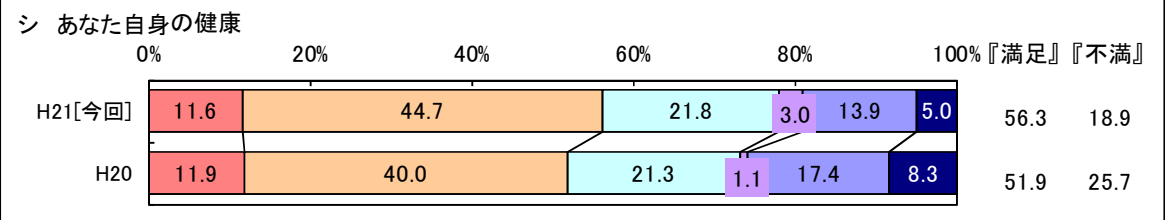
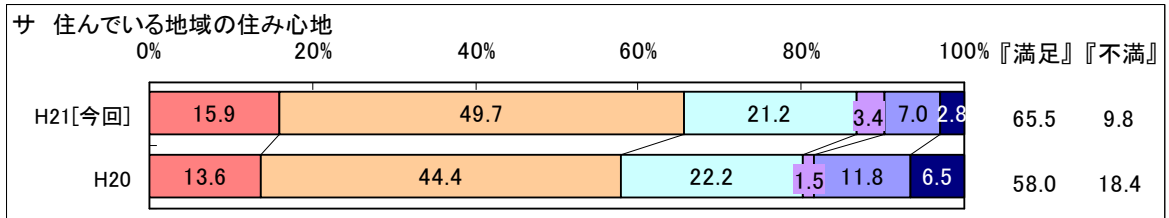
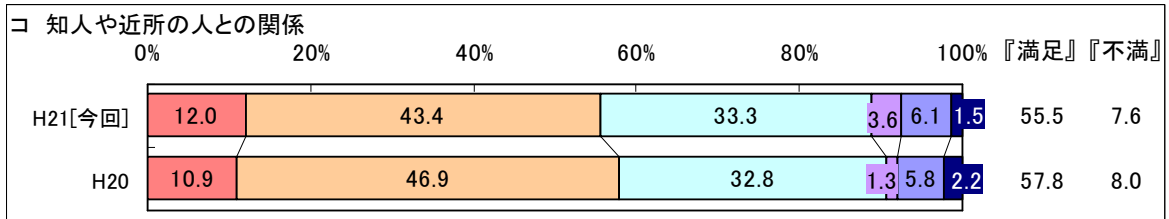
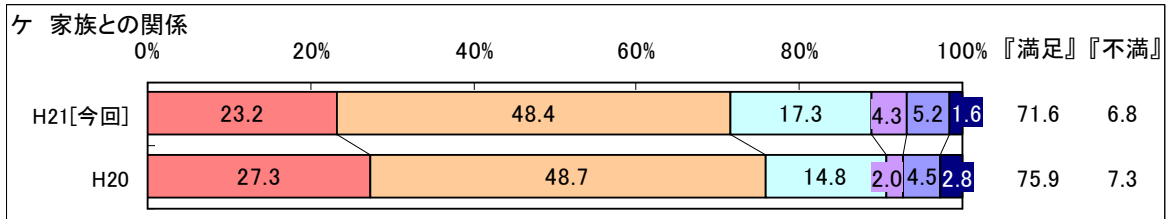
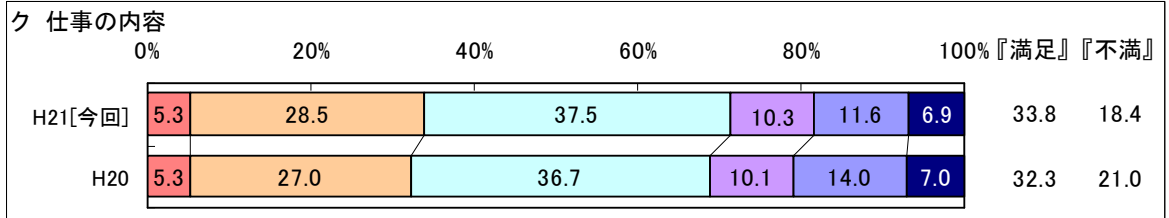
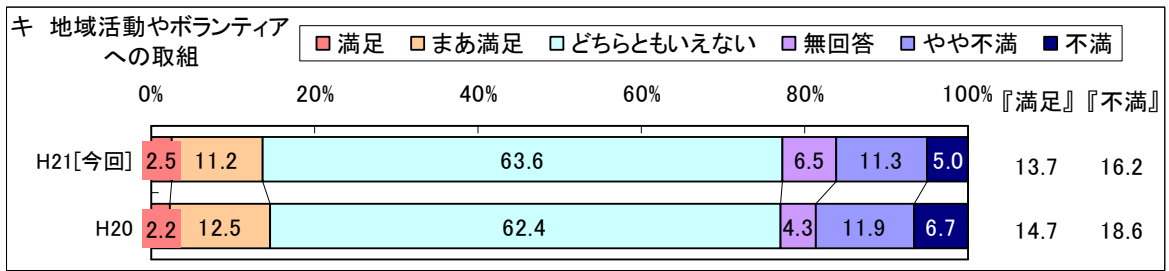
- 生活の個別側面で『満足』（「満足」と「まあ満足」の合計）が多いのは、「ケ 家族との関係」（71.6%）で7割台、「サ 住んでいる地域の住み心地」（65.5%）や「ス 家族の健康」（61.3%）、「ウ 住居」（60.8%）の3項目で6割台、「シ あなた自身の健康」（56.3%）、「コ 知人や近所の人との関係」（55.5%）の2項目で5割台となっている。一方、「ア 所得・収入」（25.6%）で2割台、「キ 地域活動やボランティアへの取組」（13.7%）と「イ 貯蓄などの金融資産」（15.8%）は1割台に止まっている。
- 『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）は、「イ 貯蓄などの金融資産」（53.3%）と「ア 所得・収入」（47.6%）で5割前後あるが、他の11項目では3割を下回っており、『不満』が『満足』を上回っているのは、「ア 所得・収入」、「イ 貯蓄などの金融資産」の2項目である。
- また、「どちらともいえない」は、「キ 地域活動やボランティアへの取組」（63.6%）で6割を超えており、これと「ク 仕事の内容」（37.5%）の2項目では、「どちらともいえない」が『満足』や『不満』を上回っている。



◆平成 20 年調査との比較

- 平成 20 年に本県が実施した県民意識調査での結果と比較すると、全体的に『満足』が増加し、『不満』が減少する傾向となっており、増減幅が最も大きいのは、『満足』、『不満』とも「サ 住んでいる地域の住み心地」で、『満足』で 7.5 ポイント増加(58.0%→65.5%)、『不満』(18.4%→9.8%)で 8.6 ポイント減少している。ただ、「キ 地域活動やボランティアへの取組」、「ケ 家族との関係」、「コ 知人や近所の人との関係」の 3 項目は、前回より『不満』は減少しているが、『満足』も減少している。

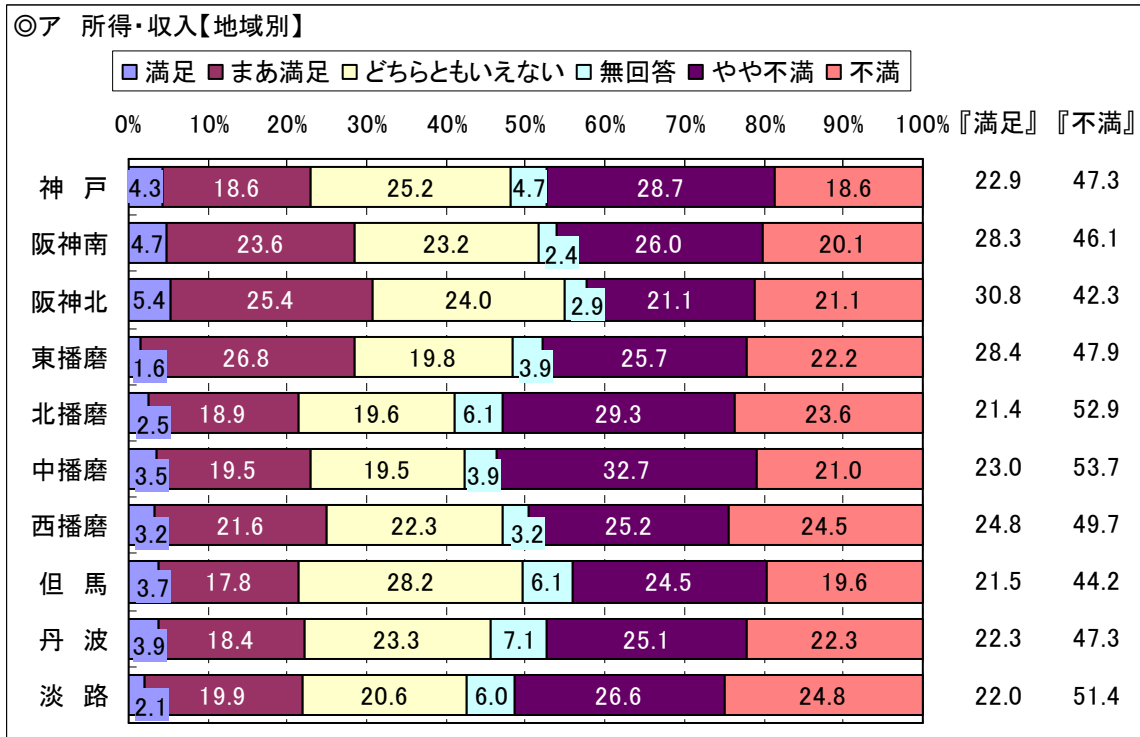




◎ア 所得・収入

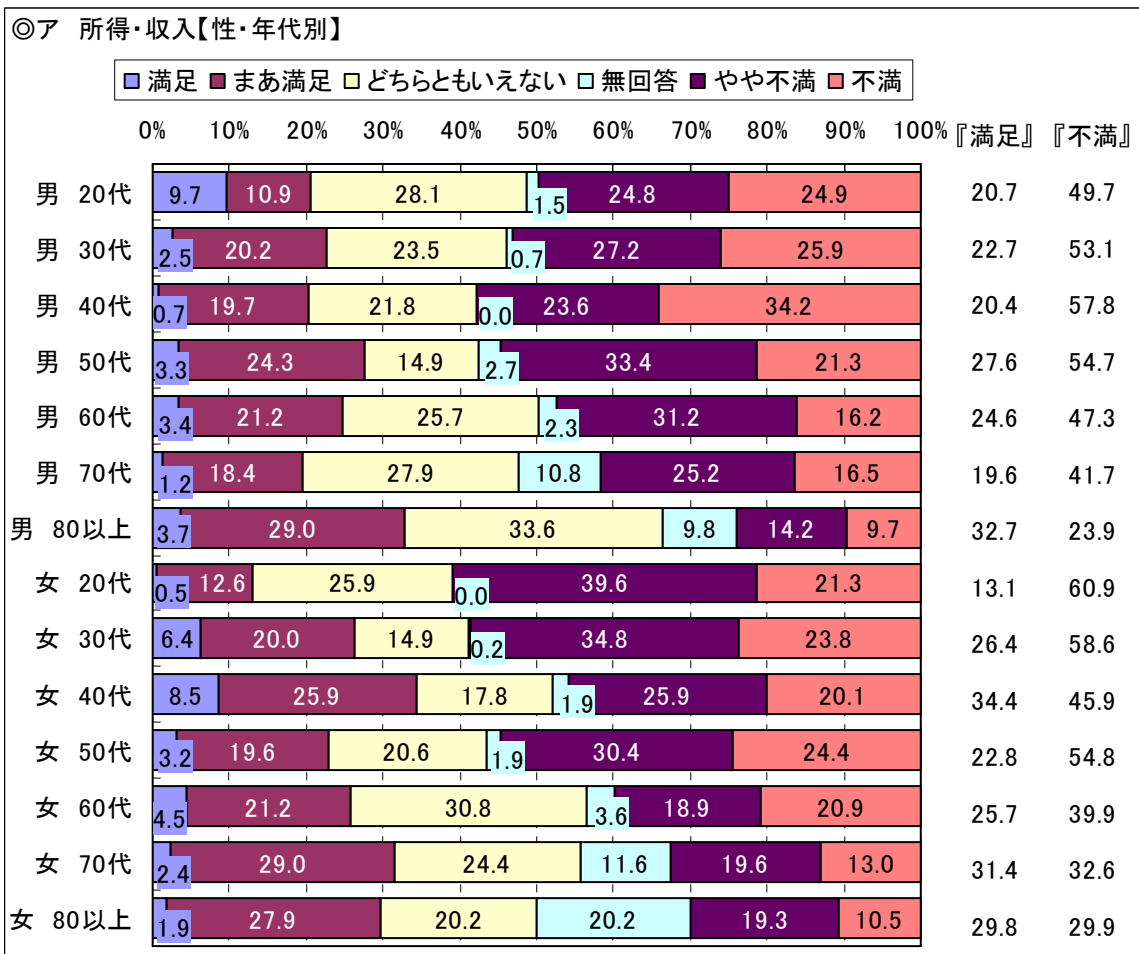
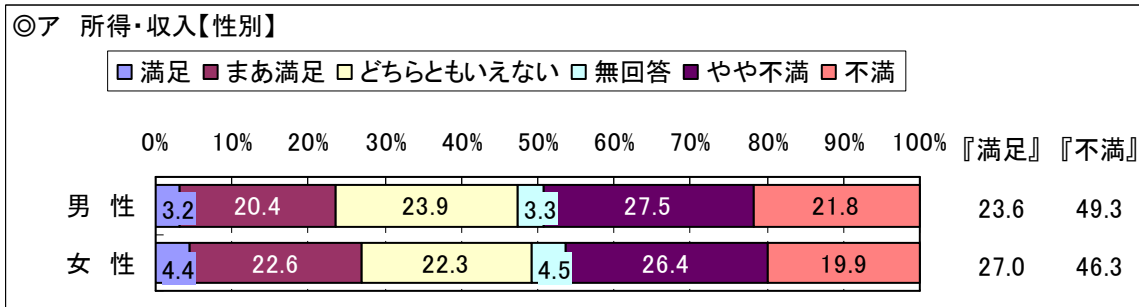
◆地域別

- 『満足』は、阪神北(30.8%)、東播磨(28.4%)、阪神南(28.3%)で3割前後だが、他の7地域では2割台前半となっている。
- 『不満』は、北播磨(52.9%)、中播磨(53.7%)、淡路(51.4%)で5割を超え、他の7地域ではいずれも4割台である。



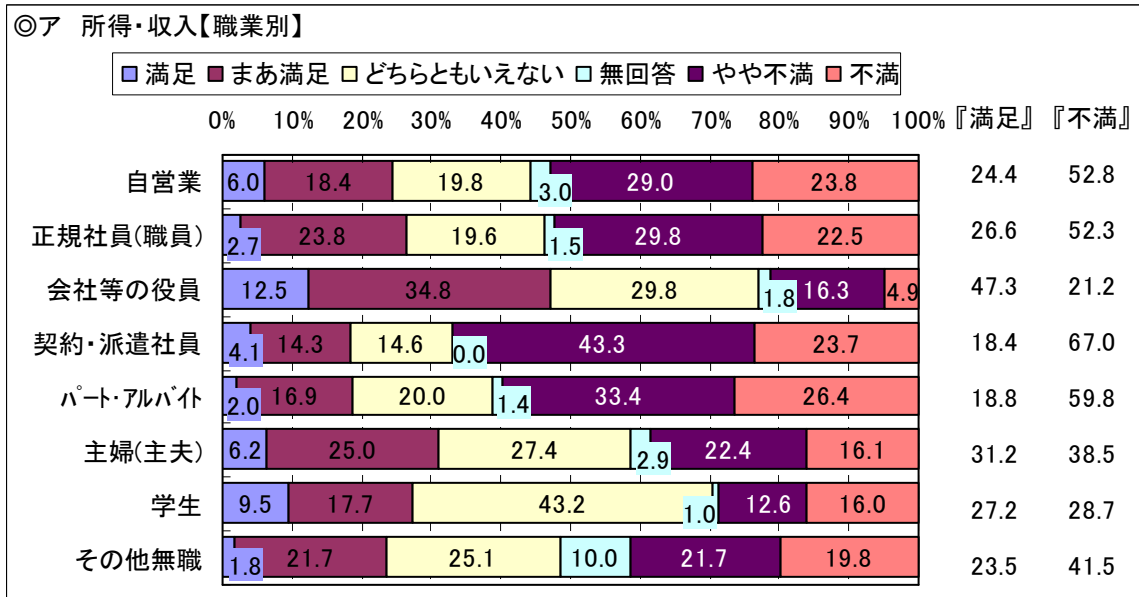
◆性別／性・年代別

- 性別で見ると、『満足』は男性(23.6%)より女性(27.0%)でやや多く、『不満』は女性(46.3%)より男性(49.3%)でやや多い。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、2割前後の年代が多い中、50代(27.6%)で2割台後半に及び、80歳以上(32.7%)では3割を超えている。一方、『不満』は、最も多い40代(57.8%)を含め4～5割台の年代が多い中、80歳以上では2割台(23.9%)に止まっている。
- 女性では、『満足』は、40代(34.4%)と70代(31.4%)で3割を超えているが、20代(13.1%)では1割台前半と少ない。一方、『不満』は、20代(60.9%)で6割、30代(58.6%)と50代(54.8%)で5割を超えるが、70代(32.6%)と80歳以上(29.9%)で3割前後と少なくなっている。



◆職業別

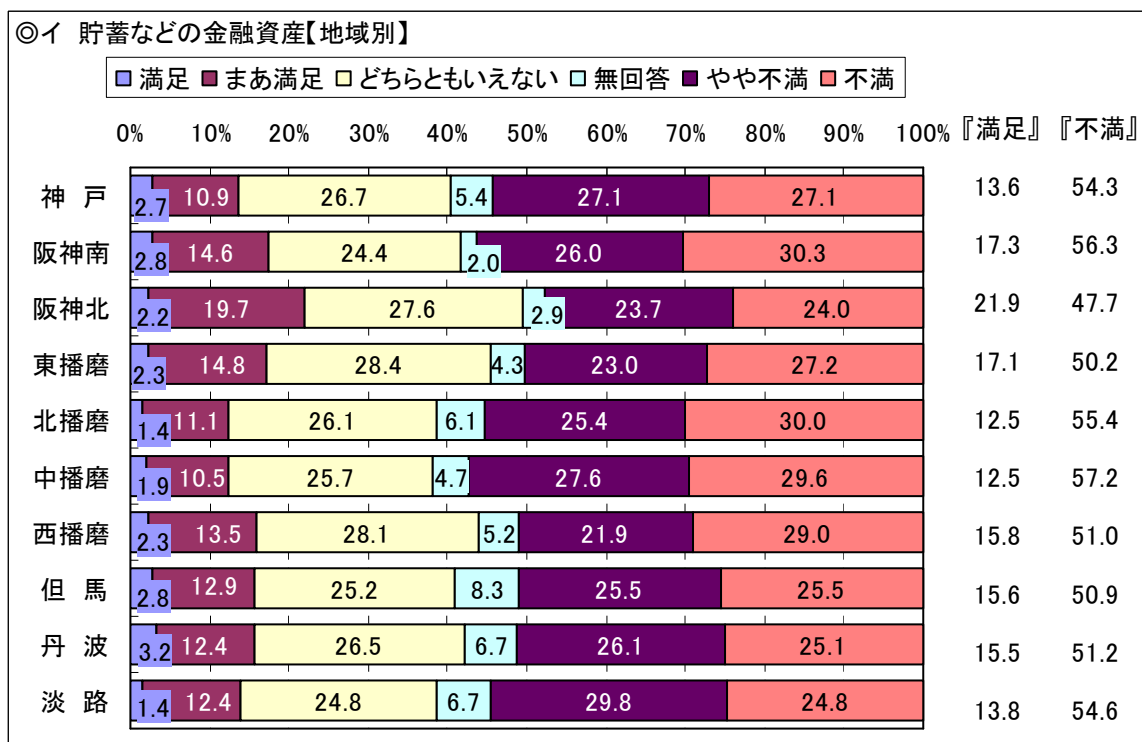
- 職業別でみると、会社等の役員のみ『満足』(47.3%)が『不満』(21.2%)を上回っている。一方、パート・アルバイトと契約・派遣社員で『満足』が1割台と少なく、『不満』が6割と多い。



◎イ 貯蓄などの金融資産

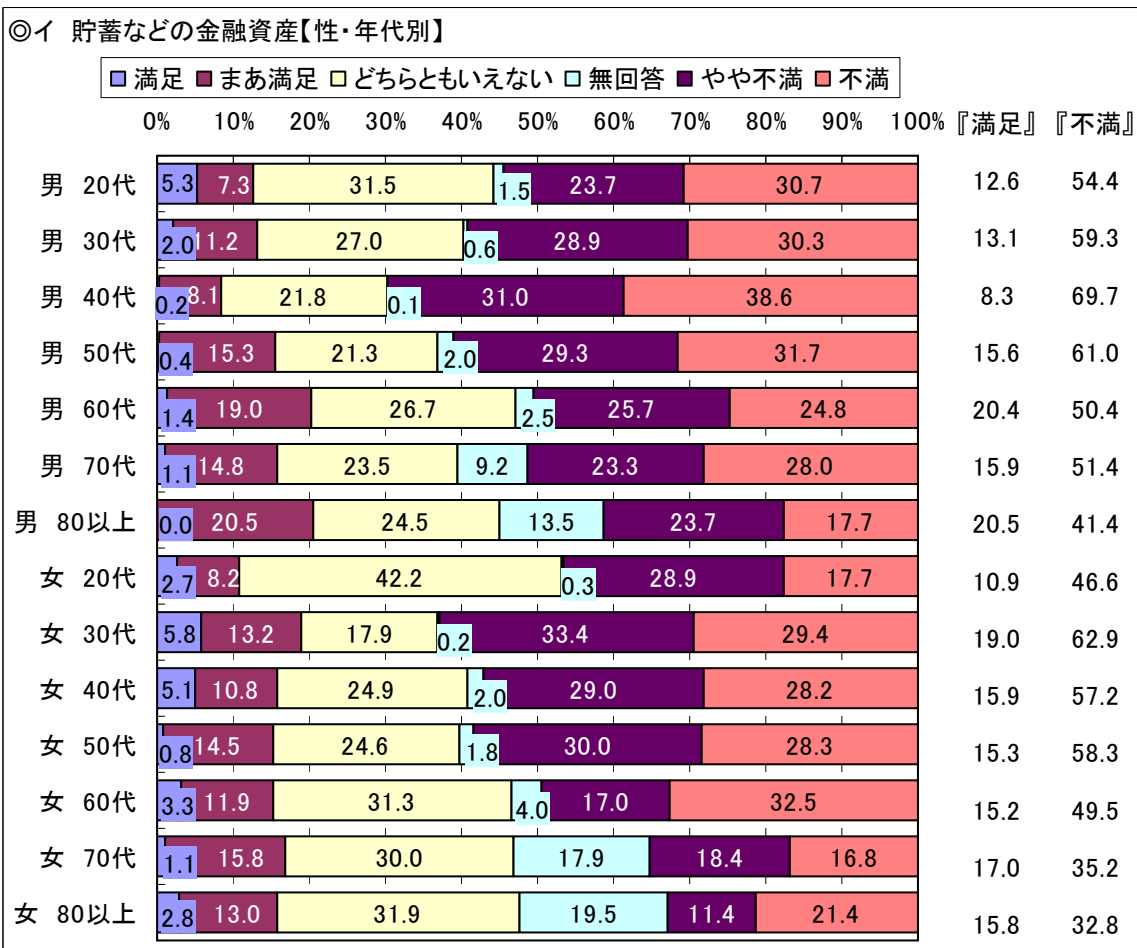
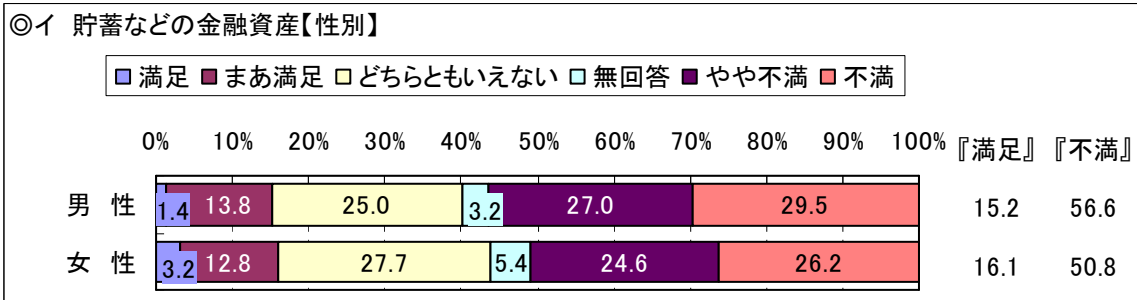
◆地域別

- 『満足』は阪神北(21.9%)で最も多く、北播磨と中播磨(ともに12.5%)で最も少ない。逆に、『不満』は中播磨(57.2%)で最も多く、阪神北(47.7%)で最も少ない。



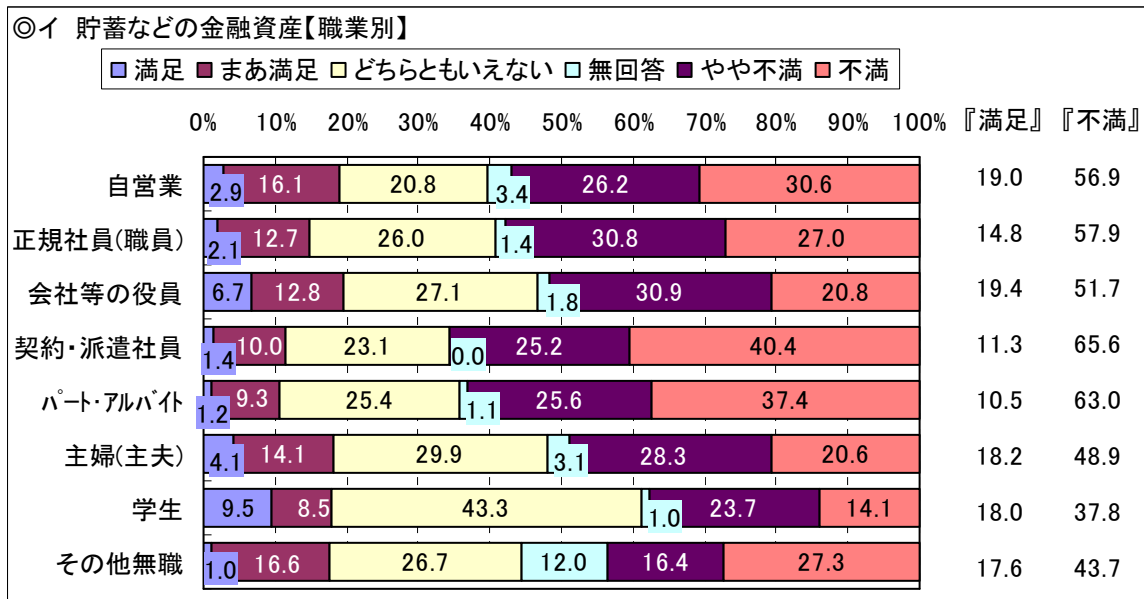
◆性別／性・年代別

- 性別では、『不満』が女性(50.8%)より男性(56.6%)でやや多い程度である。
- 性・年代別では、男性では、『満足』が80歳以上(20.5%)で最も多く、40代(8.3%)で最も少ない。逆に、『不満』は、40代(69.7%)で最も多く、80歳以上(41.4%)で最も少ない。一方、女性は、『満足』では、いずれの年代も年代間の差が10ポイント以内に止まっている。『不満』は、30～50代で6割前後あるが、70代(35.2%)と80歳以上(32.8%)では3割台に止まり、最も多い30代と最も少ない80歳以上では、30.1ポイントの差が生じている。



◆職業別

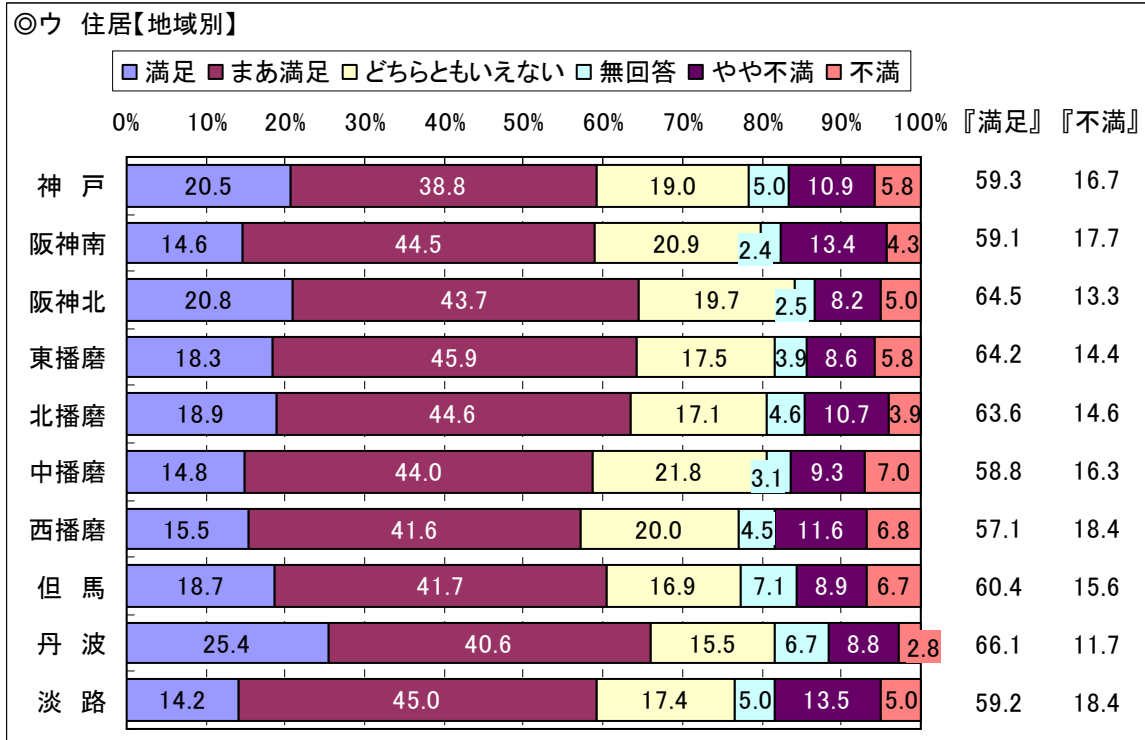
- 職業別で見ると、『満足』は、パート・アルバイト(10.5%)と契約・派遣社員(11.3%)で約1割と他の職業(概ね1割台後半)よりやや少なく、逆に、『不満』は、6割台(パート・アルバイト63.0%、契約・派遣社員65.6%)と他の職業(3割台後半～5割台後半)より多くなっている。



◎ウ 住居

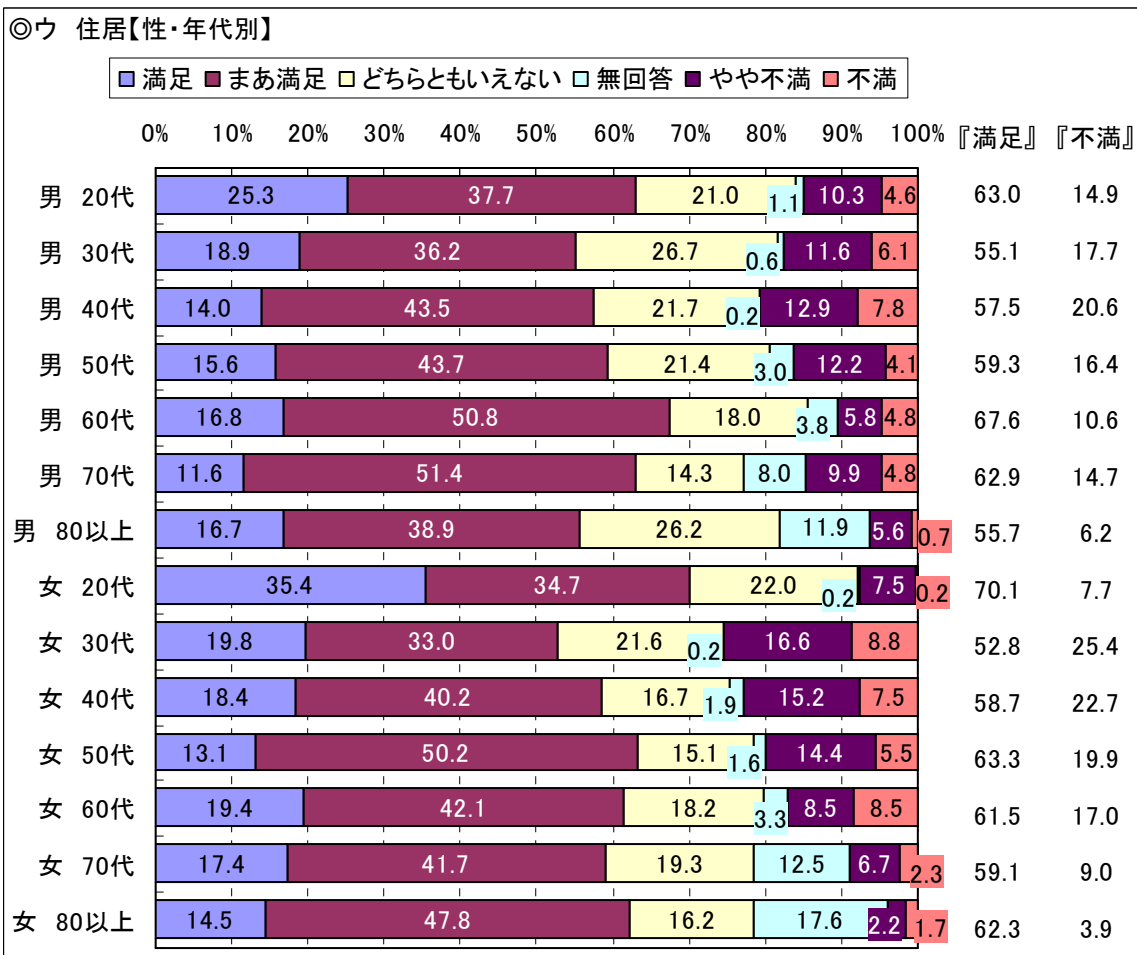
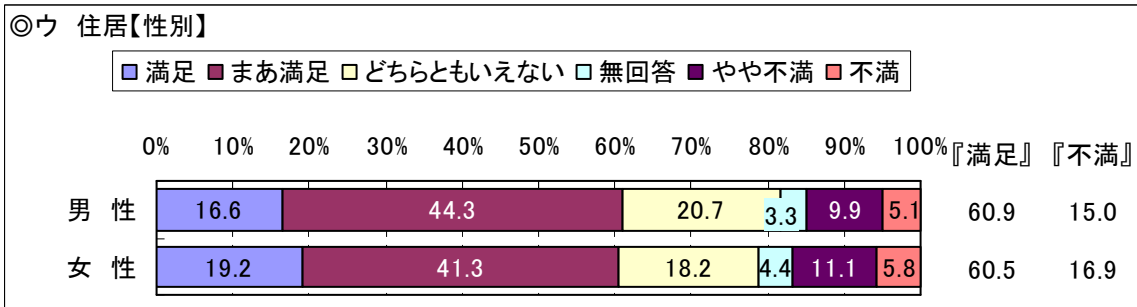
◆地域別

- 『満足』は丹波(66.1%)で最も多く、西播磨(57.1%)で最も少ない。『不満』は、西播磨と淡路(ともに18.4%)で最も多く、丹波(11.7%)で最も少ないが、『満足』、『不満』とも、10ポイントを超える地域差は生じていない。



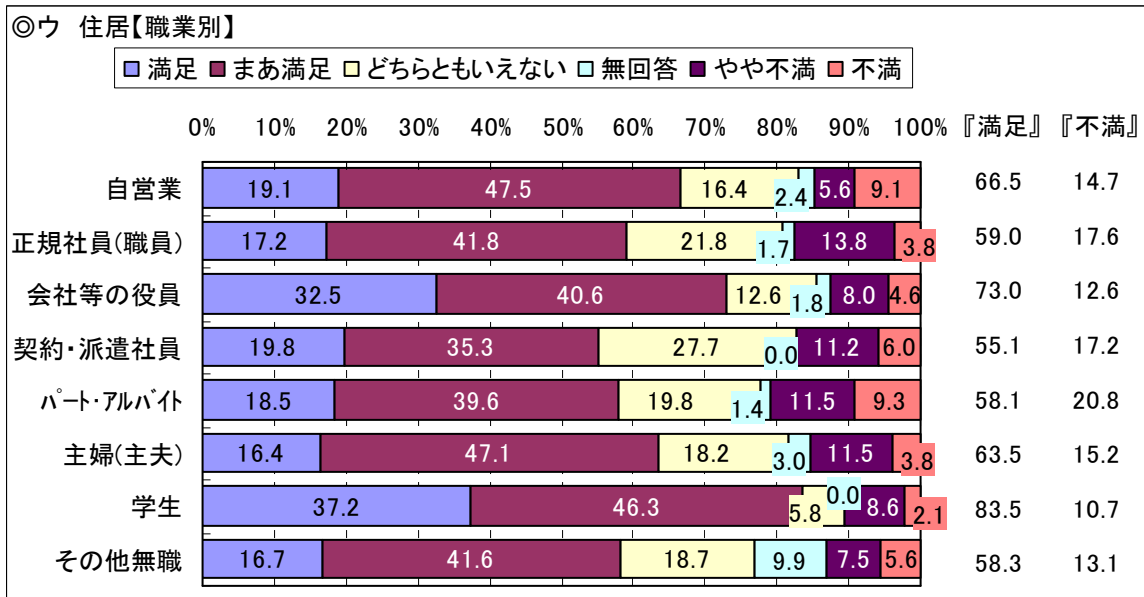
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、男性では、『満足』は、60代(67.6%)で6割台半ばを超えるが、30代(55.1%)と80歳以上(55.7%)では5割台半ばに止まる。『不満』は、40代(20.6%)で2割に及ぶが、80歳以上(6.2%)では1割未満である。一方、女性では、『満足』は、40代以上で6割前後であるが、20代(70.1%)では7割に及び、30代(52.8%)では5割強に止まっている。『不満』は、30代(25.4%)と40代(22.7%)で2割を超える一方、20代(7.7%)、70代(9.0%)、80歳以上(3.9%)では1割を下回っている。



◆職業別

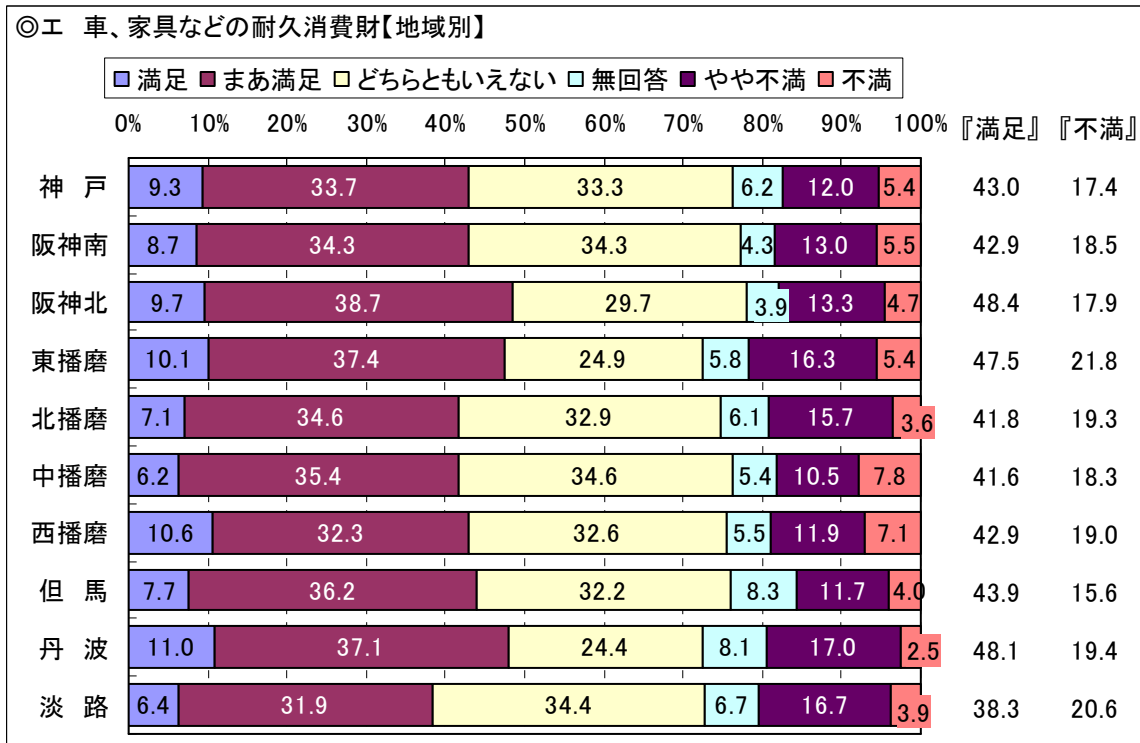
- 職業別でみると、『満足』は、多くの職業で6割前後となっている中、会社等の役員(73.0%)で7割を超え、学生(83.5%)では8割を超えている。
- 一方、『不満』は、パート・アルバイト(20.8%)のみ2割を超えている。



◎エ 車、家具などの耐久消費財

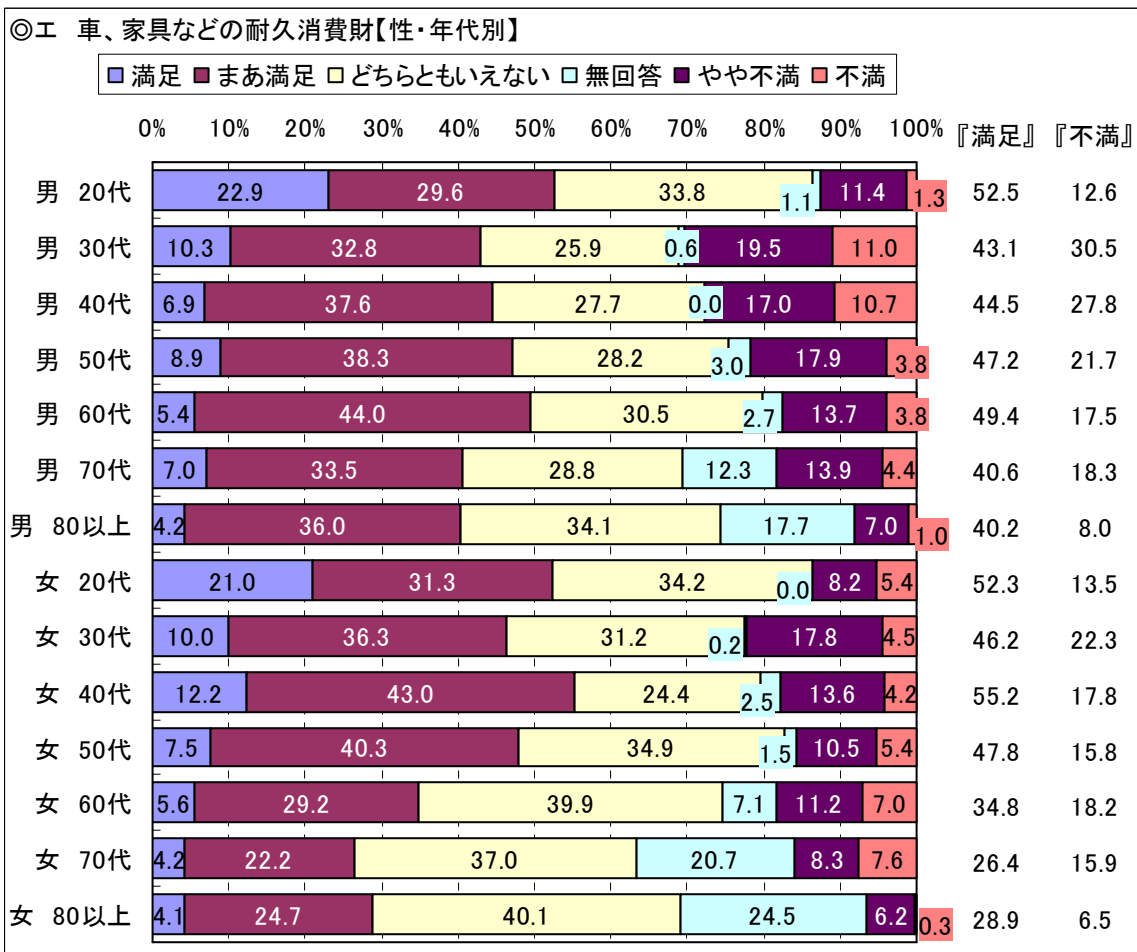
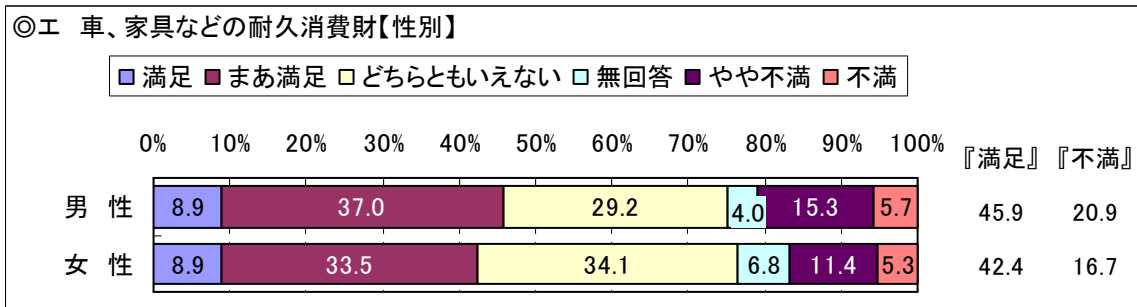
◆地域別

- 『満足』は、阪神北(48.4%)や東播磨(47.5%)など4割台の地域が多いが、淡路(38.3%)では3割台に止まっている。
- 一方、『不満』は、2割を超える東播磨(21.8%)や淡路(20.6%)など、いずれの地域も概ね2割前後だが、但馬(15.6%)では1割台半ばとやや少なくなっている。



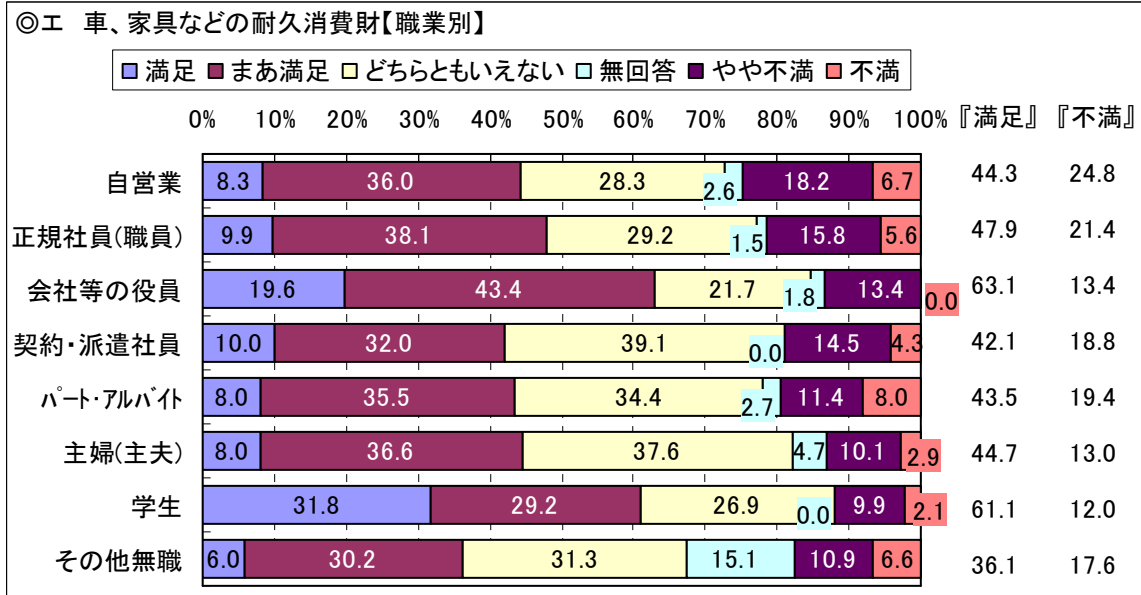
◆性別／性・年代別

- 性別では、『満足』(男 45.9%、女 42.4%)、『不満』(男 20.9%、女 16.7%)ともに、女性より男性でやや多い。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、20代(52.5%)と60代(49.4%)で5割前後であるが、70代(40.6%)と80歳以上(40.2%)では約4割と少ない。一方、『不満』は、30代(30.5%)、40代(27.8%)で3割前後と多いが、20代(12.6%)、80歳以上(8.0%)では1割前後と少なくなっている。
- 一方、女性では、『満足』は、20～50代で4割台後半～5割台半ばであるが、60代以上では、2割台後半～3割台半ばに止まっている。『不満』は、1割台が多いが、30代(22.3%)で2割を超える一方、80歳以上(6.5%)では1割未満となっている。



◆職業別

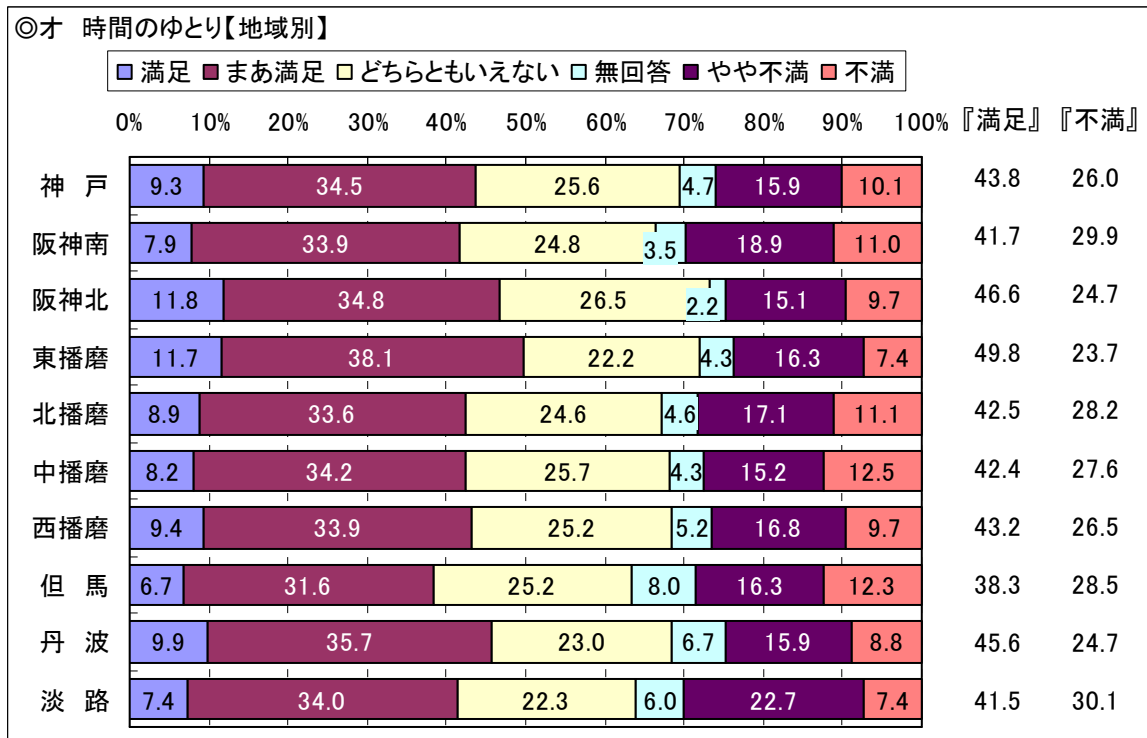
- 職業別でみると、『満足』は、会社等の役員(63.1%)と学生(61.1%)で6割を超えているが、他の職業では5割を下回り、その他無職(36.1%)では3割台半ばとなっている。
- 一方、『不満』は、1割台の職業が多いが、自営業(24.8%)と正規社員(職員)(21.4%)では2割を超えている。



◎オ 時間のゆとり

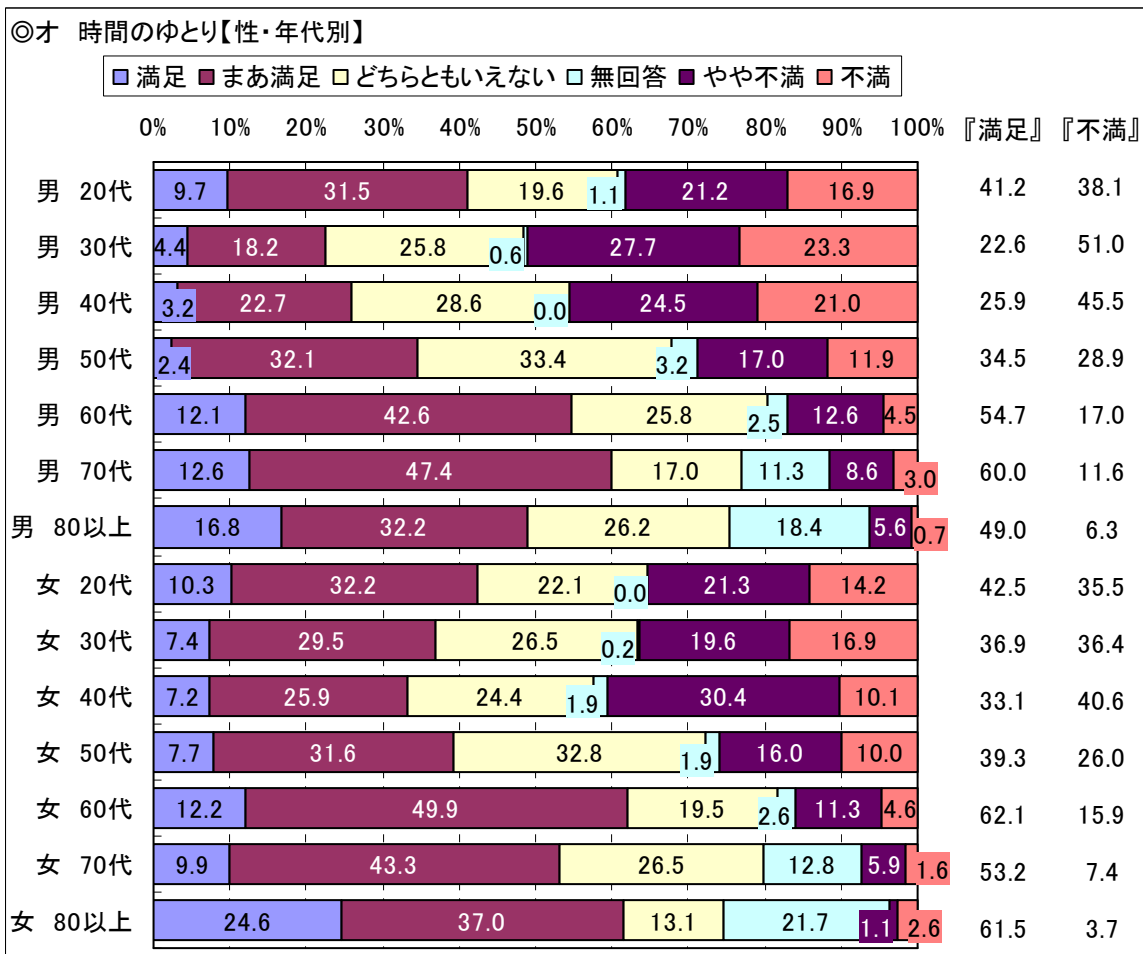
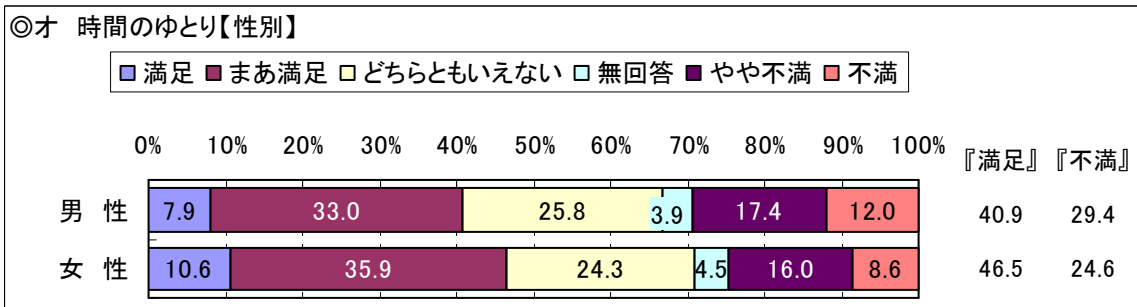
◆地域別

- 『満足』は、3割台の但馬(38.3%)を除き、いずれの地域も4割台である。
- 一方、『不満』は、最も多い淡路(30.1%)で3割だが、地域間で10ポイント以上の差は生じていない。



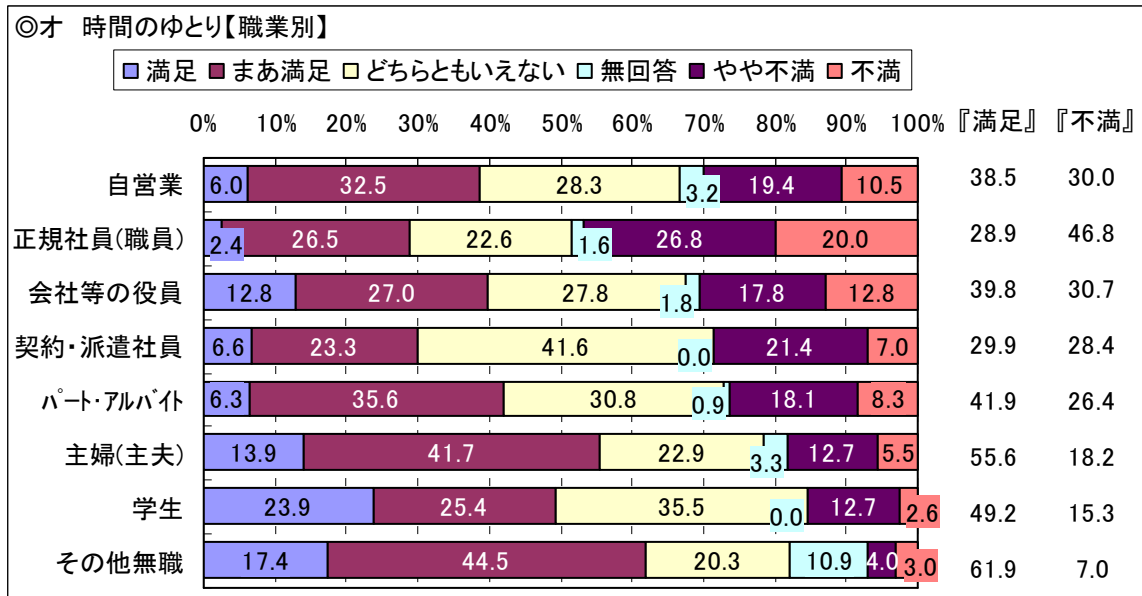
◆性別／性・年代別

- 性別では、『満足』は、男性(40.9%)より女性(46.5%)で多く、『不満』は、女性(24.6%)より男性(29.4%)が多い。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、70代(60.0%)と60代(54.7%)で5割を超えるが、30代(22.6%)と40代(25.9%)では2割台に止まる。また、『不満』が30代(51.0%)、40代(45.5%)では5割前後と多く、『不満』が『満足』を上回っている。
- 一方、女性では、『満足』は、60代以上で5割を超えるが、30～50代で3割台に止まる。『不満』は、40代(40.6%)で最も多く、40代のみ『不満』が『満足』を上回る。また、『不満』は、男性でも同じだが、60代以上で2割未満と少なくなっている。



◆職業別

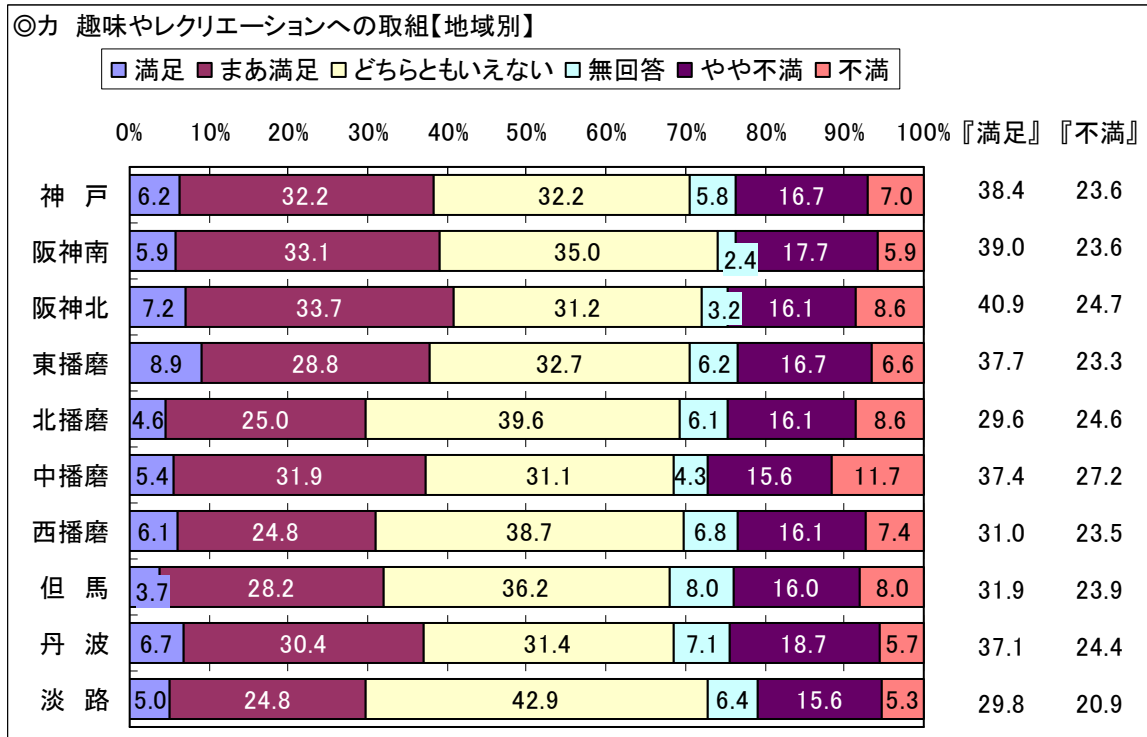
- 職業別でみると、『満足』は、その他無職(61.9%)で6割、主婦(主夫)(55.6%)で5割を超える一方、正規社員(職員)(28.9%)と契約・派遣社員(29.9%)で3割を下回る。
- 『不満』は、正規社員(職員)(46.8%)で4割台半ばを超えており、この職業のみ『不満』が『満足』を上回っている。



◎カ 趣味やレクリエーションへの取組

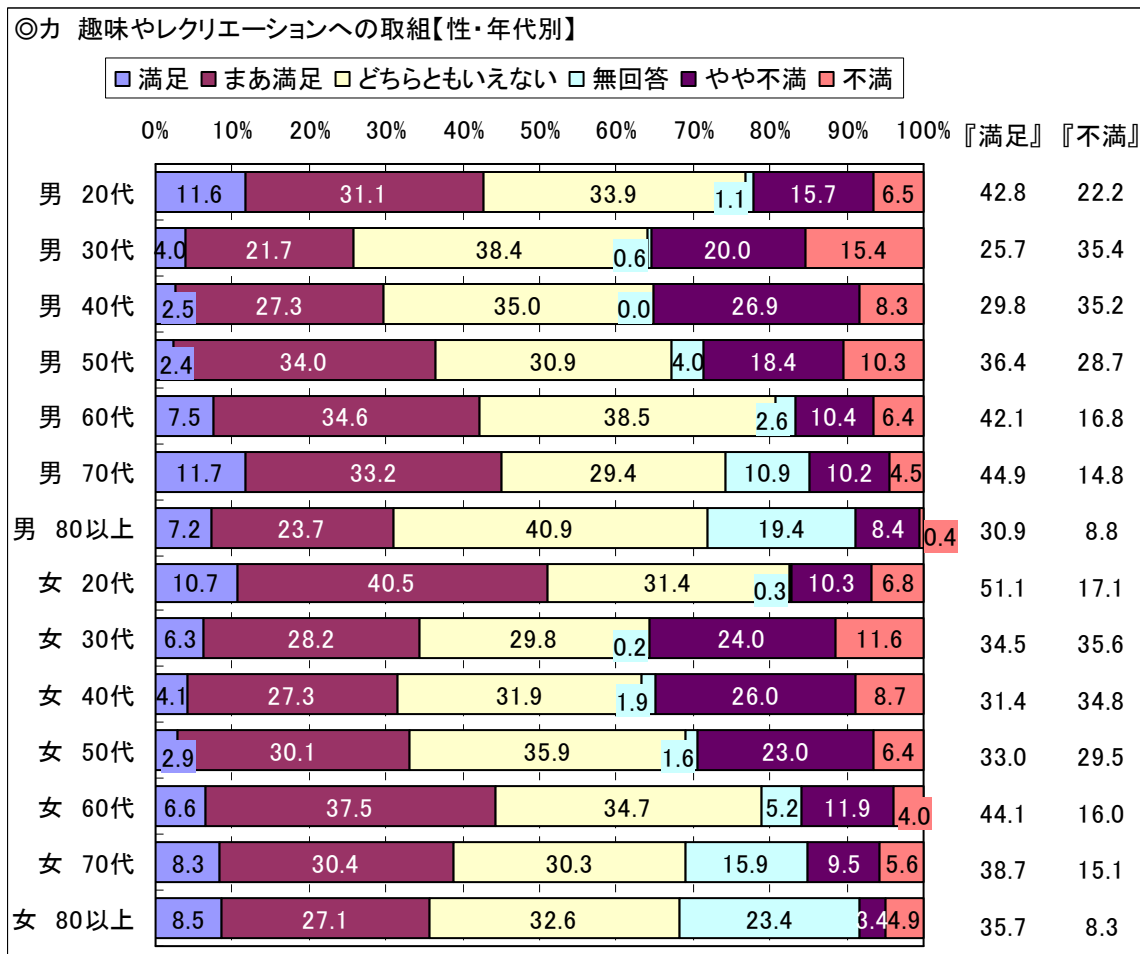
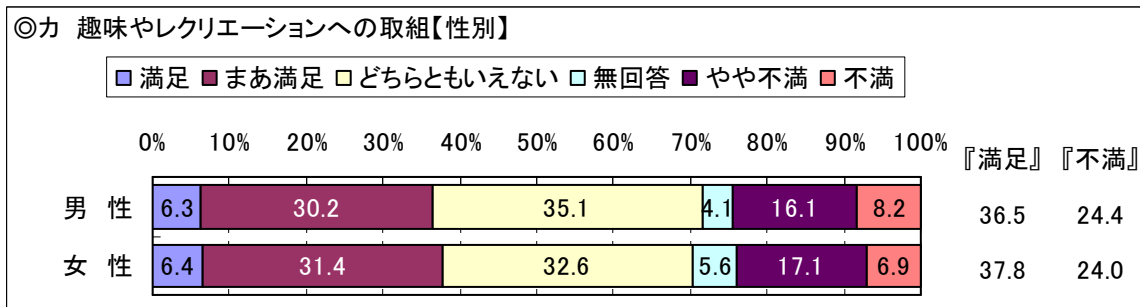
◆地域別

- 『満足』は、3割台の地域が多い中、阪神北(40.9%)で4割を超える一方、北播磨(29.6%)と淡路(29.8%)では3割を下回る。
- 一方、『不満』は、いずれの地域も2割台となっている。



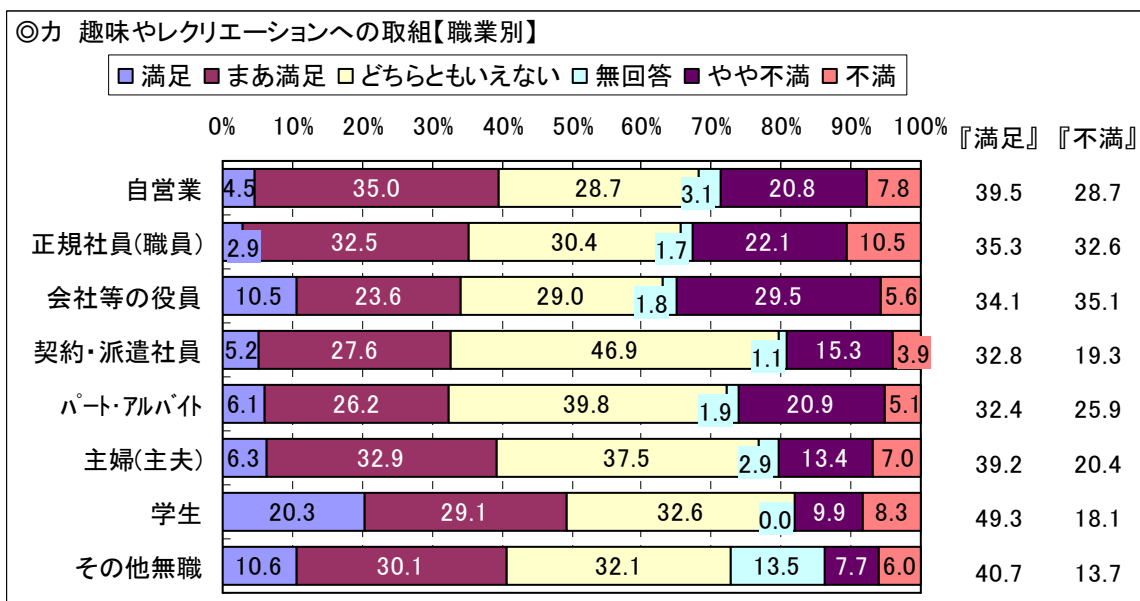
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差は生じていない。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、20代(42.8%)、60代(42.1%)、70代(44.9%)で4割を超えるが、30代(25.7%)、40代(29.8%)では、2割台に止まる。『不満』は、30代(35.4%)、40代(35.2%)で3割台半ばに及ぶが、60代(16.8%)、70代(14.8%)で1割台半ば、80歳以上(8.8%)では1割に満たない。また、30代と40代で『不満』が『満足』を上回る。
- 女性では、『満足』は、20代(51.1%)で5割強、60代(44.1%)で4割台半ばに及び、他の年代では3割台となっている。『不満』は、男性と同様に、30代(35.6%)、40代(34.8%)で3割台半ばと多く、『不満』が『満足』を上回っている。



◆職業別

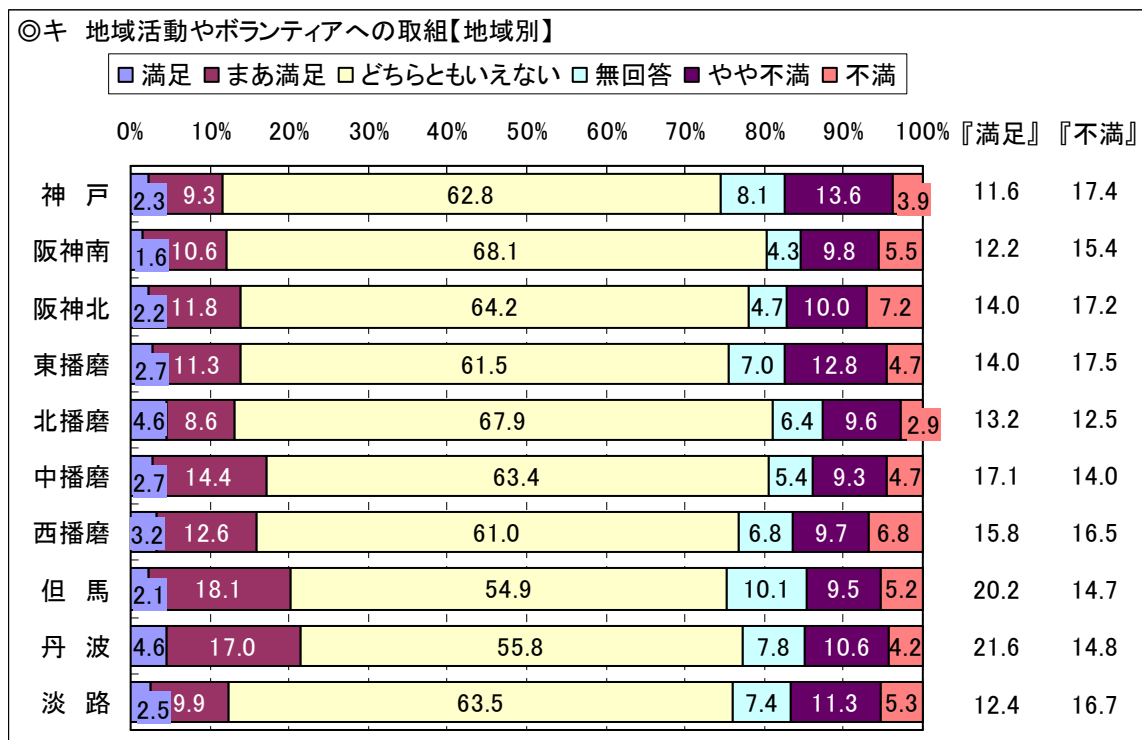
- 職業別で見ると、『満足』は、学生(49.3%)で約5割と他の職業(概ね3割台)より多い。
- 一方、『不満』は、会社等の役員(35.1%)と正規社員(職員)(32.6%)で3割を超えているが、その他無職(13.7%)と学生(18.1%)では2割未満となっている。



◎キ 地域活動やボランティアへの取組

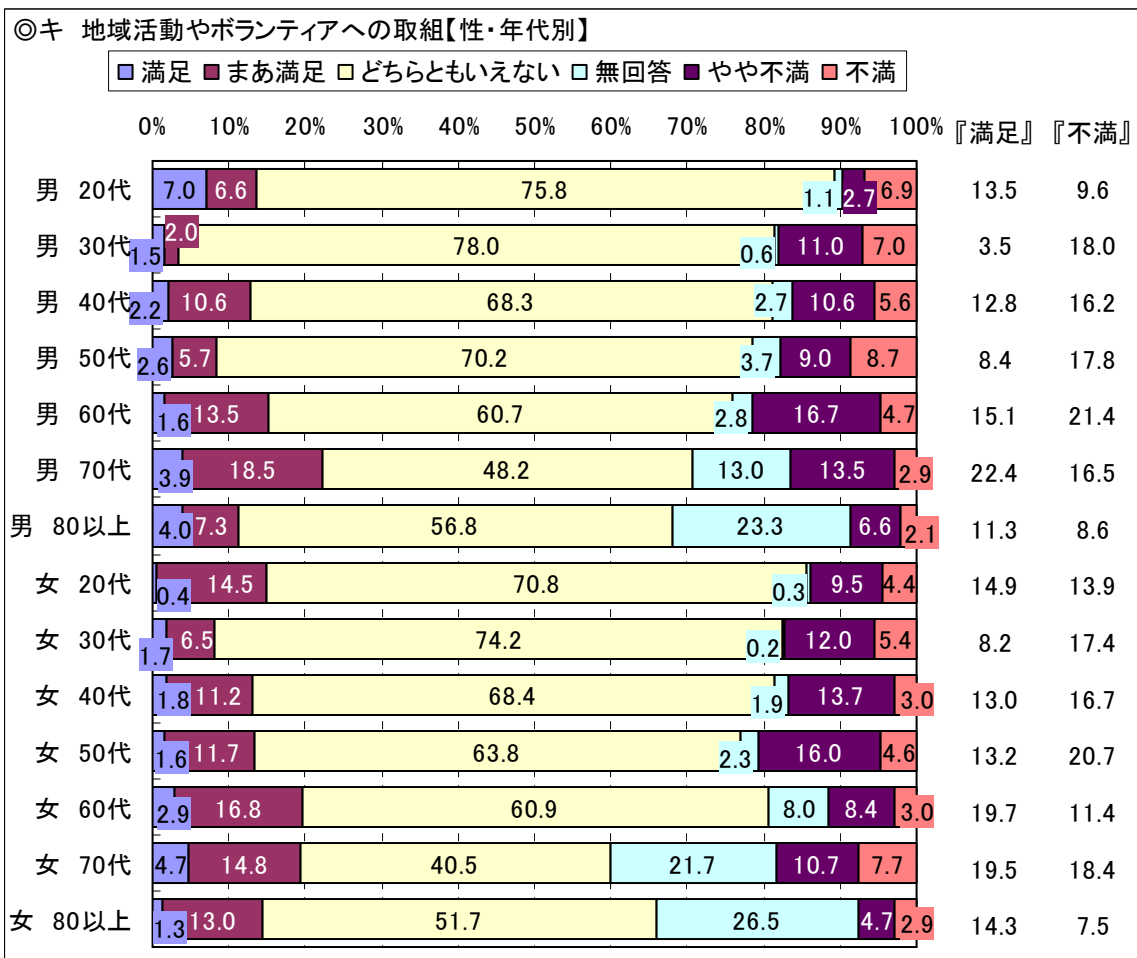
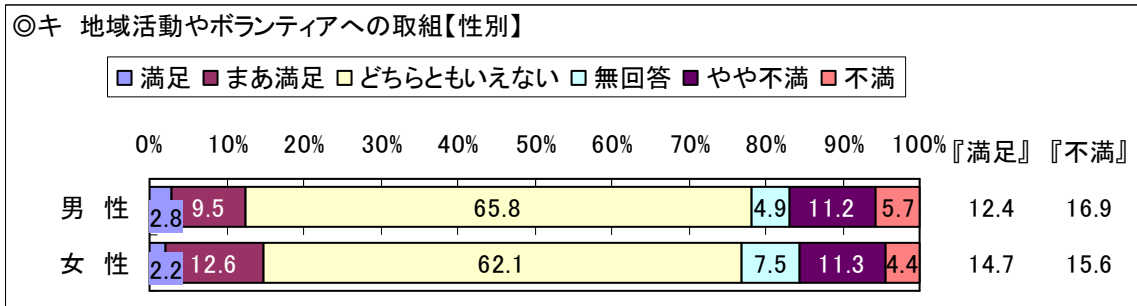
◆地域別

- 『満足』は、丹波（21.6%）と 但馬(20.2%)で2割を超えるが、他の地域では1割台に止まる。
- また、いずれの地域も『不満』が1割台で、「どちらともいえない」が半数を超えている。



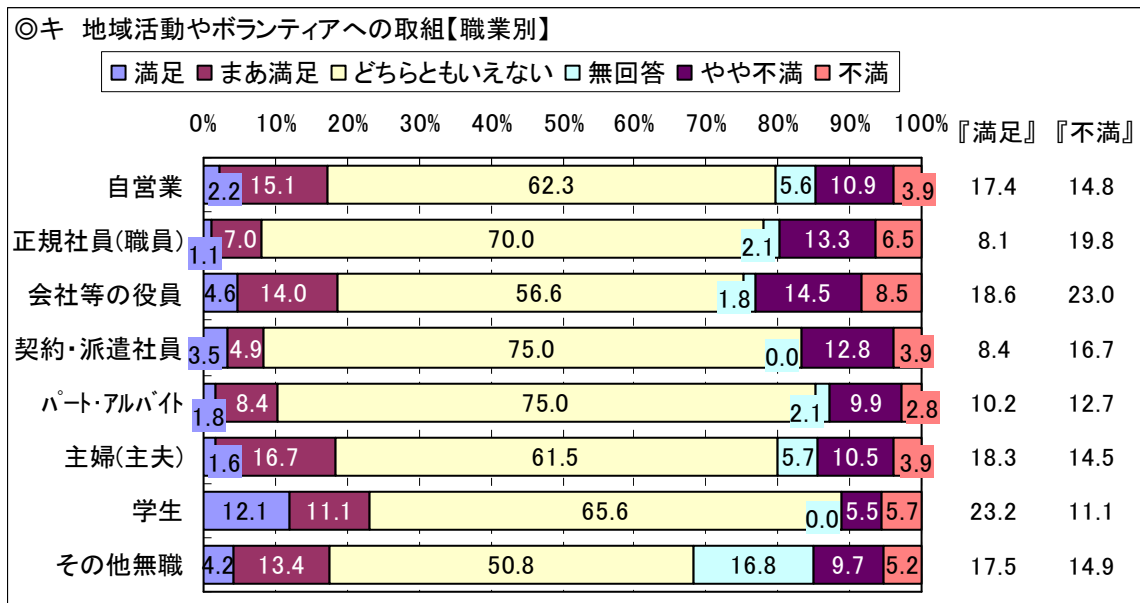
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別でみると、男性では、『満足』は70代(22.4%)で2割を超えており、『不満』は60代(21.4%)で2割を超えている。また、20代、70代、80歳以上で『満足』が『不満』を上回る。
- 一方、女性では、『満足』は60代(19.5%)と70代(19.5%)で2割近くあり、『不満』は50代(20.7%)で2割を超えている。また、女性では、30～50代を除いて、『満足』が『不満』を上回っている。



◆職業別

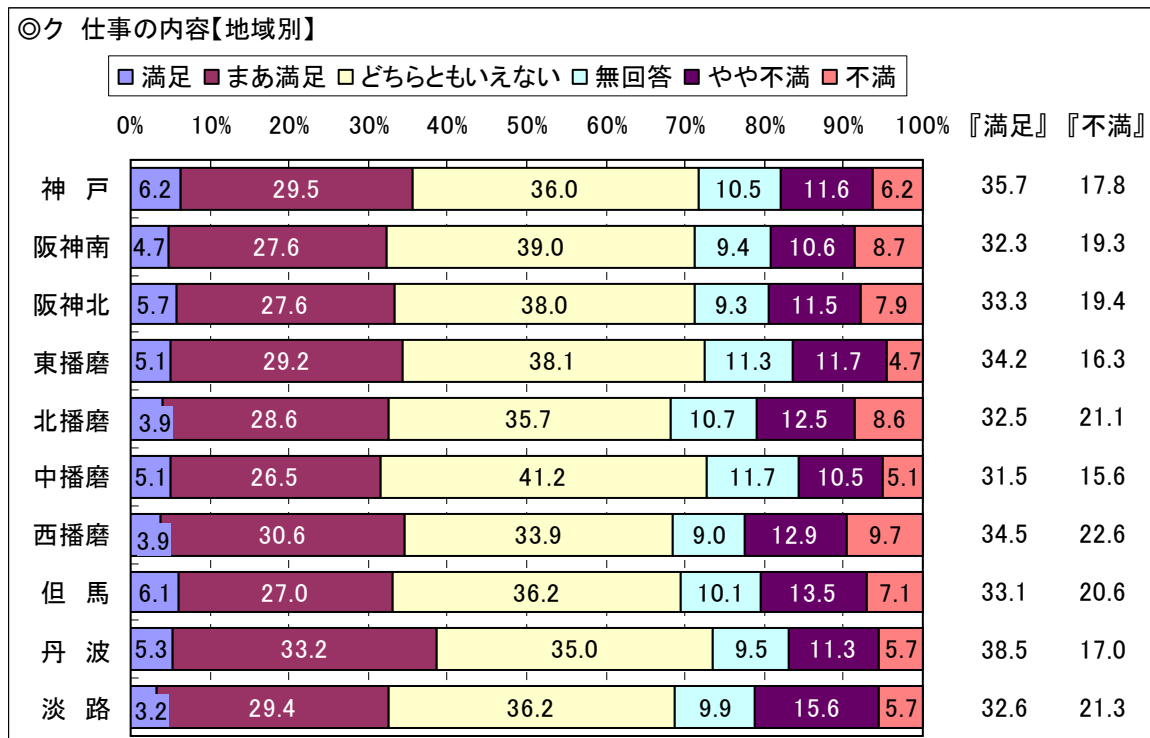
- 職業別で見ると、『満足』は、学生(23.2%)で2割を超えるが、正規社員(職員)(8.1%)と契約・派遣社員(8.4%)では1割に満たない。
- 一方、『不満』は、会社等の役員(23.0%)で2割を超えるが、他の職業では1割台となっている。



◎ク 仕事の内容

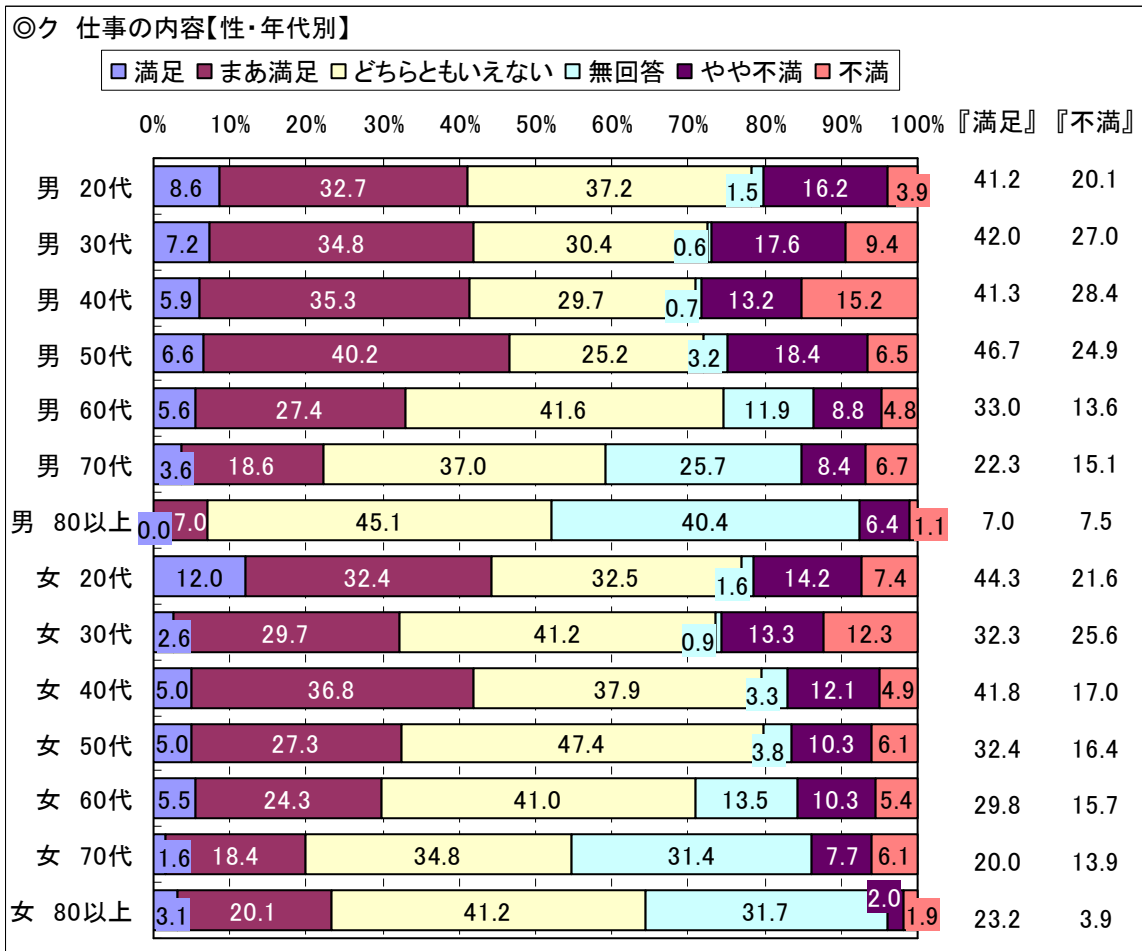
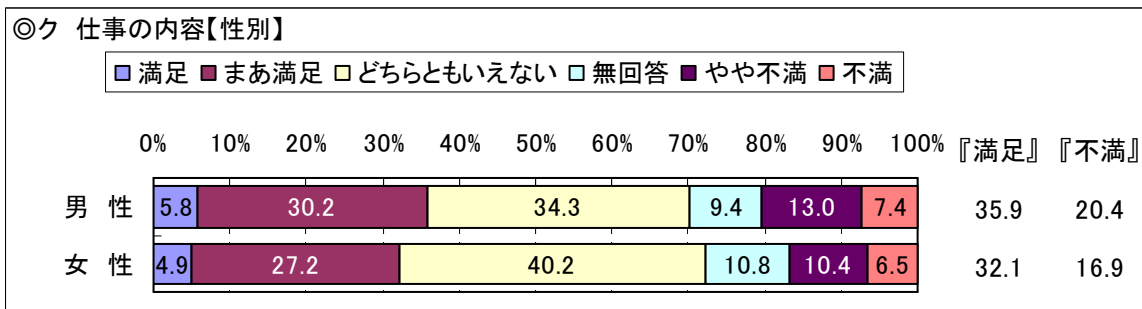
◆地域別

- 『満足』は、いずれの地域でも3割を超え、『不満』は概ね2割前後となっており、特段の差はみられない。



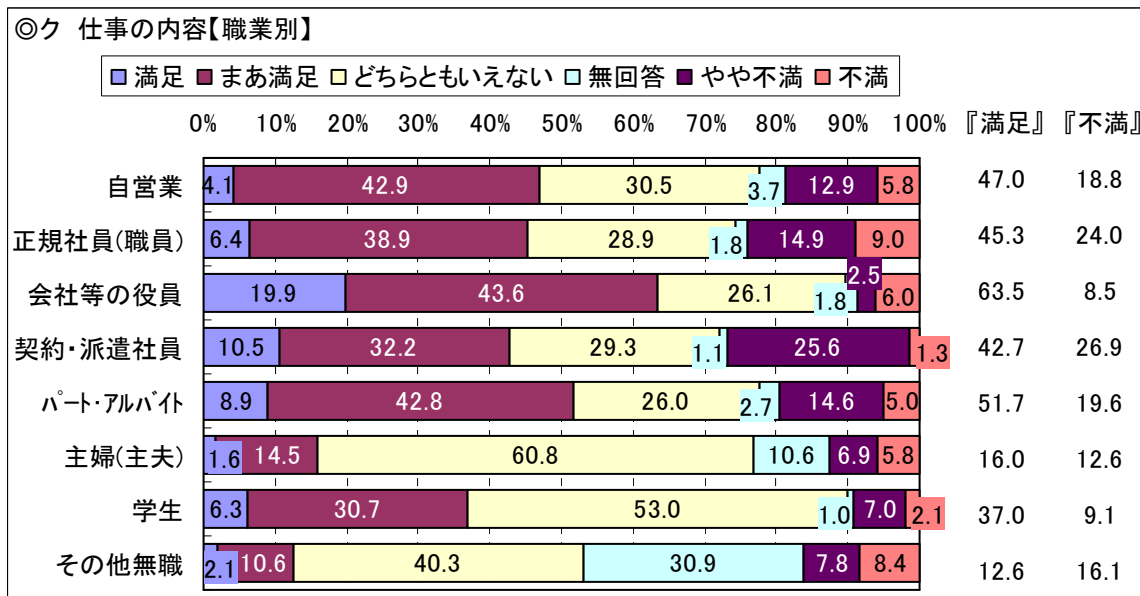
◆性別／性・年代別

- 性別では、『満足』(男 35.9%、女 32.1%)、『不満』(男 20.4%、女 16.9%)ともに、女性より男性が多い。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、20～50代で4割を超え、60代以降では年代が上がるにつれて減少し、80歳以上(7.0%)では1割に満たない。一方、『不満』も同様の傾向を示しており、20～50代で2割を超えるが、60代以降は2割未満となり、80歳以上(7.5%)では1割に満たない。
- 女性では、『満足』は、20代(44.3%)と40代(41.8%)で4割台、50代(32.4%)と30代(32.3%)で3割台、60代以降では2割台となっている。『不満』は、30代(25.6%)と20代(21.6%)で2割台、40～70代は1割台、80歳以上(3.9%)ではわずかである。



◆職業別

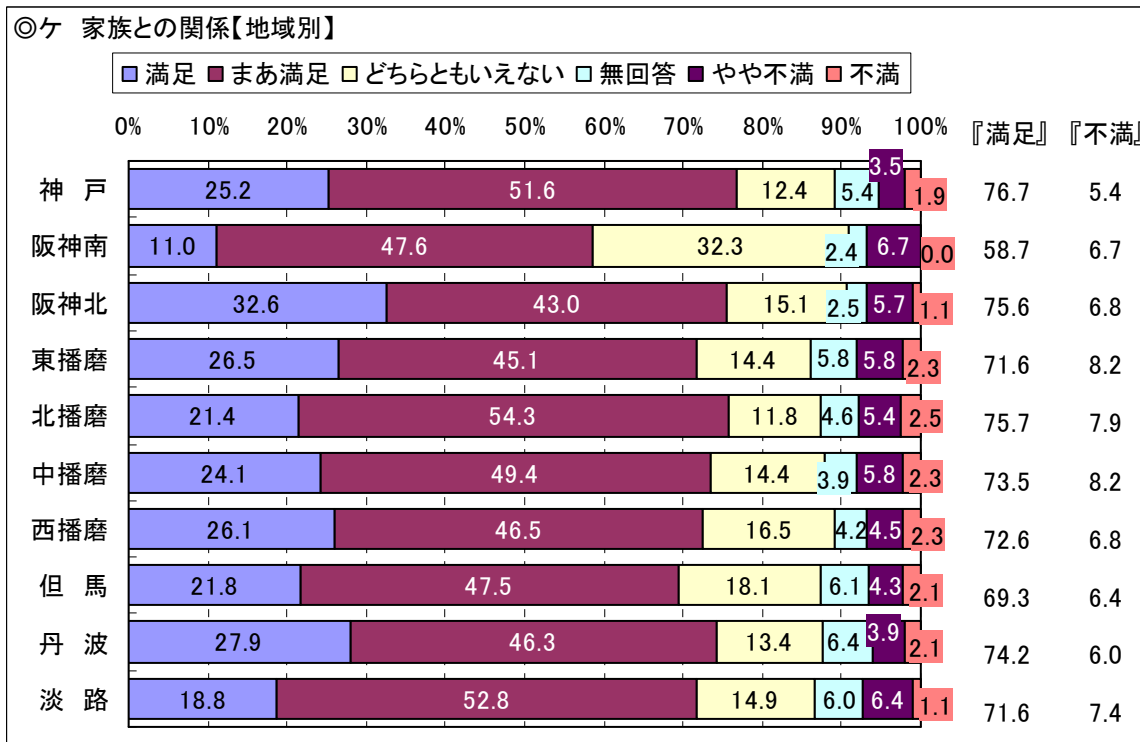
- 職業別で見ると、『満足』は、会社等の役員(63.5%)で6割を超えて最も多く、パート・アルバイト(51.7%)でも5割を超えている。
- 『不満』は、契約・派遣社員(26.9%)と正規社員(職員)(24.0%)で2割を超えるが、他の職業では2割未満となっている。



◎ケ 家族との関係

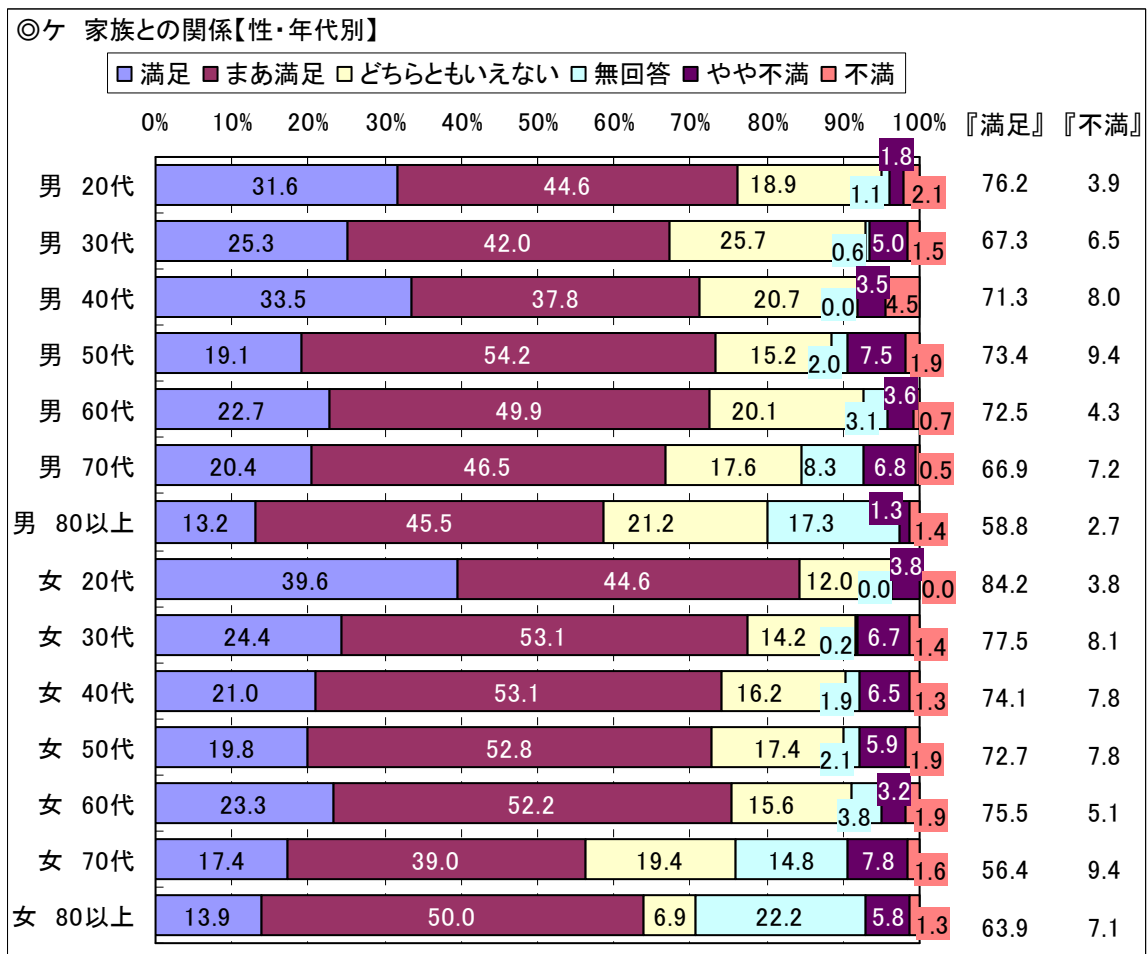
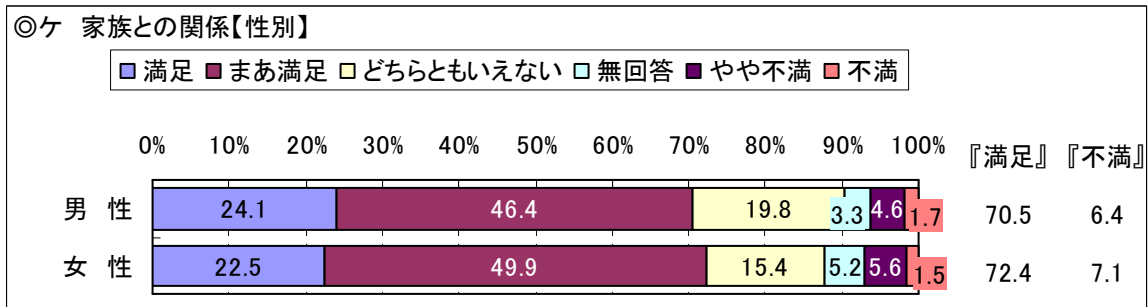
◆地域別

- 『満足』は、7割台の地域が多いが、但馬(69.3%)で7割を下回り、阪神南(58.7%)では5割台後半と少ない。
- 『不満』は、いずれの地域も1割を下回っている。



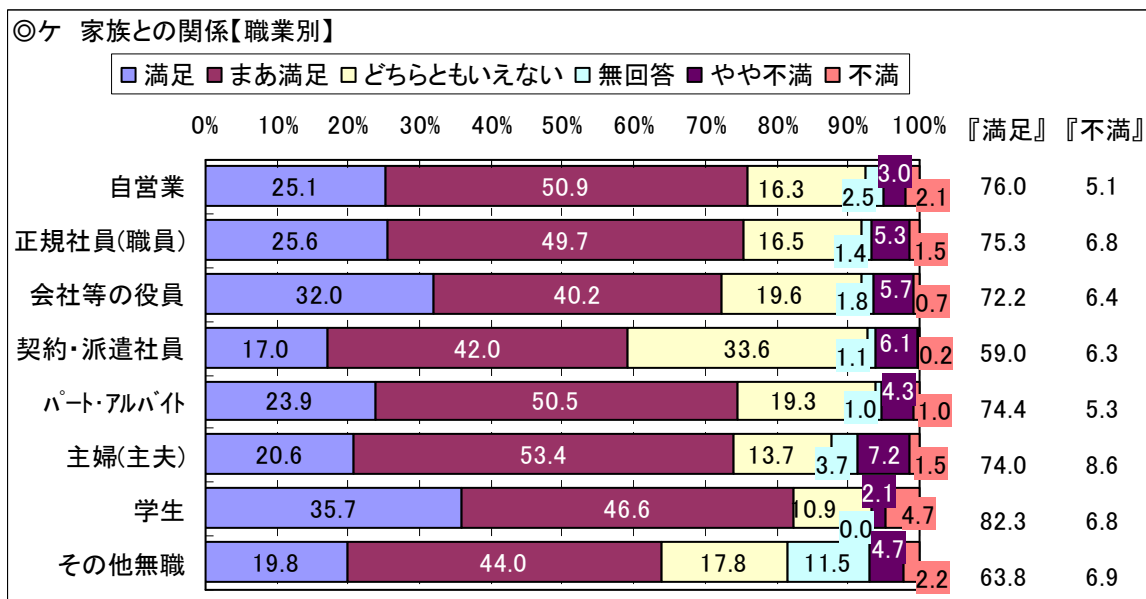
◆性別／性・年代別

- 性別で、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は20代(76.2%)、50代(73.4%)など7割台の年代が一番多く、30代(67.3%)、70代(66.9%)で6割台だが、80歳以上(58.8%)では6割を下回る。一方、『不満』は、いずれの年代も1割未満で、80歳以上(2.7%)と20代(3.9%)ではごくわずかとなっている。
- 女性では、『満足』は、20代(84.2%)で8割台半ばと最も多く、7割台の年代が多い中、80歳以上(63.9%)では6割台、70代(56.4%)では5割台となっている。『不満』は、いずれの年代でも1割を下回っている。



◆職業別

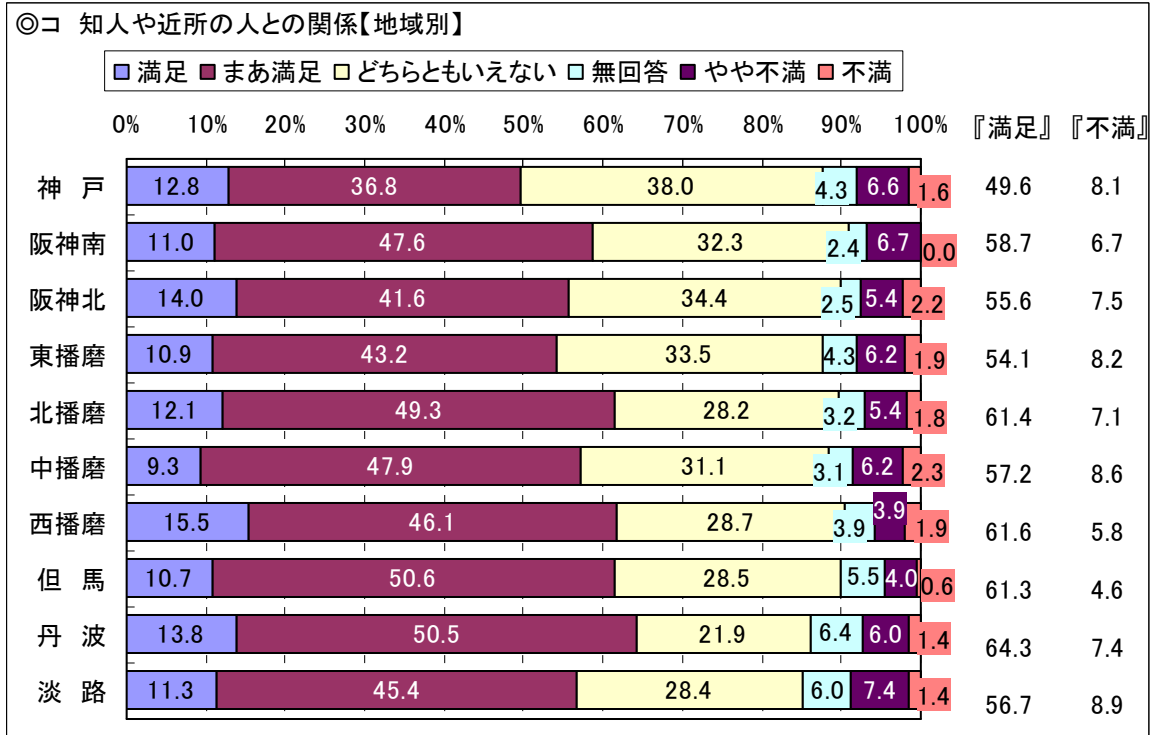
- 職業別でみると、『満足』は、学生(82.3%)で8割を超え、7割台の職業が多い中、契約・派遣社員(59.0%)、その他無職(63.8%)では6割前後と少ない。
- 『不満』は、いずれの職業でも1割を下回っている。



◎コ 知人や近所の人との関係

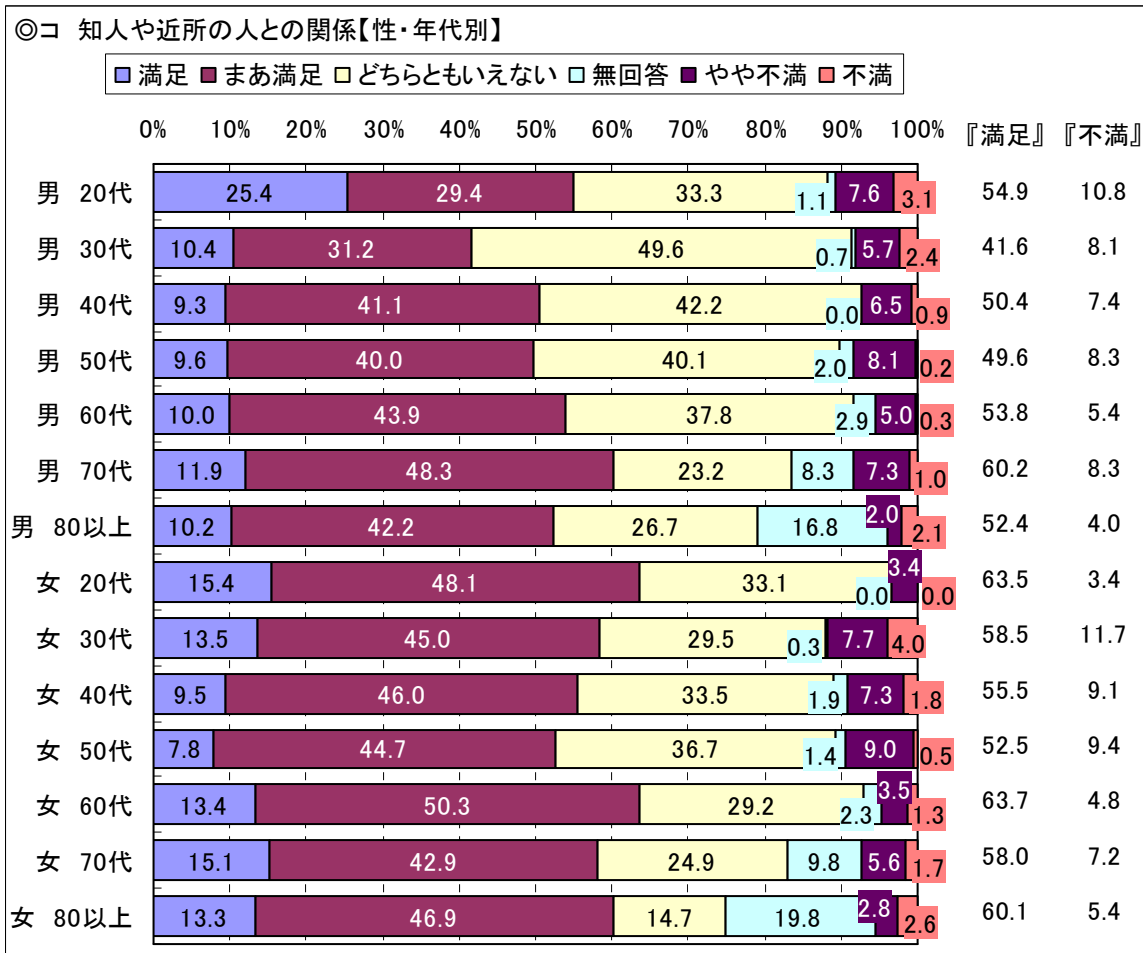
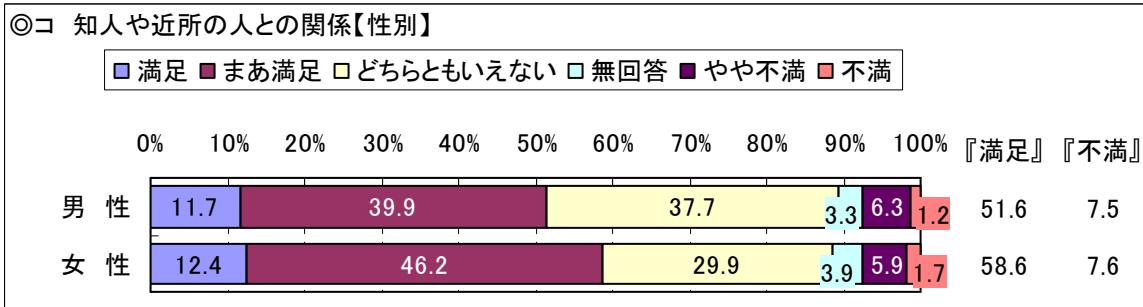
◆地域別

- 『満足』は、丹波(64.3%)、西播磨(61.6%)、北播磨(61.4%)、但馬(61.3%)で6割を超え、他の地域は6割を下回っており、神戸(49.6%)では5割未満となっている。
- 『不満』は、いずれの地域も1割を下回っている。



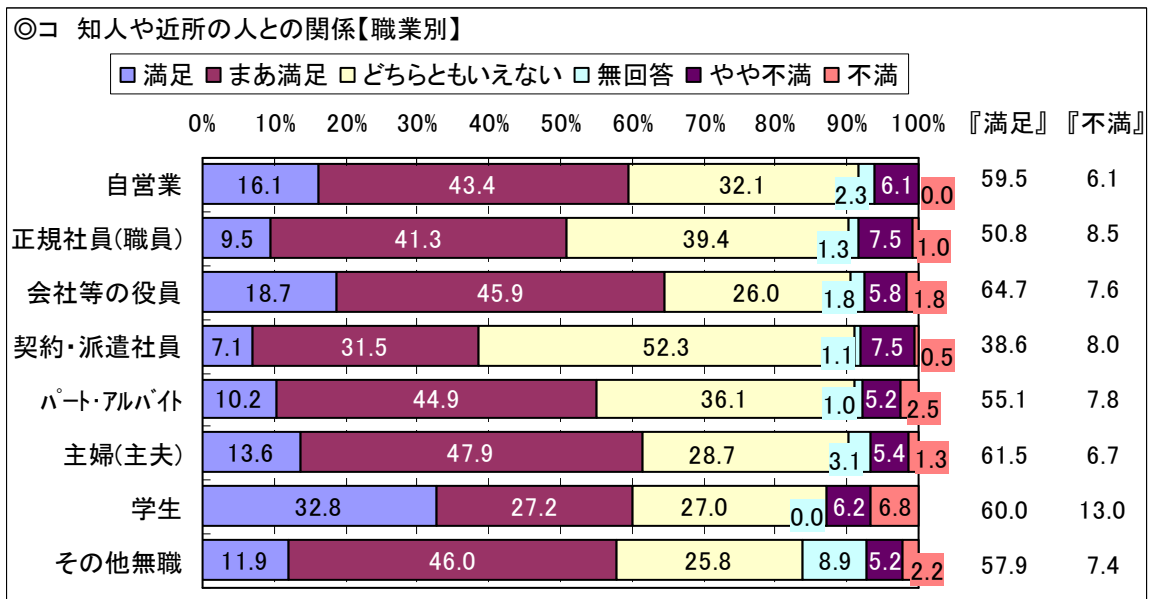
◆性別／性・年代別

- 性別では、『満足』は男性(51.6%)より女性(58.6%)で多く、『不満』は男女の差がないが、「どちらともいえない」が女性(29.9%)より男性(37.7%)が多い。
- 性・年代別でみると、男性では、『満足』は、5割前後の年代が多い中、70代(60.2%)で6割に及ぶ一方、30代(41.6%)では4割強に止まる。『不満』は、20代(10.8%)を除き、1割未満である。
- 女性では、『満足』は、60代(63.7%)と20代(63.5%)で6割台半ば近くある一方、50代(52.5%)では5割強に止まる。一方、『不満』は、30代(11.7%)でのみ1割を超えている。



◆職業別

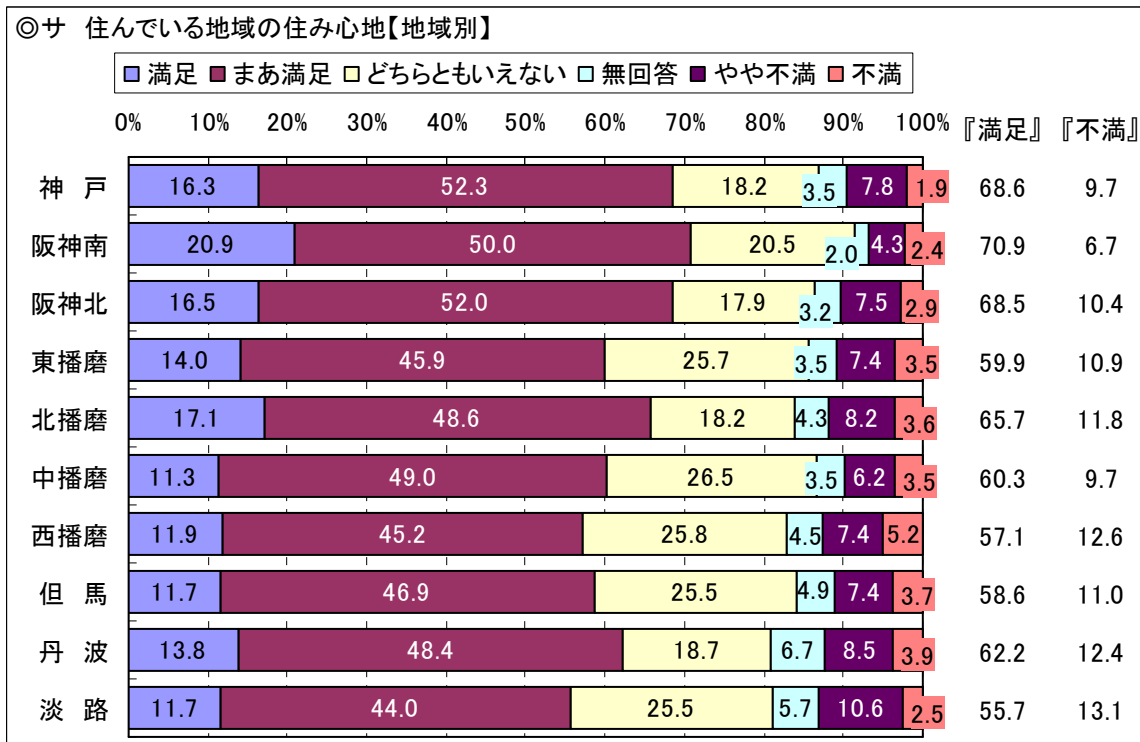
- 職業別でみると、『満足』は、会社等の役員(64.7%)で最も多く、他の職業では5～6割程度となっているが、契約・派遣社員(38.6%)では4割に満たない。
- 一方、『不満』は、学生(13.0%)を除くすべての職業で1割未満となっている。



◎サ 住んでいる地域の住み心地

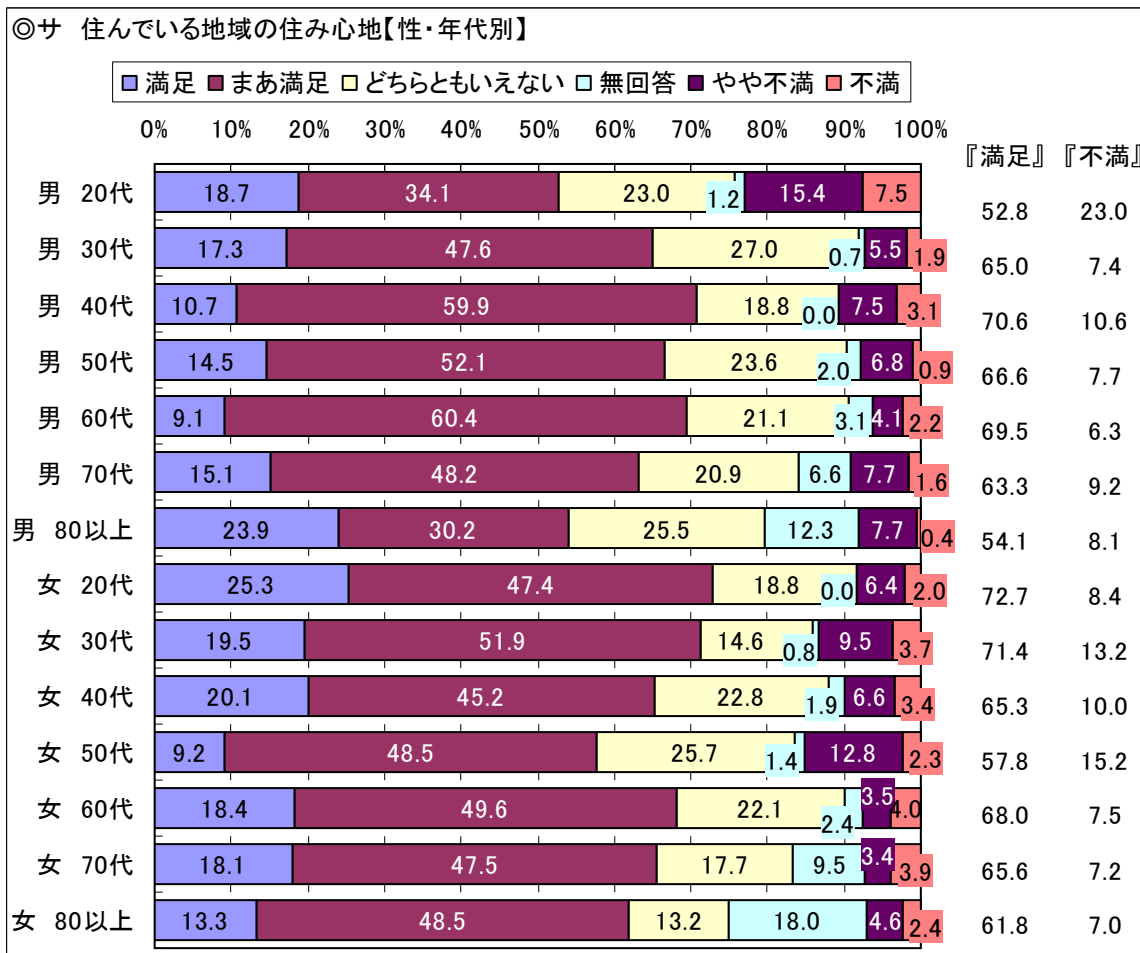
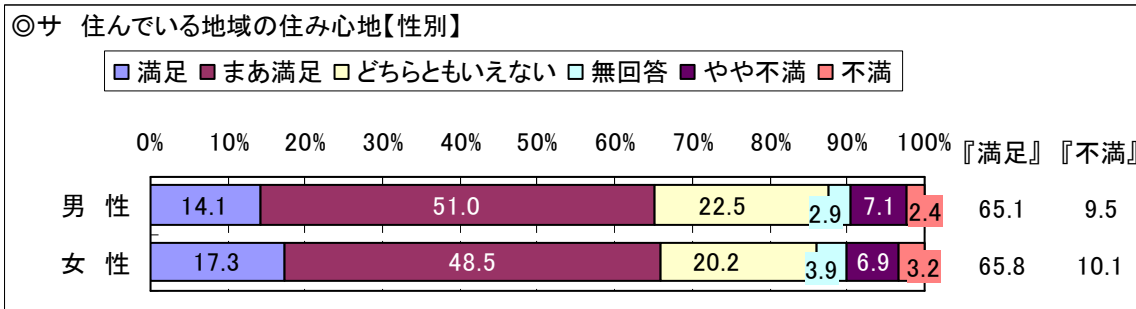
◆地域別

- 『満足』は、6割前後の地域が多い中、阪神南(70.9%)で7割を超える一方、淡路(55.7%)では5割台半ばに止まっている。
- 『不満』は、いずれの地域も概ね1割前後となっている。



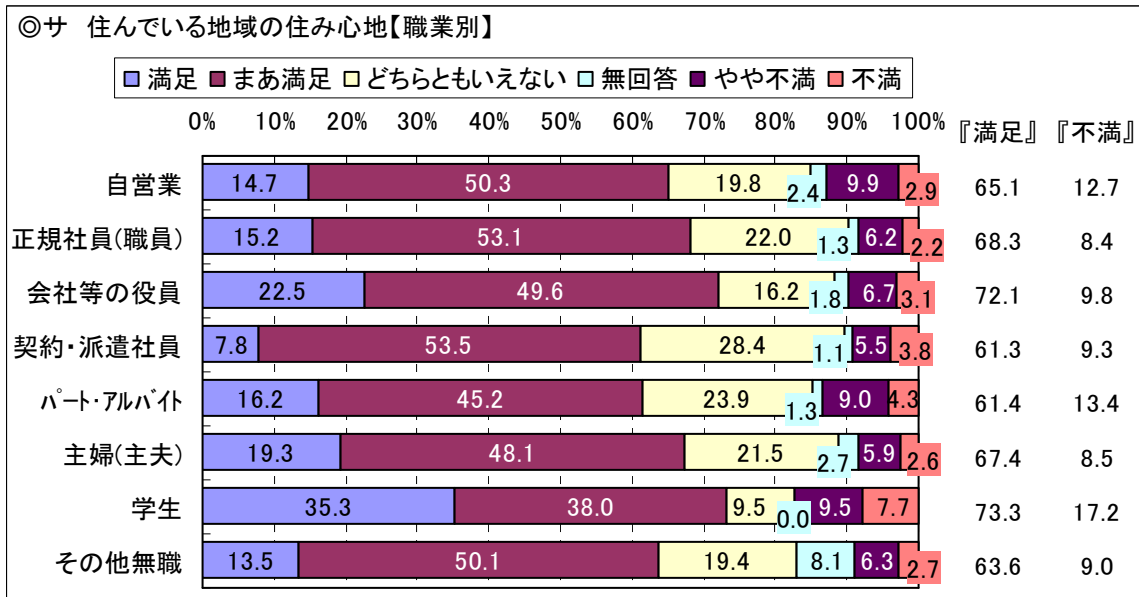
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、6割台の年代が多い中、40代(70.6%)で7割を超える一方、20代(52.8%)と80歳以上(54.1%)で5割台前半に止まる。『不満』は、いずれの年代も概ね1割前後だが、20代(23.0%)で2割を超える
- 『満足』は、女性では、6割台の年代が多い中、20代(72.7%)と30代(71.4%)で7割を超える一方、50代(57.8%)では6割を下回っている。一方、『不満』は、1割前後の年代が多いが、50代(15.2%)で1割台半ばある。



◆職業別

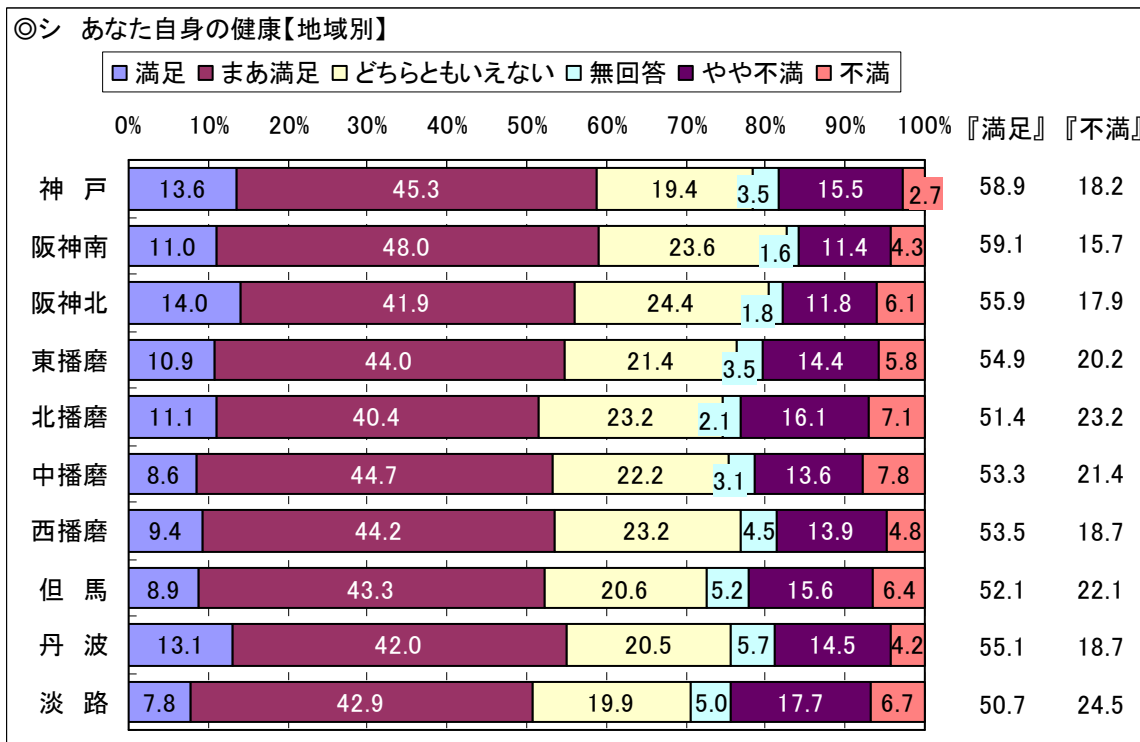
- 職業別で見ると、『満足』は、学生(73.3%)と会社等の役員(72.1%)で7割を超えるが、他の職業ではいずれも6割台である。
- 一方、『不満』は、学生(17.2%)で1割台後半だが、他の職業では概ね1割前後である。



◎シ あなた自身の健康

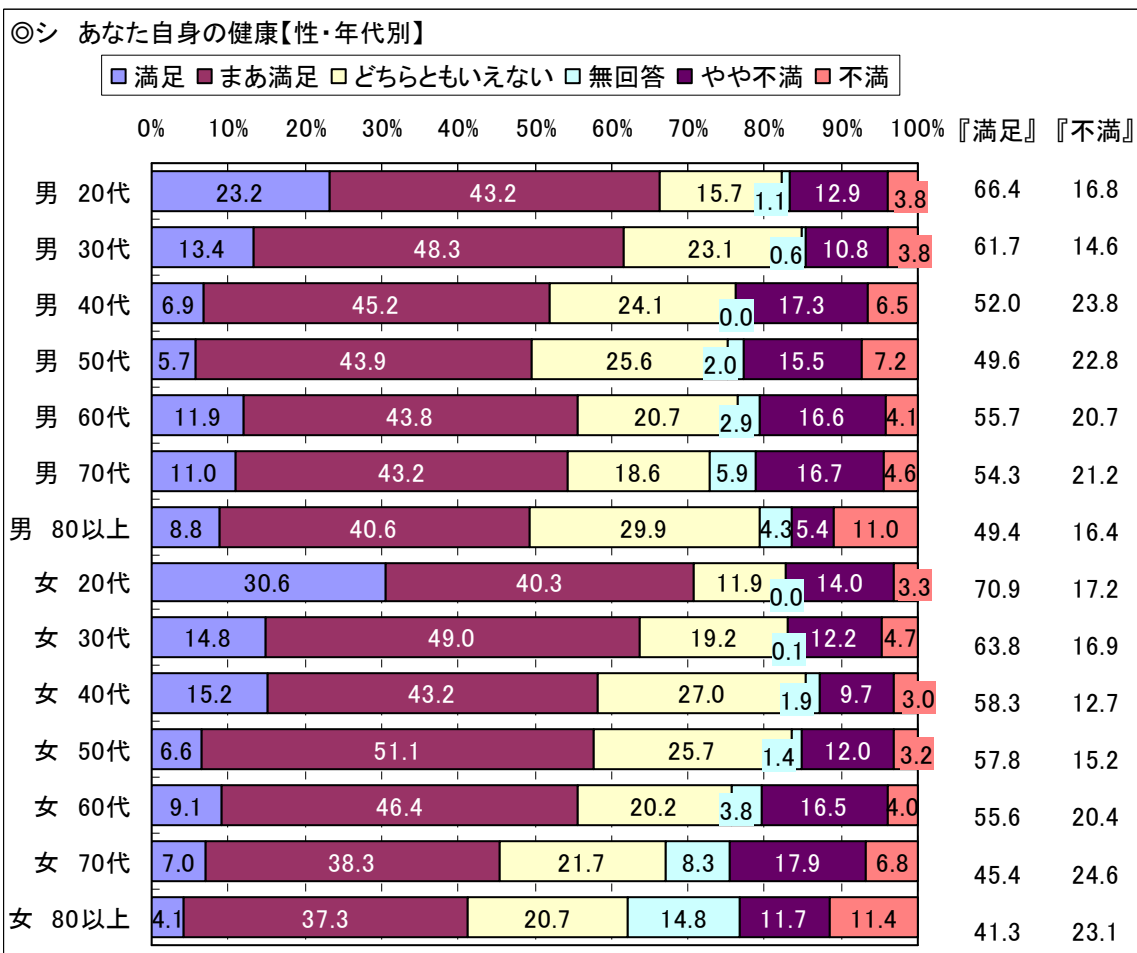
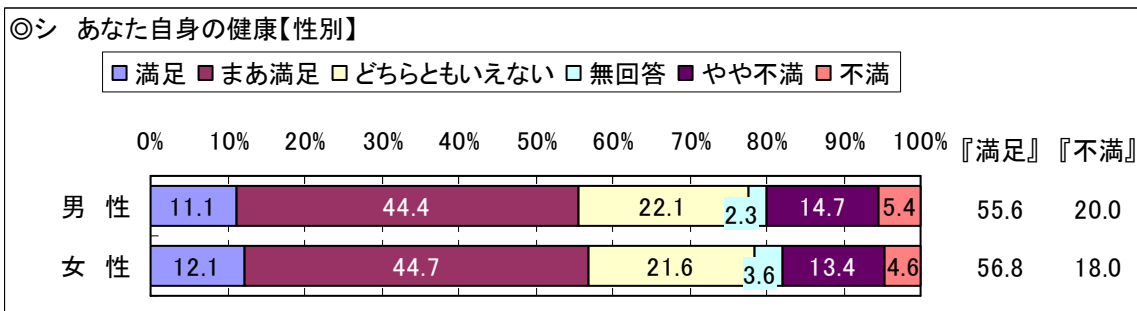
◆地域別

- 『満足』は阪神南(59.1%)で最も多く、淡路(50.7%)で最も少ない。逆に、『不満』は淡路(24.5%)で最も多く、阪神南(15.7%)で最も少ない。ただ、『満足』、『不満』ともに、地域間の差は10ポイントを下回る。



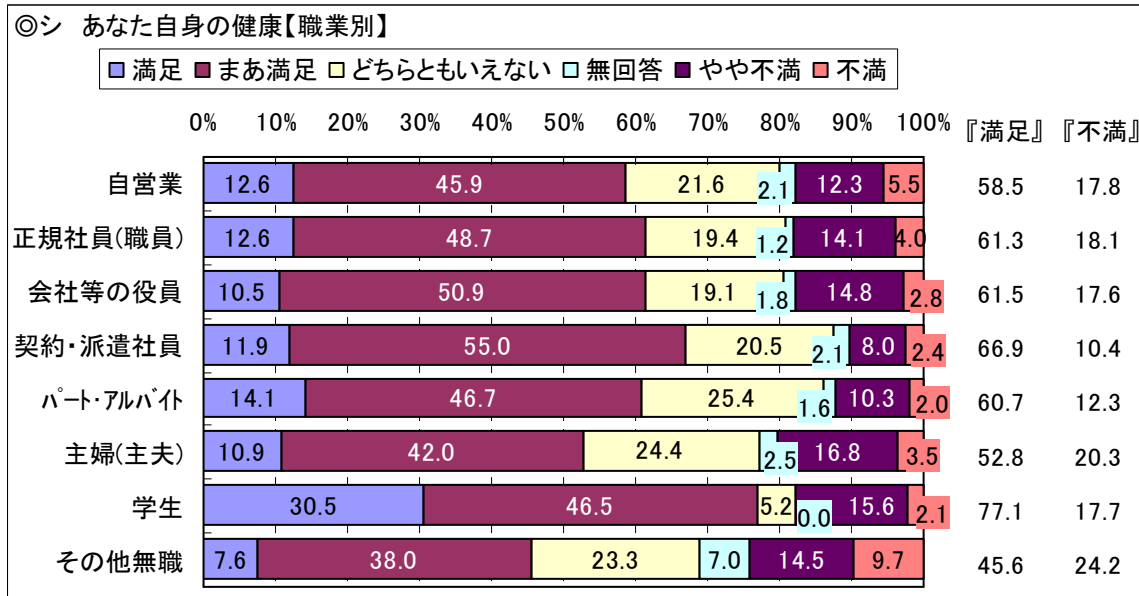
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、20代(66.4%)と30代(61.7%)で6割を超えるが、50代(49.6%)と80歳以上(49.4%)では5割を下回っている。一方、『不満』は、40代(23.8%)で最も多く、30代(14.6%)で最も少ないが、その差は10ポイントを下回る。
- 女性では、『満足』は、20代(70.9%)で7割と最も多く、年代が上がるにつれて減少し、80歳以上(41.3%)では4割強である。一方、『不満』は、20～50代で1割台だが、60代以降では2割台となっている。



◆職業別

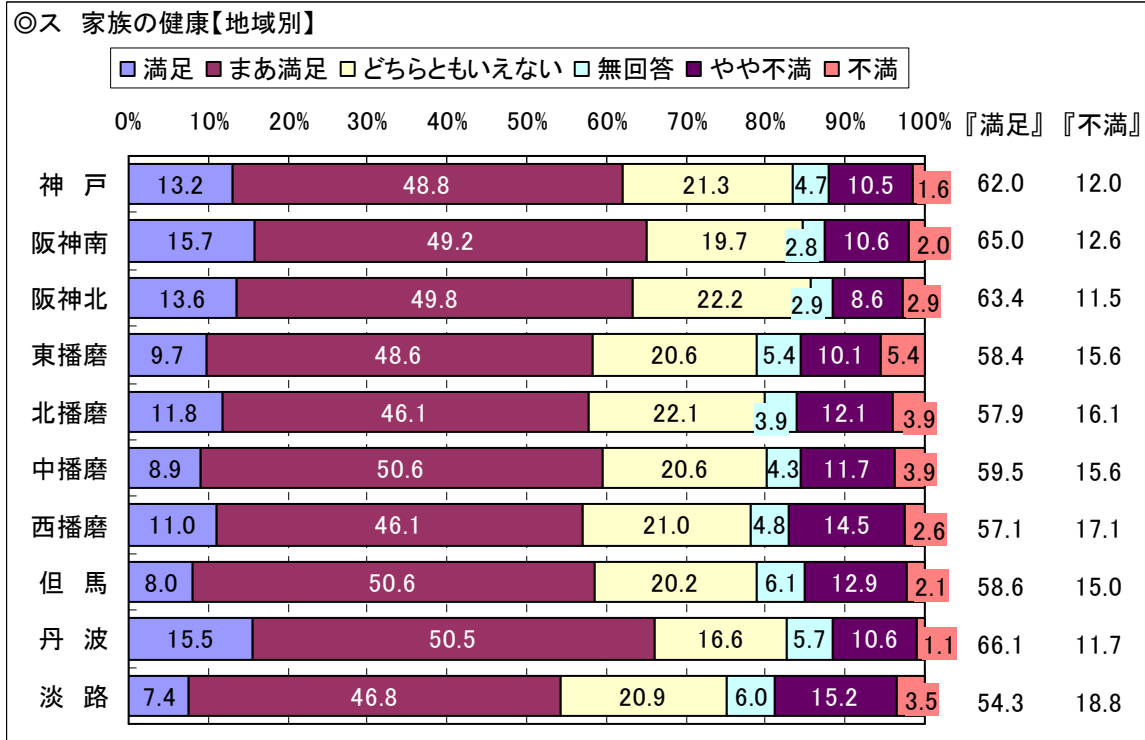
- 職業別で見ると、『満足』は、学生(77.1%)で7割台後半と多く、他の職業では、6割台が多いが、主婦(主夫)(52.8%)で5割強、その他無職(45.6%)で5割を下回っている。
- 一方、『不満』は、その他無職(24.2%)で最も多く、契約・派遣社員(10.4%)で最も少なくなっており、13.8ポイントの差が生じている。



◎ス 家族の健康

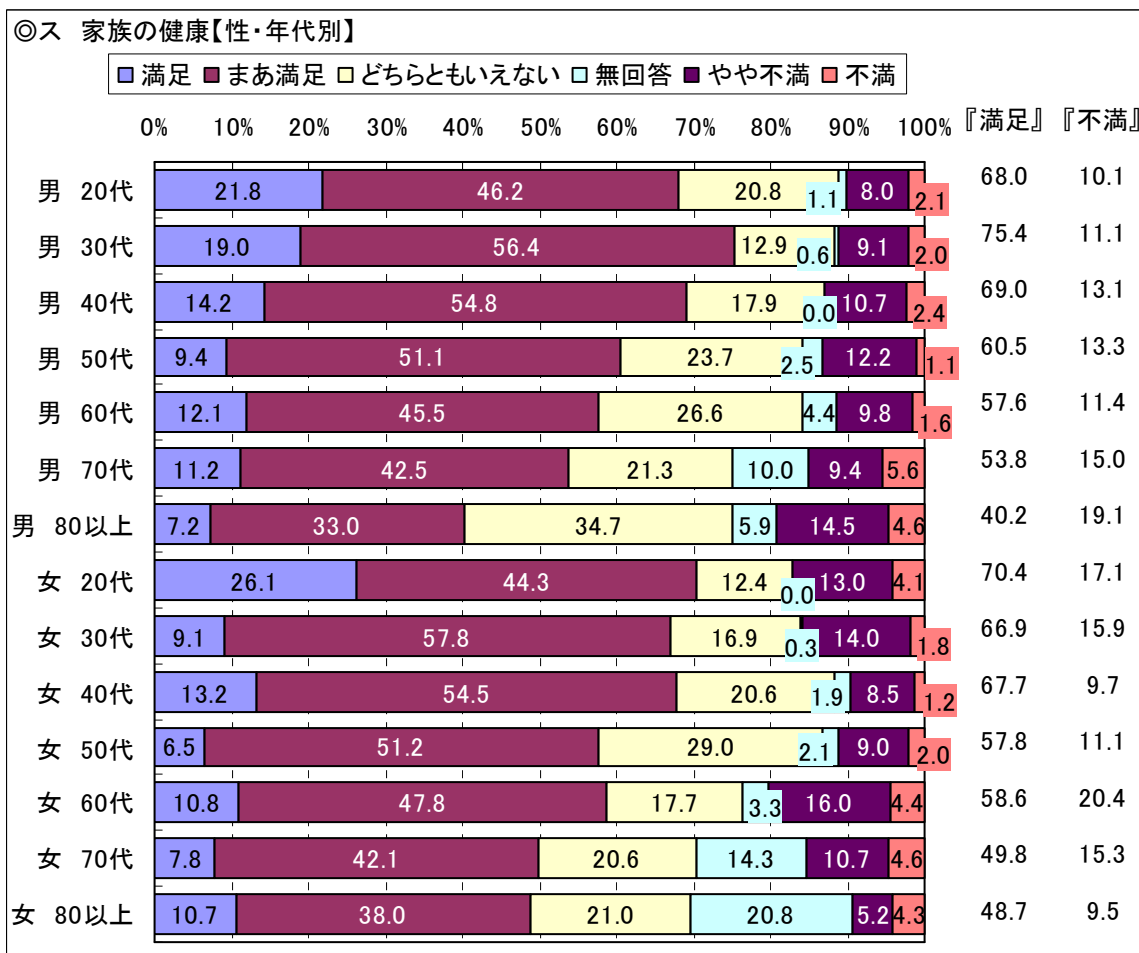
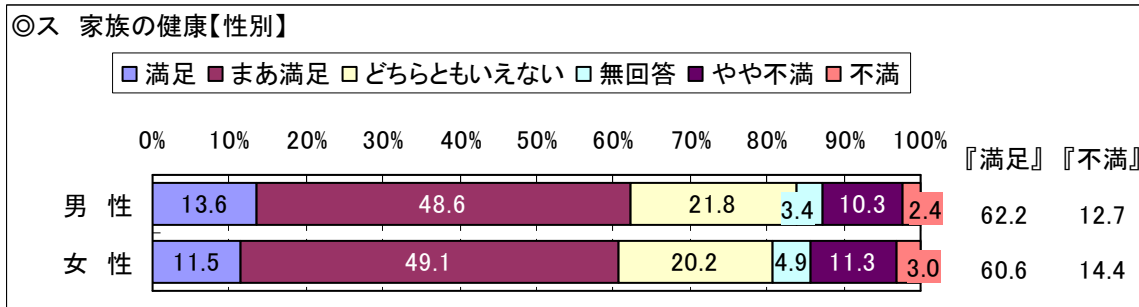
◆地域別

- 『満足』は、6割前後の地域が多いが、最も多い丹波(66.1%)で6割台半ば、最も少ない淡路(54.3%)で5割台半ばとなっており、その差は11.8ポイントとなっている。
- 『不満』は、いずれの地域も1割台となっている。



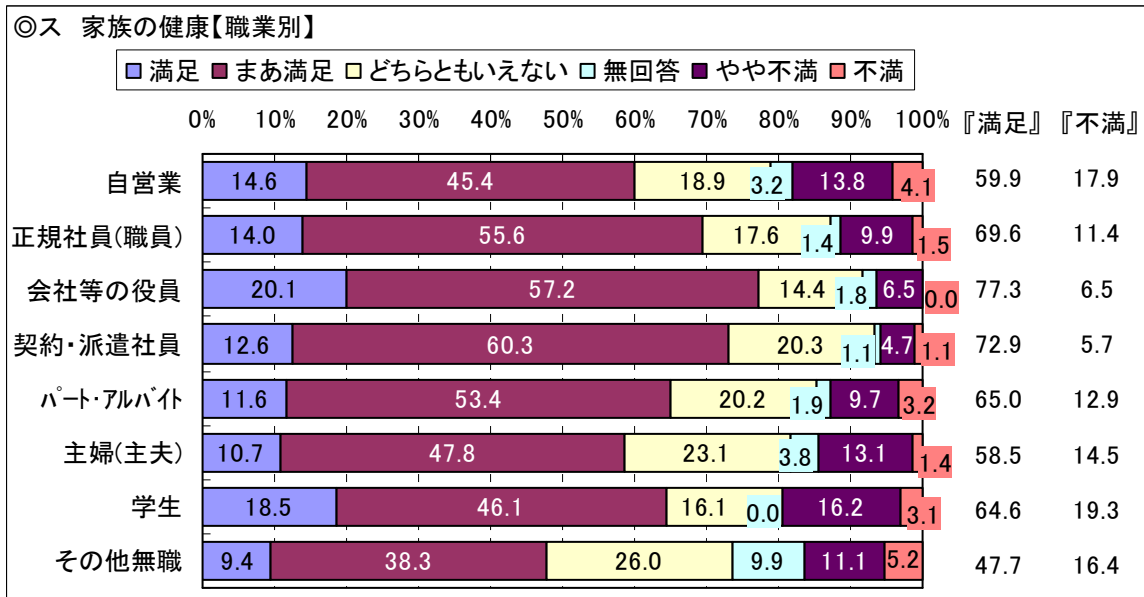
◆性別／性・年代別

- 性別では、特段の差はみられない。
- 性・年代別で見ると、男性では、『満足』は、30代(75.4%)で7割台半ばと最も多く、以降は年代が上がるほど減少し、最も少ない80歳以上(40.2%)では4割となっている。一方、『不満』は、1割台前半の年代が多いが、80歳以上(19.1%)で2割近くとなっている。
- 『満足』は、女性でも同様の傾向があり、20代(70.4%)で7割と最も多く、年代が上がるにつれて減少する傾向にあり、70代(49.8%)と80歳以上(48.7%)で5割を下回っている。『不満』は60代(20.4%)で2割に及ぶ一方、80歳以上(9.5%)と40代(9.7%)では1割を下回っている。



◆職業別

- 職業別で見ると、『満足』は、会社等の役員(77.3%)、契約・派遣社員(72.9%)で7割を超えるが、その他無職(47.7%)では5割に満たない。『不満』は、学生で2割近くあるが、会社等の役員(6.5%)、契約・派遣社員(5.7%)では1割を下回っている。



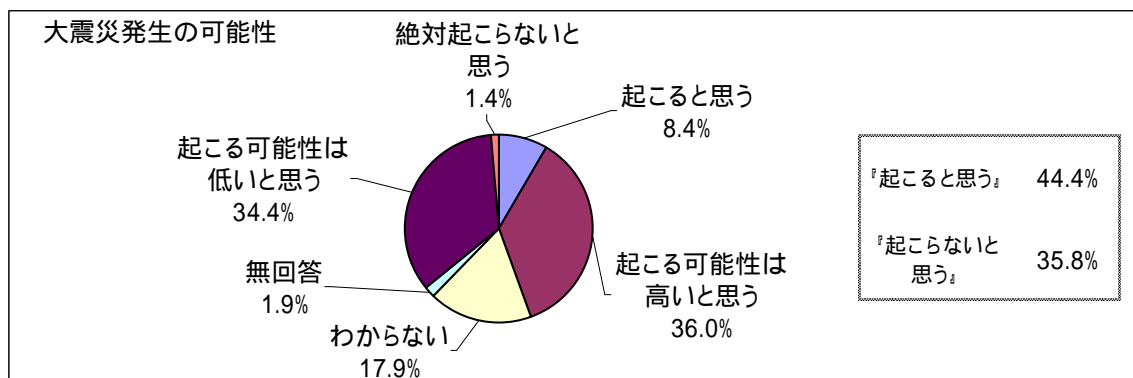
6 震災に対する意識

(1) 大震災発生の可能性

問 15 あなたの住んでいる地域で、今後 10 年くらいの間に大地震が起こると思いますか。次の中から 1 つ選んで番号に 印をつけてください。

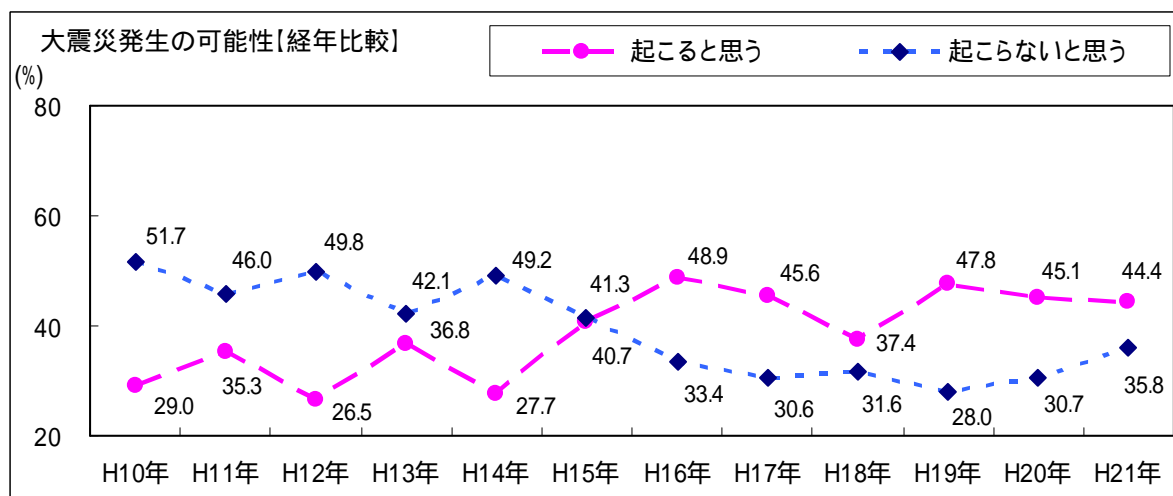
- | | |
|----------------|--------------|
| 1 起こると思う | 4 絶対起こらないと思う |
| 2 起こる可能性は高いと思う | 5 わからない |
| 3 起こる可能性は低いと思う | |

今後 10 年間で大地震が起こる可能性については、「起こる可能性は高いと思う」(36.0%)が最も多く、「起こると思う」(8.4%)と合わせた『起こると思う』(44.4%)は 4 割台半ばである。一方、「起こる可能性は低いと思う」(34.4%)と「絶対起こらないと思う」(1.4%)と合わせた『起こらないと思う』(35.8%)は 3 割台半ばとなっており、『起こると思う』が『起こらないと思う』を 8.6 ポイント上回っている。



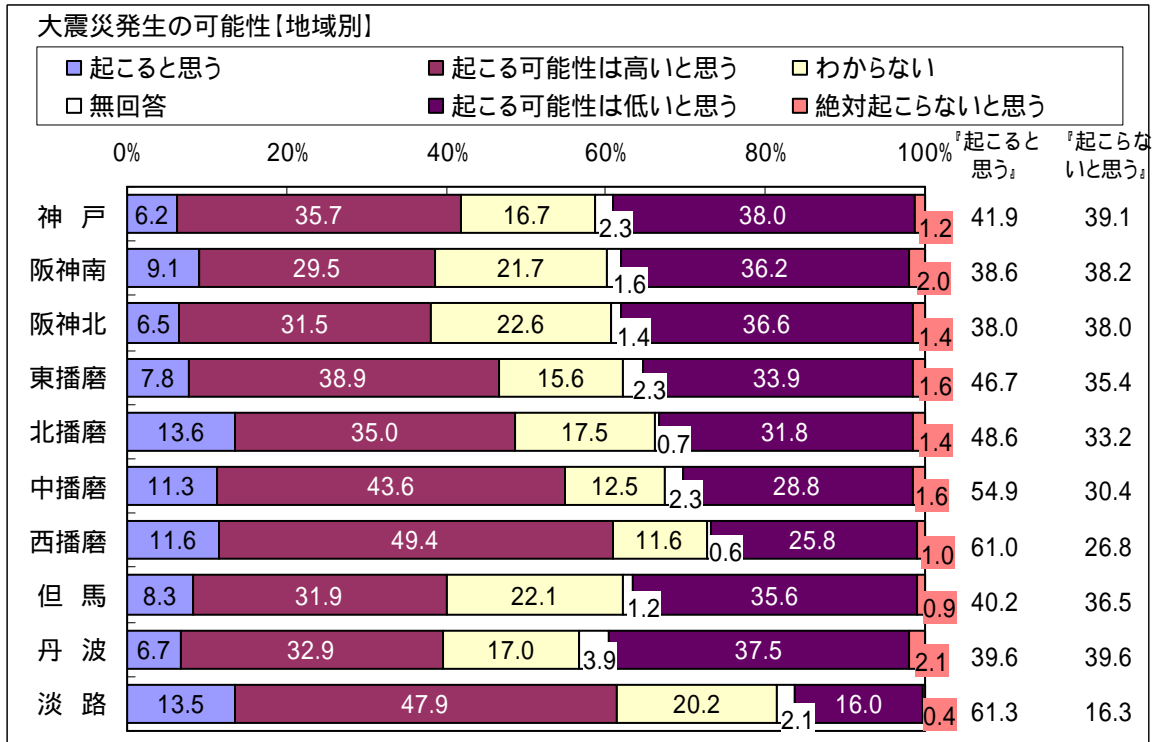
経年比較

『起こると思う』は、前年より 0.7 ポイントとわずかに減少(45.1% 44.4%)し、『起こらないと思う』は、前年より 5.1 ポイント増加(30.7% 35.8%)しており、ともに 2 年連続の減少あるいは増加となっている。



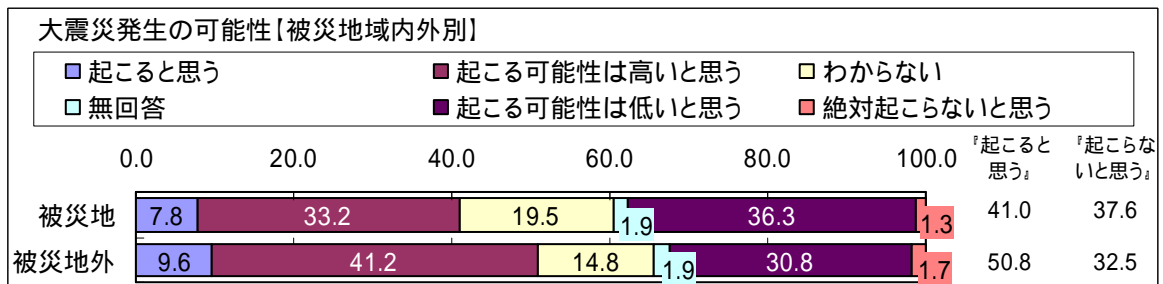
地域別

『起こると思う』は、淡路(61.3%)と西播磨(61.0%)で6割を超える一方、阪神北(38.0%)、阪神南(38.6%)、丹波(39.6%)では3割台に止まり、逆に、『起こらないと思う』は、丹波(39.6%)、神戸(39.1%)、阪神南(38.2%)、阪神北(38.0%)で4割近くある一方、西播磨(26.8%)で2割台半ば、淡路(16.3%)では1割台半ばに止まるなど、地域間での差が大きい。



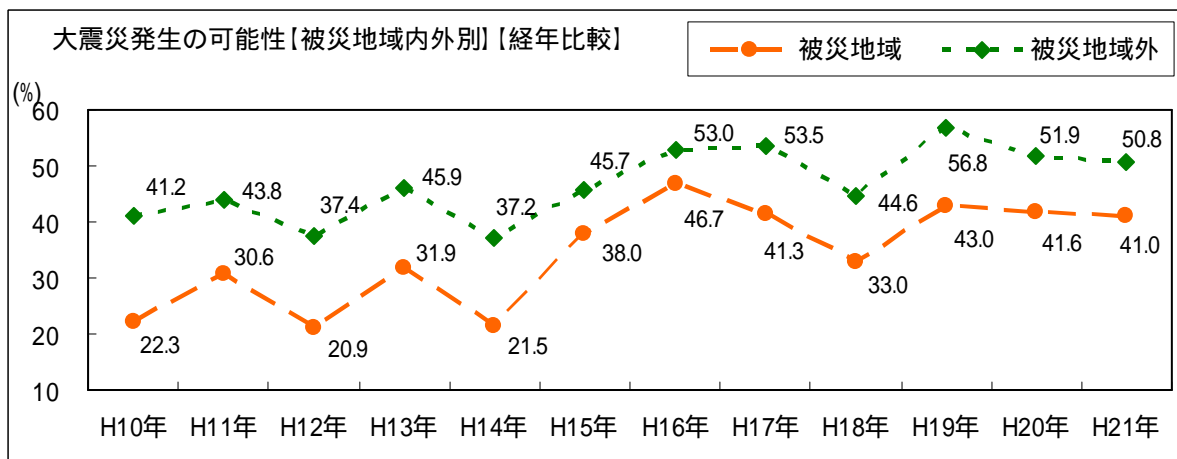
被災地域・被災地域外別

『起こると思う』は、被災地域(41.0%)より被災地域外(50.8%)で多く(9.8ポイントの差)、『起こらないと思う』は、被災地域外(32.5%)より被災地域(37.6%)で多く(5.1ポイントの差)になっている。



被災地域・被災地域外別（経年比較）

『起こると思う』は、被災地域(50.8%)、被災地域外(41.0%)ともに前年(被災地域 51.9%、被災地域外 41.6%)より減少している。



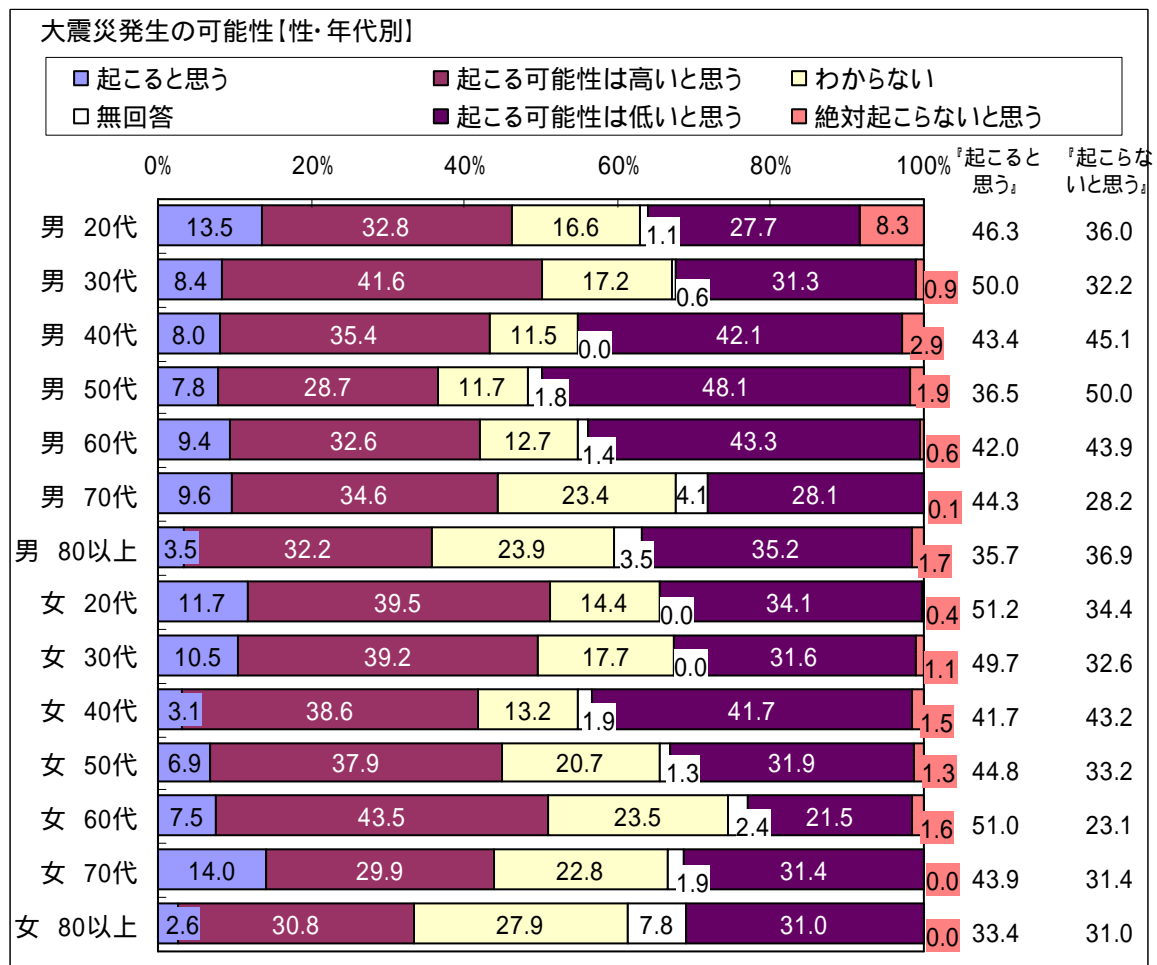
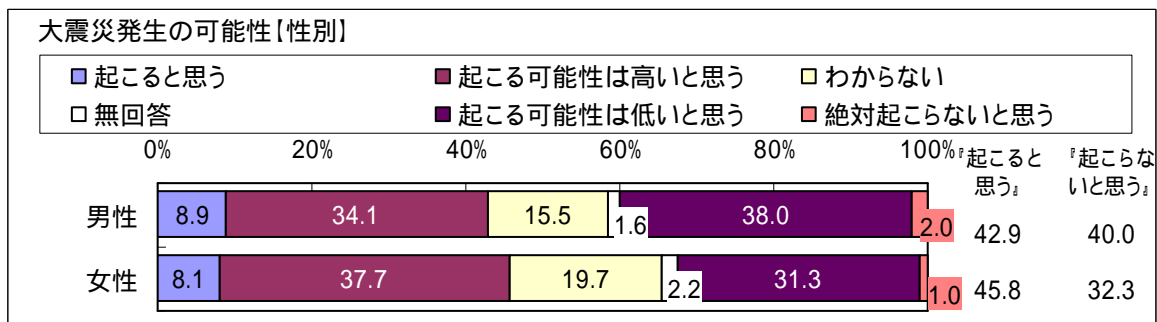
性別、性・年代別

性別で見ると、『起こらないと思う』が女性(32.3%)より男性(40.0%)が多い。

性・年代別で見ると、『起こると思う』は、男性では、30代(50.0%)で5割に及び、4割台の年代が多い中、80歳以上(35.7%)と50代(36.5%)では3割台半ばに止まっている。一方、『起こらないと思う』は、40~60代で4割台前半~5割に及ぶが、70代(28.2%)では3割を下回っている。

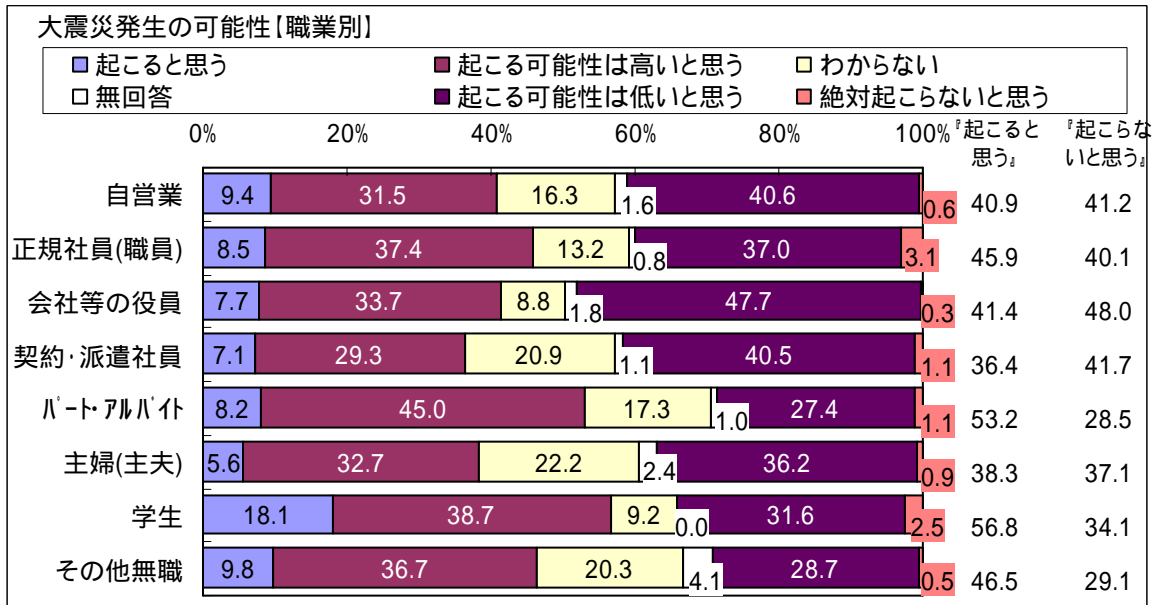
女性では、20代(51.2%)と60代(51.0%)で5割を超え、4割台の年代が多い中、80歳以上(33.4%)では、3割台前半に止まっている。一方、『起こらないと思う』は、40代(43.2%)で4割を超え、3割台の年代が多い中、60代(23.1%)で2割台前半に止まっている。

なお、男性の40~60代、80歳以上、女性の40代では『起こらないと思う』が『起こると思う』を上回っている。



職業別

職業別でみると、『起こると思う』は、学生(56.8%)とパート・アルバイト(53.2%)で5割を超えるが、契約・派遣社員(36.4%)と主婦(主夫)(38.3%)で3割台に止まる。『起こらないと思う』は、会社等の役員(48.0%)で5割近くと最も多いが、パート・アルバイト(28.5%)、その他無職(29.1%)では3割未満となっている。



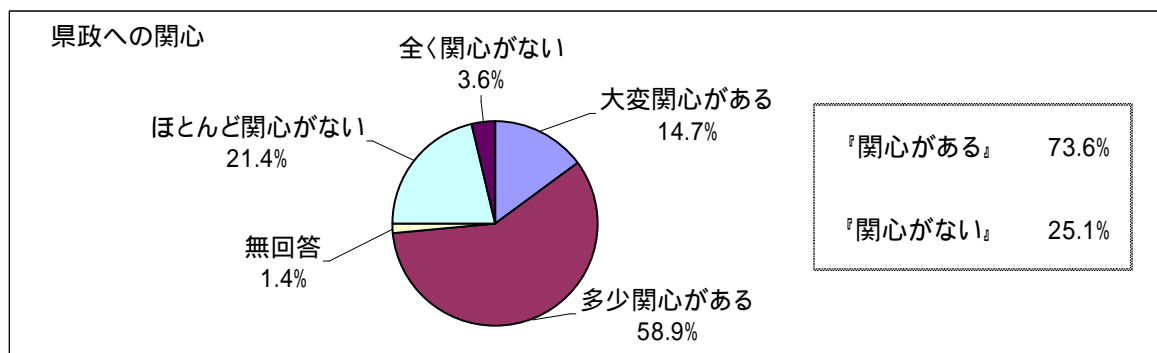
7 県政への意識

(1) 県政への関心

問 16 あなたは県政に関心がありますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選んで番号に印をつけてください。

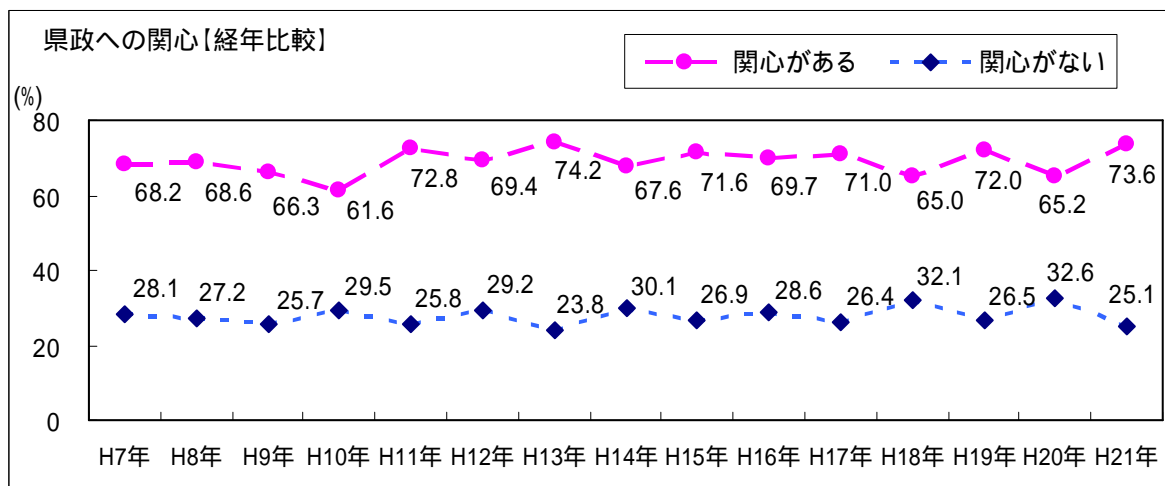
- | | |
|-----------|-------------|
| 1 大変関心がある | 3 ほとんど関心がない |
| 2 多少関心がある | 4 全く関心がない |

『関心がある』（「大変関心がある」と「多少関心がある」の合計 73.6%）は7割台で、『関心がない』（「ほとんど関心がない」と「全く関心がない」の合計 25.1%）は2割台半ばとなっており、『関心がある』が『関心がない』を3倍近く上回っている。



経年比較

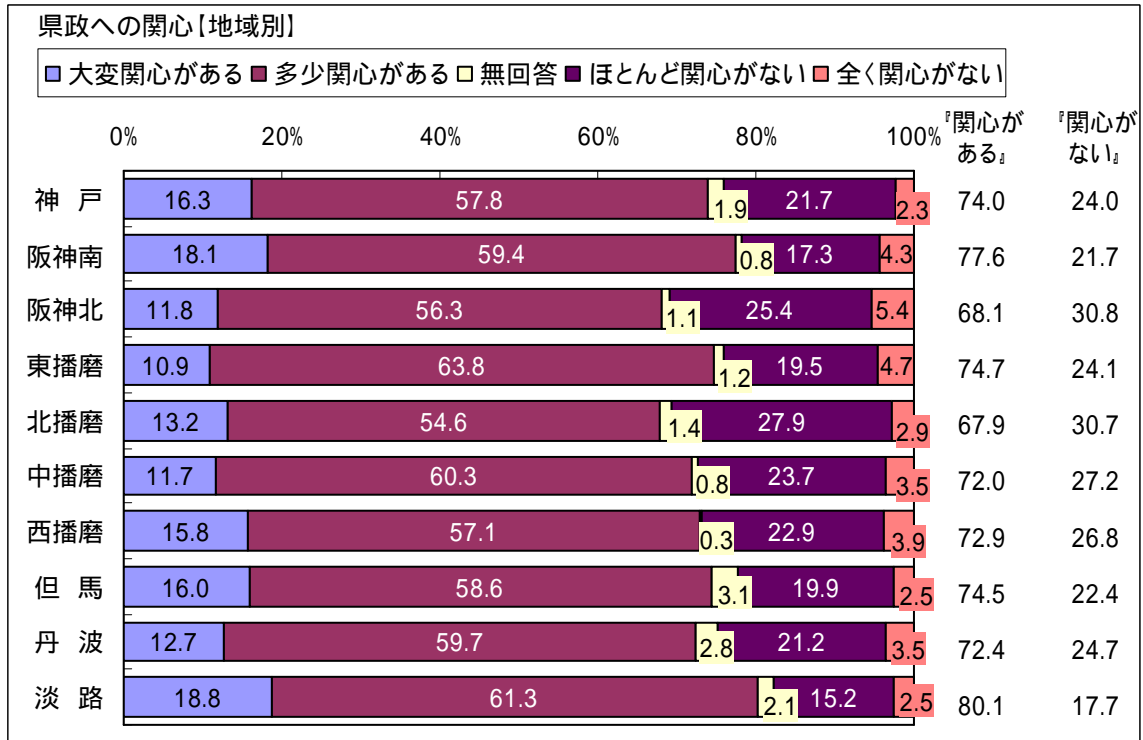
『関心がある』は前年より8.4ポイント増加(65.2% → 73.6%)し、過去最高の平成13年(74.2%)に次ぐ水準で、『関心がない』は前年より7.5ポイント減少(32.6% → 25.1%)し、過去最低の平成13年に迫る水準となっている。



地域別

『関心がある』は、8割に及ぶ淡路(80.1%)を含め8地域で7割を超えるが、北播磨(67.9%)と阪神北(68.1%)では6割台に止まっている。

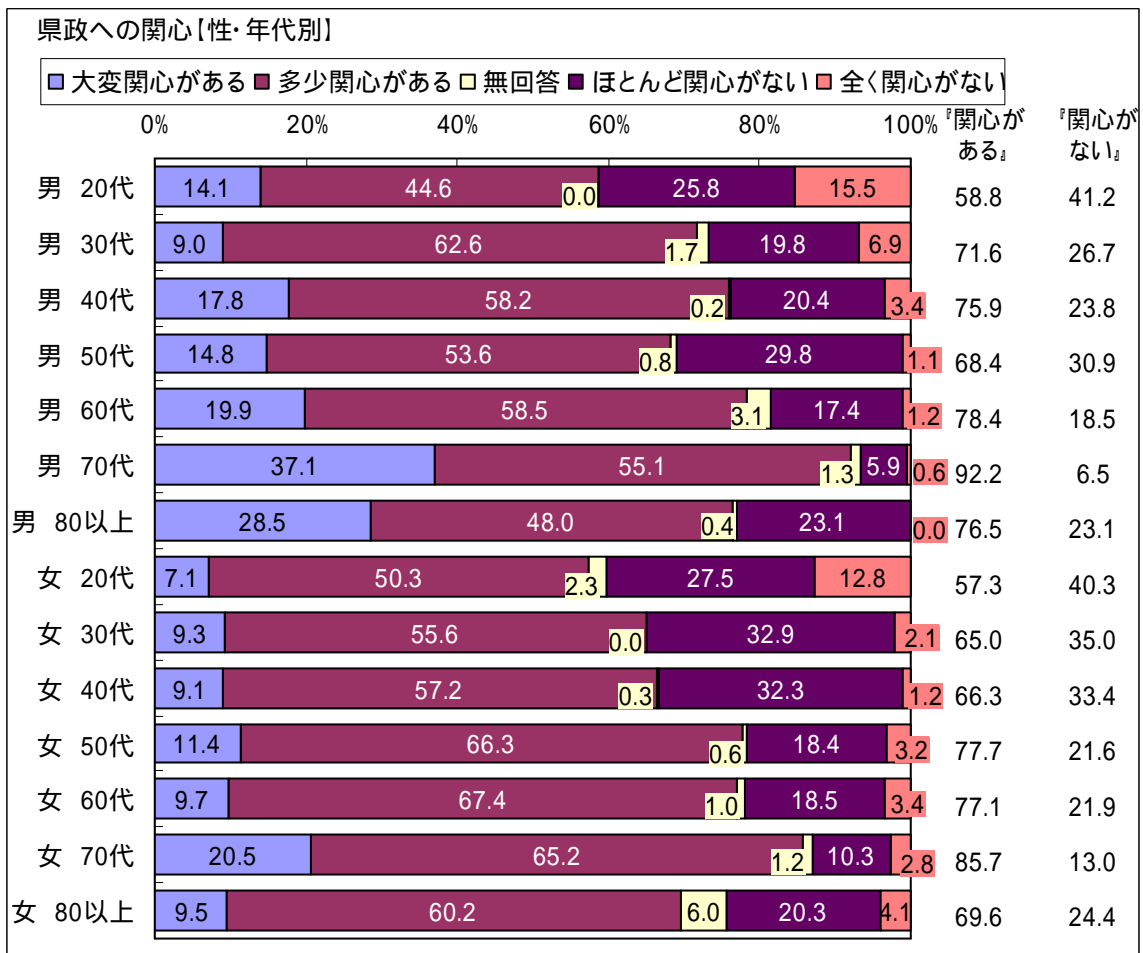
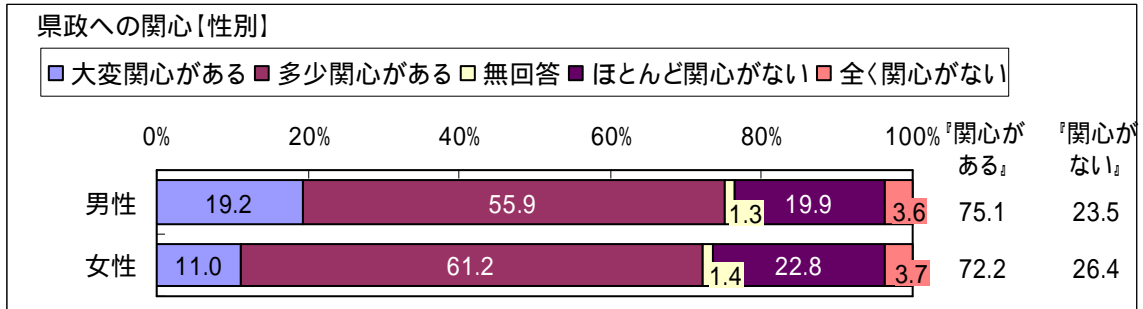
一方、『関心がない』は、阪神北(30.8%)と北播磨(30.7%)で3割となっており、2割台の地域が多い中、淡路(17.7%)では1割台後半と少ない。



性別、性・年代別

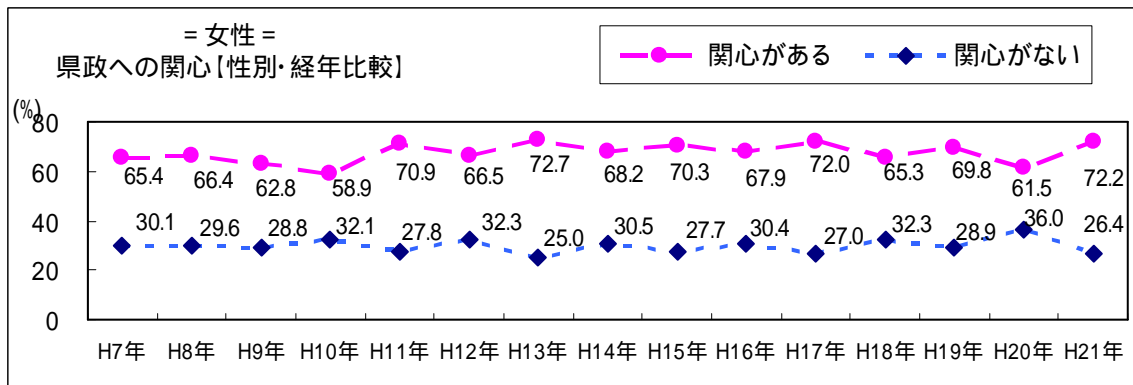
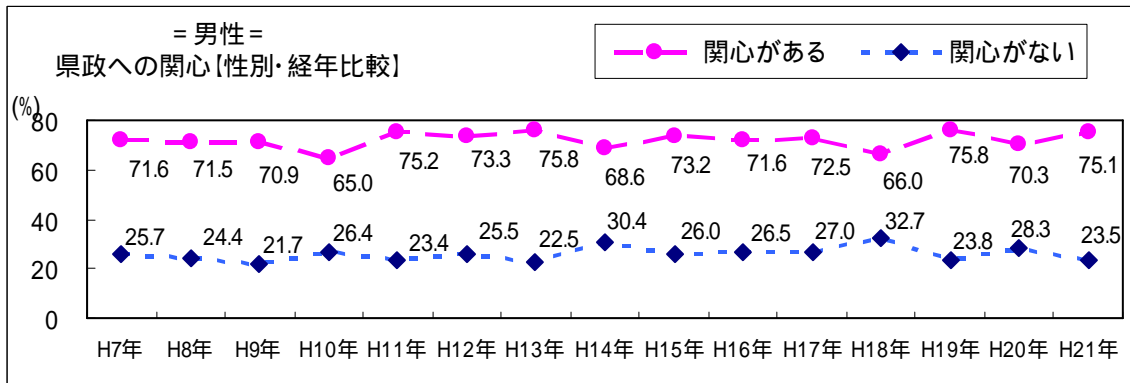
性別では、『関心がある』は、女性(72.2%)より男性(75.1%)でやや多い。

性・年代別で見ると、『関心がある』は、男女とも70代(男92.2%、女85.7%)で最も多く9割前後を占める一方、20代(男58.8%、女57.3%)で6割弱と最も少ない。逆に、『関心がない』では、男女とも20代(男41.2%、女40.3%)で4割と最も多く、70代(男6.5%、女13.0%)で最も少なくなっている。



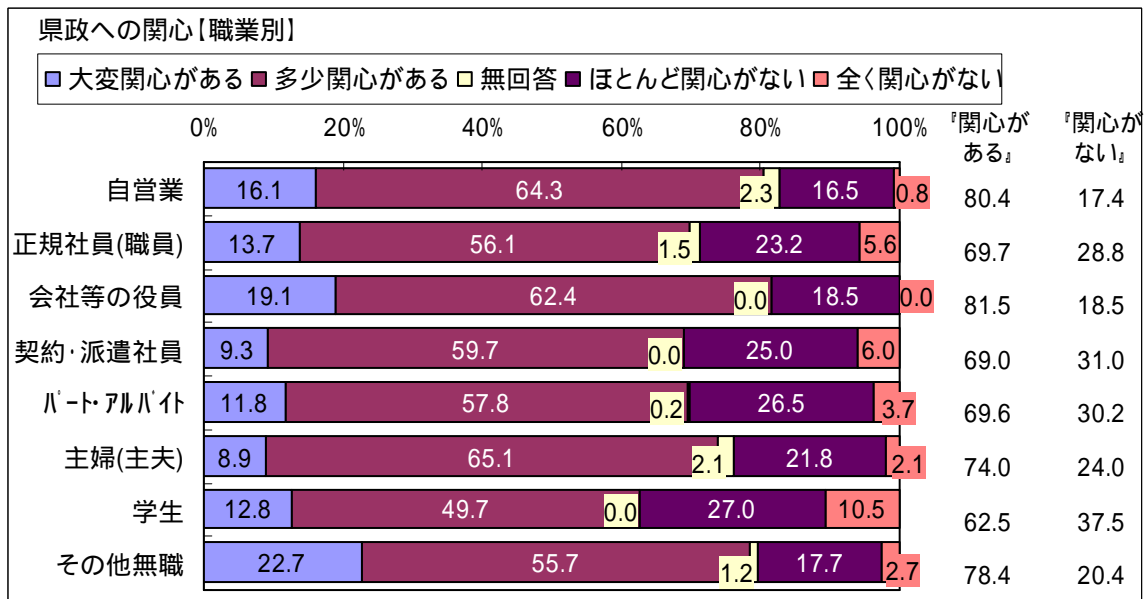
性別（経年比較）

性別の経年変化では、男女とも前年よりも『関心がある』が増加（男 70.3% 75.1%、女 61.5% 72.2%）し、『関心がない』が減少（男 28.3% 23.5%、女 36.0% 26.4%）しているが、女性の方が増減の幅が大きい。



職業別

職業別でみると、『関心がある』は、会社等の役員(81.5%)、自営業(80.4%)で8割を超える一方、学生(62.5%)では6割台前半と少ない。



(2) 県政への評価

問 17 県が行っている仕事をあげています。それぞれについて、あなたのお考えに近いものを1つずつ選んで番号に 印をつけてください。

- (ア) 国際的な交流や協力
- (イ) 県政の広報・広聴活動
- (ウ) 県政の合理的運営（行政改革）への努力
- (エ) 防災対策の充実
- (オ) 豊かな人間性を育む生涯学習活動への支援
- (カ) 豊かな感性を培う芸術文化の振興
- (キ) 自然環境を守り育てる環境対策
- (ク) お年寄りや障害者が安心して暮らせる福祉対策
- (ケ) 病気の予防や病院などの医療施設の充実
- (コ) 創造的活力に富む中小企業の育成
- (サ) 雇用の安定と職業能力の開発
- (シ) 農林水産業の活性化対策
- (ス) 道路、鉄道、空港などの交通網の整備
- (セ) 良質な住宅の供給
- (ソ) 個性と能力を伸ばす学校教育の充実
- (タ) 交通安全・防犯対策
- (チ) 震災からの復興対策

1：よくやっている 3：どちらともいえない 5：もっと努力が必要
2：まあまあやっている 4：もう少し努力が必要

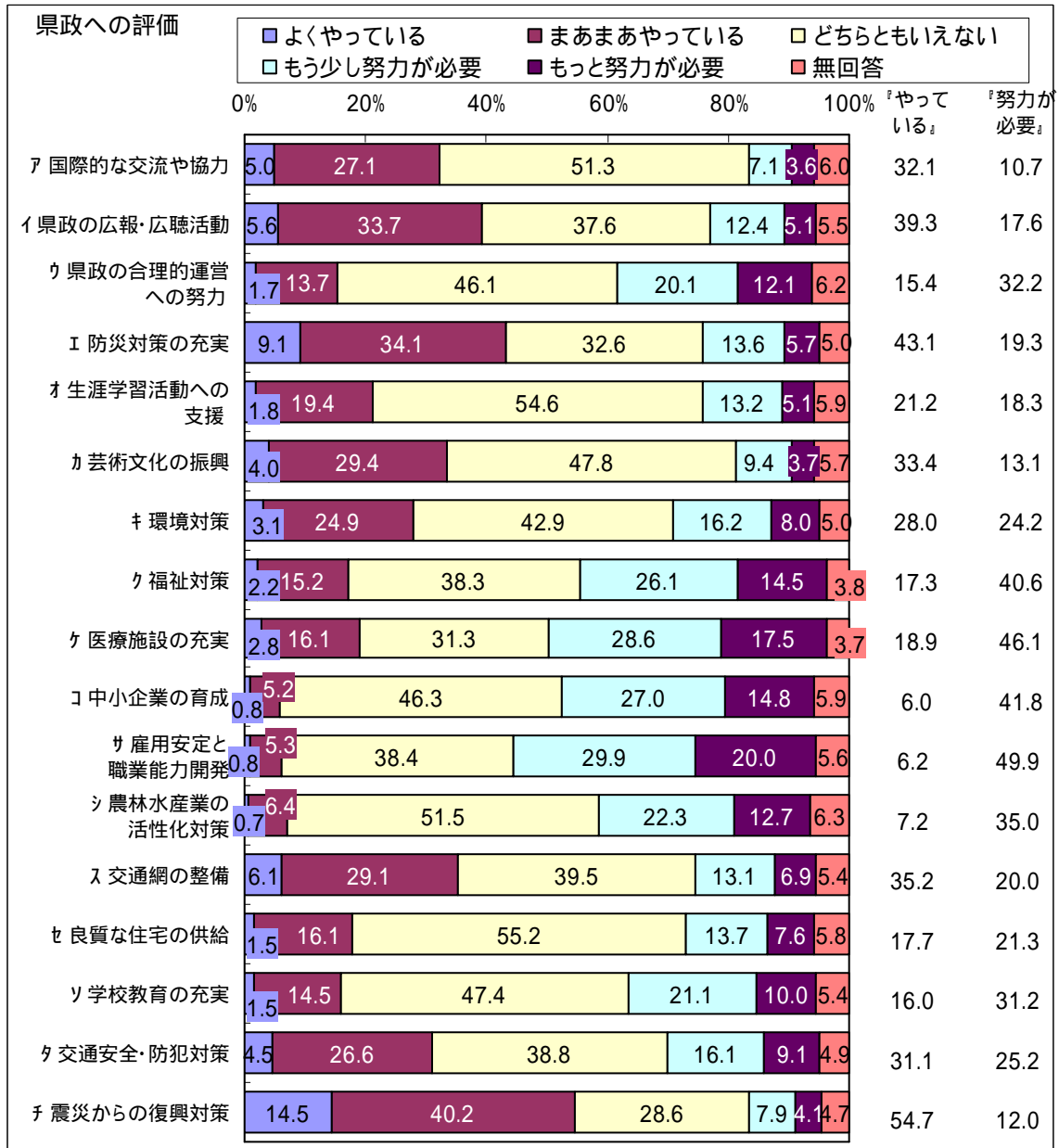
県政の主要 17 項目ごとに 5 段階評価の形で聞いた。

『やっている』（「よくやっている」と「まあまあやっている」の合計）は、「チ 震災からの復興対策」（54.7%）で 5 割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」（43.1%）、「イ 県政の広報・広聴活動」（39.3%）、「ス 交通網の整備」（35.2%）の順で続いている。

『努力が必要』（「もう少し努力が必要」と「もっと努力が必要」の合計）は、「サ 雇用安定と職業能力開発」（49.9%）で約 5 割と最も多く、「ケ 医療施設の充実」（46.1%）、「コ 中小企業の育成」（41.8%）、「ク 福祉対策」（40.6%）の順で続いている。

全 17 項目中、「サ 雇用安定と職業能力開発」など 8 項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。

「どちらともいえない」は、「セ 良質な住宅の供給」（55.2%）、「オ 生涯学習活動への支援」（54.6%）、「シ 農林水産業の活性化対策」（51.5%）、「ア 国際的な交流や協力」（51.3%）で 5 割を超えているが、「チ 震災からの復興対策」（28.6%）、「ケ 医療施設の充実」（31.3%）、「エ 防災対策の充実」（32.6%）は 3 割前後である。



前年度比較

前年との比較では、『やっている』は、「工 防災対策の充実」、「夕 交通安全・防犯対策」、「カ 芸術文化の振興」で5ポイント以上増加するなど11項目で増加している。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」で5.6ポイント増加するなど9項目で増加している。

県政への評価〔前年度比較〕

よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
工 防災対策の充実	5.3
夕 交通安全・防犯対策	5.2
カ 芸術文化の振興	5.0
チ 震災からの復興対策	4.9
ソ 学校教育の充実	2.6
イ 県政の広報・広聴活動	1.5
シ 農林水産業の活性化対策	1.0
コ 中小企業の育成	0.9
ケ 医療施設の充実	0.8
セ 良質な住宅の供給	0.7
サ 雇用安定と職業能力開発	0.6
ウ 県政の合理的運営への努力	-0.1
オ 生涯学習活動への支援	-0.3
ク 福祉対策	-0.4
ア 国際的な交流や協力	-0.6
ス 交通網の整備	-1.8
キ 環境対策	-2.9

県政への評価〔前年度比較〕

もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

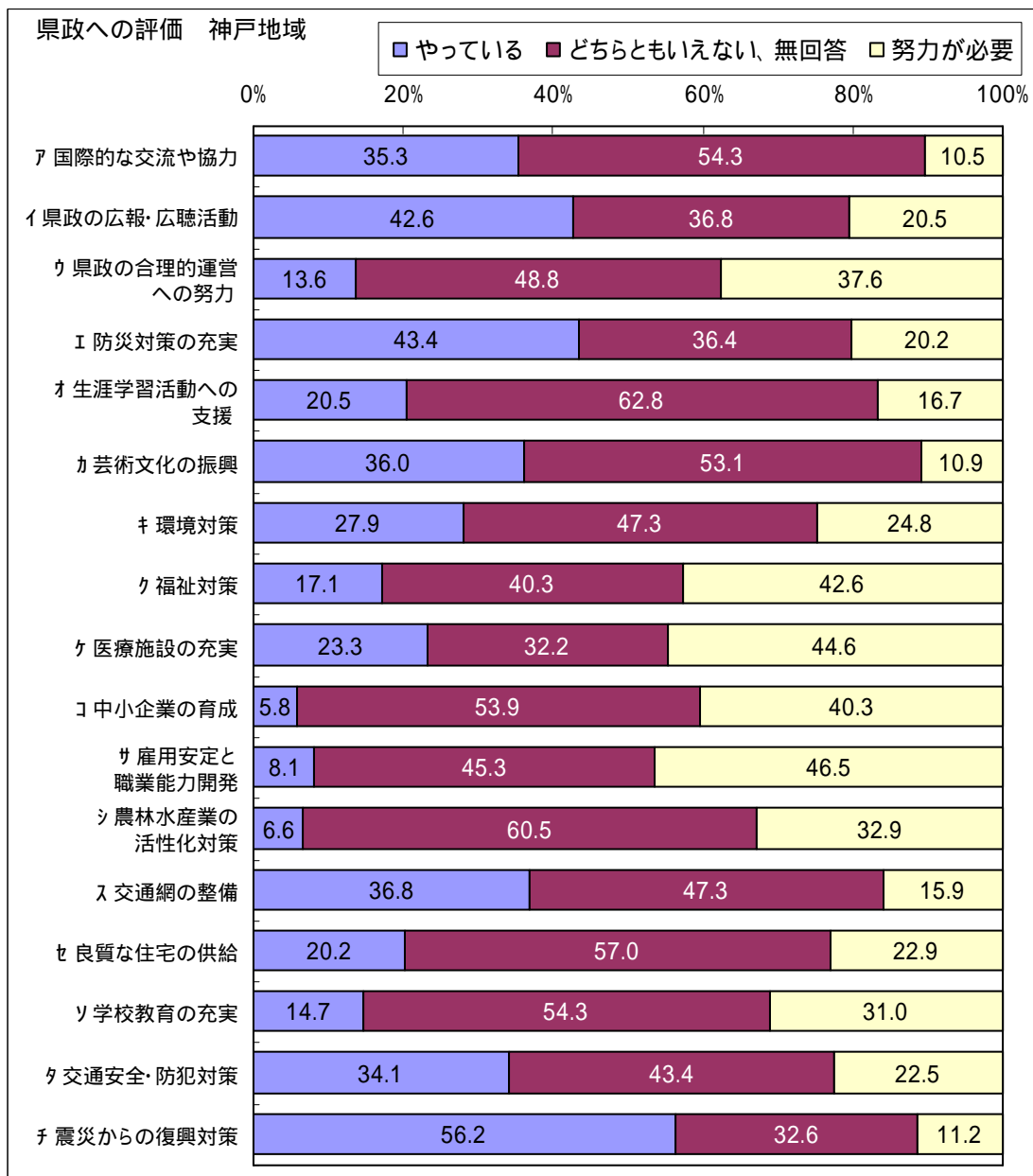
「努力が必要」	増減
サ 雇用安定と職業能力開発	5.6
コ 中小企業の育成	4.2
ケ 医療施設の充実	3.2
ウ 県政の合理的運営への努力	2.8
シ 農林水産業の活性化対策	2.8
ク 福祉対策	2.1
キ 環境対策	1.7
セ 良質な住宅の供給	0.9
イ 県政の広報・広聴活動	0.6
ス 交通網の整備	-0.5
ア 国際的な交流や協力	-1.4
ソ 学校教育の充実	-1.6
チ 震災からの復興対策	-2.0
オ 生涯学習活動への支援	-2.6
工 防災対策の充実	-3.5
カ 芸術文化の振興	-4.5
夕 交通安全・防犯対策	-4.7

《神戸》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(56.2%)で5割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」(43.4%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(42.6%)が4割台で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」(46.5%)で最も多く、「ケ 医療施設の充実」(44.6%)、「ク 福祉対策」(42.6%)、「コ 中小企業の育成」(40.3%)の順で続いている。

17項目中、8項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



神戸で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ケ 医療施設の充実」(4.3ポイント)、「イ 県政の広報・広聴活動」(3.3ポイント)、「ア 国際的な交流や協力」(3.2ポイント)など10項目である。

『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「ウ 県政の合理的運営への努力」(5.4ポイント)、「イ 県政の広報・広聴活動」(3.0ポイント)など6項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「タ 交通安全・防犯対策」(8.2ポイント)、「チ 震災からの復興対策」(6.4ポイント)、「エ 防災対策の充実」(5.6ポイント)など9項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「ケ 医療施設の充実」(8.4ポイント)、「シ 農林水産業の活性化対策」(6.6ポイント)、「ク 福祉対策」(6.0%)など10項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ケ 医療施設の充実	4.3
イ 県政の広報・広聴活動	3.3
ア 国際的な交流や協力	3.2
タ 交通安全・防犯対策	3.0
カ 芸術文化の振興	2.6
セ 良質な住宅の供給	2.5
サ 雇用安定と職業能力開発	2.0
ス 交通網の整備	1.7
チ 震災からの復興対策	1.5
エ 防災対策の充実	0.3
キ 環境対策	0.0
コ 中小企業の育成	-0.2
ク 福祉対策	-0.3
シ 農林水産業の活性化対策	-0.6
オ 生涯学習活動への支援	-0.6
ソ 学校教育の充実	-1.3
ウ 県政の合理的運営への努力	-1.9

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
ウ 県政の合理的運営への努力	5.4
イ 県政の広報・広聴活動	3.0
ク 福祉対策	2.0
セ 良質な住宅の供給	1.6
エ 防災対策の充実	0.9
キ 環境対策	0.6
ソ 学校教育の充実	-0.1
ア 国際的な交流や協力	-0.2
チ 震災からの復興対策	-0.7
コ 中小企業の育成	-1.5
ケ 医療施設の充実	-1.5
オ 生涯学習活動への支援	-1.7
シ 農林水産業の活性化対策	-2.0
カ 芸術文化の振興	-2.2
タ 交通安全・防犯対策	-2.7
サ 雇用安定と職業能力開発	-3.4
ス 交通網の整備	-4.1

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
タ 交通安全・防犯対策	8.2
チ 震災からの復興対策	6.4
エ 防災対策の充実	5.6
カ 芸術文化の振興	4.6
サ 雇用安定と職業能力開発	3.0
イ 県政の広報・広聴活動	2.1
シ 農林水産業の活性化対策	1.5
コ 中小企業の育成	0.8
ケ 医療施設の充実	0.4
ス 交通網の整備	-0.1
ソ 学校教育の充実	-0.2
オ 生涯学習活動への支援	-0.7
セ 良質な住宅の供給	-1.1
ク 福祉対策	-2.6
ウ 県政の合理的運営への努力	-3.4
ア 国際的な交流や協力	-4.1
キ 環境対策	-6.0

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

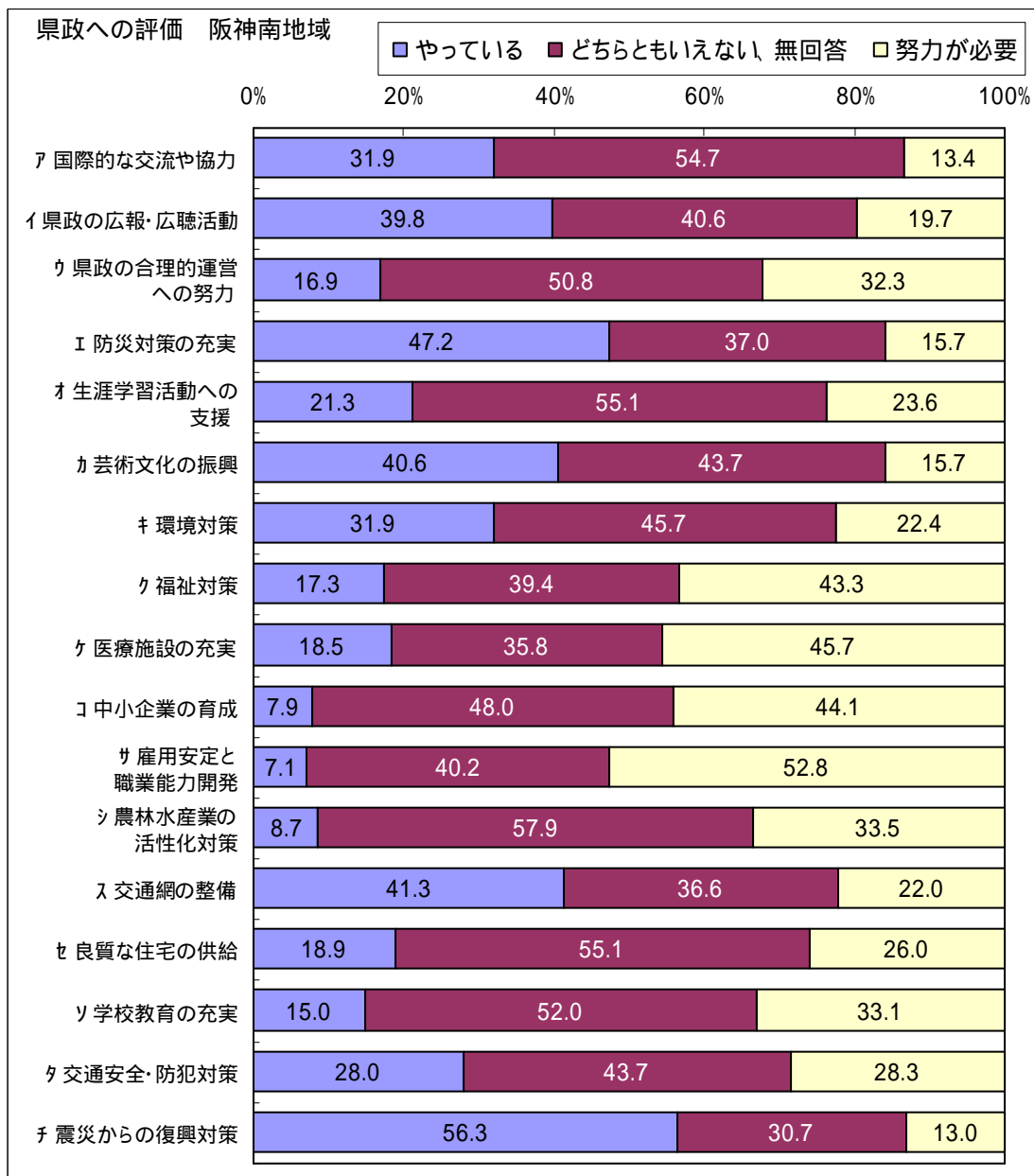
「努力が必要」	増減
ケ 医療施設の充実	8.4
シ 農林水産業の活性化対策	6.6
ク 福祉対策	6.0
ウ 県政の合理的運営への努力	4.5
セ 良質な住宅の供給	4.4
キ 環境対策	4.3
サ 雇用安定と職業能力開発	3.6
イ 県政の広報・広聴活動	3.2
コ 中小企業の育成	2.7
ソ 学校教育の充実	0.7
ア 国際的な交流や協力	-1.7
エ 防災対策の充実	-2.6
チ 震災からの復興対策	-2.7
オ 生涯学習活動への支援	-3.4
ス 交通網の整備	-4.6
カ 芸術文化の振興	-6.9
タ 交通安全・防犯対策	-7.4

《阪神南》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(56.3%)で5割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」(47.2%)、「ス 交通網の整備」(41.3%)、「カ 芸術文化の振興」(40.6%)が4割台で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力の開発」(52.8%)で5割を超え、「ケ 医療施設の充実」(45.7%)、「コ 中小企業の育成」(44.1%)、「ク 福祉対策」(43.3%)が4割台で続いている。

17項目中、10項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



阪神南で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「カ 芸術文化の振興」(7.1ポイント)、「ス 交通網の整備」(6.2ポイント)など12項目である。

『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「オ 生涯学習活動への支援」(5.3ポイント)、「セ 良質な住宅の供給」(4.7ポイント)、「タ 交通安全・防犯対策」(3.1ポイント)など13項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「エ 防災対策の充実」(15.3ポイント)、「カ 芸術文化の振興」(10.4ポイント)、「チ 震災からの復興対策」(9.3ポイント)など15項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「サ 雇用安定と職業能力の開発」(11.8ポイント)、「コ 中小企業の育成」(11.3ポイント)など10項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
カ 芸術文化の振興	7.1
ス 交通網の整備	6.2
エ 防災対策の充実	4.1
キ 環境対策	3.9
コ 中小企業の育成	1.9
チ 震災からの復興対策	1.6
ウ 県政の合理的運営への努力	1.5
シ 農林水産業の活性化対策	1.5
セ 良質な住宅の供給	1.2
サ 雇用安定と職業能力開発	0.9
イ 県政の広報・広聴活動	0.4
オ 生涯学習活動への支援	0.1
ク 福祉対策	0.0
ア 国際的な交流や協力	-0.2
ケ 医療施設の充実	-0.4
ソ 学校教育の充実	-1.1
タ 交通安全・防犯対策	-3.2

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
オ 生涯学習活動への支援	5.3
セ 良質な住宅の供給	4.7
タ 交通安全・防犯対策	3.1
サ 雇用安定と職業能力開発	2.9
ク 福祉対策	2.7
ア 国際的な交流や協力	2.7
カ 芸術文化の振興	2.7
コ 中小企業の育成	2.3
イ 県政の広報・広聴活動	2.1
ス 交通網の整備	2.0
ソ 学校教育の充実	1.9
チ 震災からの復興対策	1.0
ウ 県政の合理的運営への努力	0.1
ケ 医療施設の充実	-0.4
シ 農林水産業の活性化対策	-1.5
キ 環境対策	-1.8
エ 防災対策の充実	-3.5

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
エ 防災対策の充実	15.3
カ 芸術文化の振興	10.4
チ 震災からの復興対策	9.3
ア 国際的な交流や協力	6.9
ウ 県政の合理的運営への努力	6.2
タ 交通安全・防犯対策	6.0
シ 農林水産業の活性化対策	4.8
ス 交通網の整備	4.3
オ 生涯学習活動への支援	4.0
ク 福祉対策	4.0
セ 良質な住宅の供給	3.8
コ 中小企業の育成	3.6
イ 県政の広報・広聴活動	2.7
ケ 医療施設の充実	2.6
サ 雇用安定と職業能力開発	1.9
キ 環境対策	0.0
ソ 学校教育の充実	-0.6

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

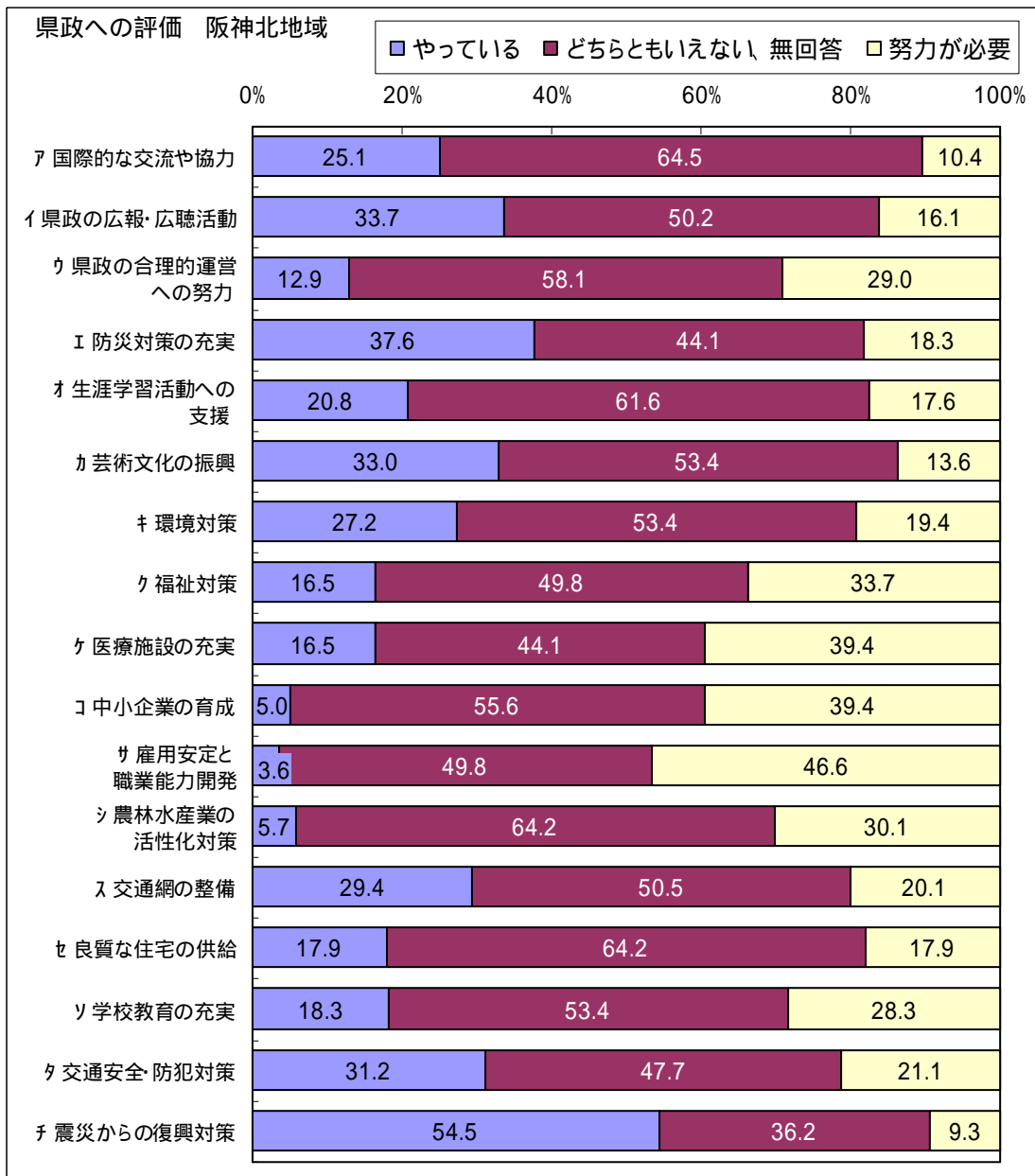
「努力が必要」	増減
サ 雇用安定と職業能力開発	11.8
コ 中小企業の育成	11.3
ク 福祉対策	6.7
セ 良質な住宅の供給	6.2
ス 交通網の整備	4.4
ケ 医療施設の充実	3.9
ウ 県政の合理的運営への努力	2.5
シ 農林水産業の活性化対策	2.4
イ 県政の広報・広聴活動	2.0
オ 生涯学習活動への支援	0.3
ア 国際的な交流や協力	0.0
カ 芸術文化の振興	-0.2
キ 環境対策	-0.4
チ 震災からの復興対策	-0.8
ソ 学校教育の充実	-1.8
タ 交通安全・防犯対策	-3.6
エ 防災対策の充実	-8.4

《阪神北》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(54.5%)で5割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」(37.6%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(33.7%)、「カ 芸術文化の振興」(33.0%)、「タ 交通安全・防犯対策」(31.2%)が3割台で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力の開発」(46.6%)が4割台半ばと最も多く、「ケ 医療施設の充実」、「コ 中小企業の育成」(ともに 39.4%)、「ク 福祉対策」(33.7%)が3割台で続いている。

17項目中、7項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



阪神北で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ソ 学校教育の充実」(2.2ポイント)など3項目である。

『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「カ 芸術文化の振興」(0.5ポイント)など2項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「タ 交通安全・防犯対策」(7.7ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(6.9ポイント)、「カ 芸術文化の振興」(4.2ポイント)など8項目である。一方、「ス 交通網の整備」は前年より13.4ポイント減少している。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「サ 雇用安定と職業能力開発」(4.9ポイント)など3項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ソ 学校教育の充実	2.2
セ 良質な住宅の供給	0.3
タ 交通安全・防犯対策	0.1
チ 震災からの復興対策	-0.3
オ 生涯学習活動への支援	-0.4
カ 芸術文化の振興	-0.4
キ 環境対策	-0.7
ク 福祉対策	-0.8
コ 中小企業の育成	-1.0
シ 農林水産業の活性化対策	-1.4
ケ 医療施設の充実	-2.4
ク 県政の合理的運営への努力	-2.5
サ 雇用安定と職業能力開発	-2.6
イ 防災対策の充実	-5.5
イ 県政の広報・広聴活動	-5.7
ス 交通網の整備	-5.8
ア 国際的な交流や協力	-7.0

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
カ 芸術文化の振興	0.5
ス 交通網の整備	0.1
ア 国際的な交流や協力	-0.3
オ 生涯学習活動への支援	-0.8
イ 防災対策の充実	-1.0
イ 県政の広報・広聴活動	-1.4
コ 中小企業の育成	-2.4
チ 震災からの復興対策	-2.7
ソ 学校教育の充実	-2.8
ウ 県政の合理的運営への努力	-3.2
サ 雇用安定と職業能力開発	-3.3
セ 良質な住宅の供給	-3.4
タ 交通安全・防犯対策	-4.1
キ 環境対策	-4.9
シ 農林水産業の活性化対策	-4.9
ケ 医療施設の充実	-6.7
ク 福祉対策	-6.9

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
タ 交通安全・防犯対策	7.7
ソ 学校教育の充実	6.9
カ 芸術文化の振興	4.2
チ 震災からの復興対策	3.0
オ 生涯学習活動への支援	2.2
イ 県政の広報・広聴活動	1.9
イ 防災対策の充実	1.6
セ 良質な住宅の供給	0.5
コ 中小企業の育成	-0.3
ウ 県政の合理的運営への努力	-0.7
シ 農林水産業の活性化対策	-1.5
ケ 医療施設の充実	-2.1
ク 福祉対策	-2.8
サ 雇用安定と職業能力開発	-3.6
ア 国際的な交流や協力	-3.7
キ 環境対策	-3.8
ス 交通網の整備	-13.4

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

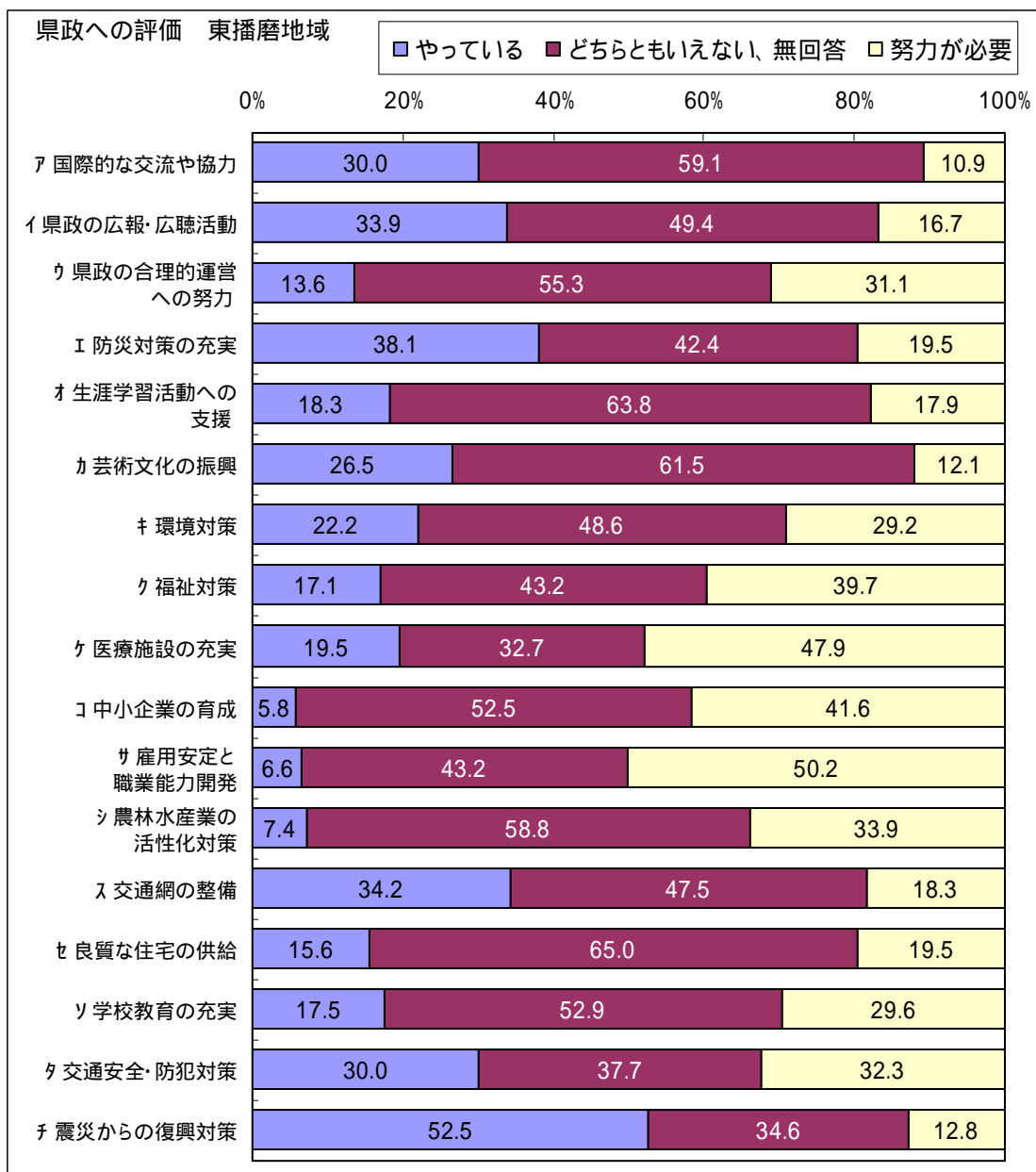
「努力が必要」	増減
サ 雇用安定と職業能力開発	4.9
ス 交通網の整備	1.9
コ 中小企業の育成	1.2
セ 良質な住宅の供給	-1.4
ウ 県政の合理的運営への努力	-2.4
ア 国際的な交流や協力	-2.9
イ 県政の広報・広聴活動	-3.6
ケ 医療施設の充実	-3.8
チ 震災からの復興対策	-4.3
シ 農林水産業の活性化対策	-5.1
ク 福祉対策	-5.7
イ 防災対策の充実	-6.3
ソ 学校教育の充実	-6.5
キ 環境対策	-7.9
カ 芸術文化の振興	-8.0
オ 生涯学習活動への支援	-8.2
タ 交通安全・防犯対策	-8.8

《東播磨》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(52.5%)で5割を超えて最も多く、「エ 防災対策の充実」(38.1%)、「ス 交通網の整備」(34.2%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(33.9%)の順で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」(50.2%)で5割と最も多く、「ケ 医療施設の充実」(47.9%)、「コ 中小企業の育成」(41.6%)が4割台で続いている。

17項目中、10項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



東播磨で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ソ 学校教育の充実」(1.5ポイント)など4項目である。

一方、『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「タ 交通安全・防犯対策」(7.1ポイント)、「キ 環境対策」(4.9ポイント)など7項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「チ 震災からの復興対策」(7.0ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(6.8ポイント)、「エ 防災対策の充実」(4.8ポイント)など7項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「キ 環境対策」(6.2ポイント)、「ウ 県政の合理的運営への努力」(5.7ポイント)、「ケ 医療施設の充実」(4.5ポイント)など7項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ソ 学校教育の充実	1.5
ケ 医療施設の充実	0.5
サ 雇用安定と職業能力開発	0.5
シ 農林水産業の活性化対策	0.2
コ 中小企業の育成	-0.1
ク 福祉対策	-0.2
ス 交通網の整備	-0.9
タ 交通安全・防犯対策	-1.2
ウ 県政の合理的運営への努力	-1.8
セ 良質な住宅の供給	-2.1
ア 国際的な交流や協力	-2.1
チ 震災からの復興対策	-2.2
オ 生涯学習活動への支援	-2.9
エ 防災対策の充実	-5.0
イ 県政の広報・広聴活動	-5.5
キ 環境対策	-5.8
カ 芸術文化の振興	-7.0

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
タ 交通安全・防犯対策	7.1
キ 環境対策	4.9
ケ 医療施設の充実	1.8
チ 震災からの復興対策	0.9
サ 雇用安定と職業能力開発	0.3
ア 国際的な交流や協力	0.2
エ 防災対策の充実	0.2
コ 中小企業の育成	-0.2
オ 生涯学習活動への支援	-0.4
イ 県政の広報・広聴活動	-0.8
ク 福祉対策	-0.9
カ 芸術文化の振興	-1.0
ウ 県政の合理的運営への努力	-1.1
シ 農林水産業の活性化対策	-1.1
ソ 学校教育の充実	-1.6
ス 交通網の整備	-1.7
セ 良質な住宅の供給	-1.8

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
チ 震災からの復興対策	7.0
ソ 学校教育の充実	6.8
エ 防災対策の充実	4.8
サ 雇用安定と職業能力開発	1.2
コ 中小企業の育成	1.2
ク 福祉対策	1.0
タ 交通安全・防犯対策	0.6
カ 芸術文化の振興	-0.4
シ 農林水産業の活性化対策	-0.5
ケ 医療施設の充実	-0.6
セ 良質な住宅の供給	-1.3
ア 国際的な交流や協力	-2.7
ス 交通網の整備	-3.0
キ 環境対策	-3.6
ウ 県政の合理的運営への努力	-4.7
イ 県政の広報・広聴活動	-5.2
オ 生涯学習活動への支援	-7.9

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

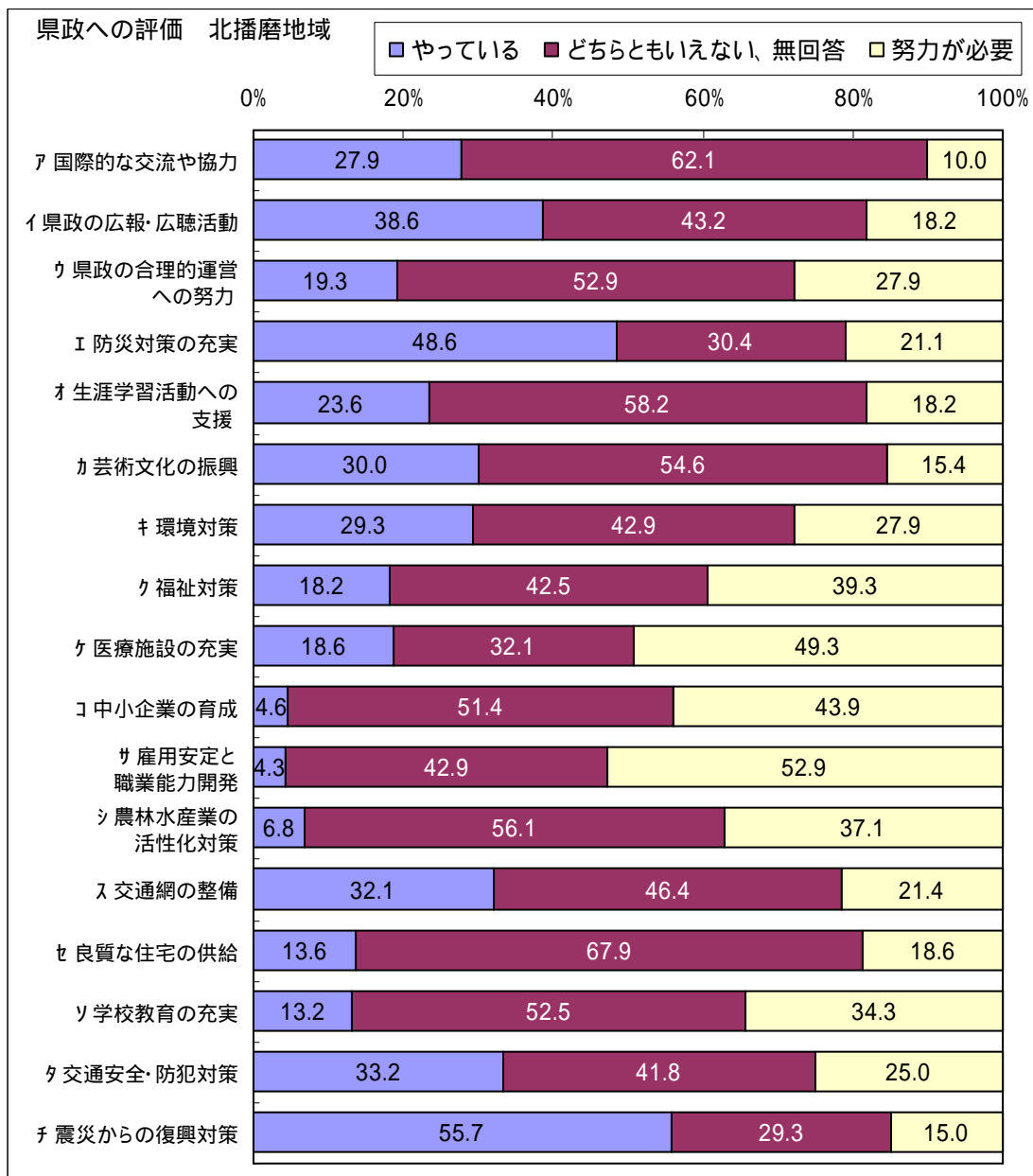
「努力が必要」	増減
キ 環境対策	6.2
ウ 県政の合理的運営への努力	5.7
ケ 医療施設の充実	4.5
タ 交通安全・防犯対策	3.6
サ 雇用安定と職業能力開発	3.2
コ 中小企業の育成	1.8
オ 生涯学習活動への支援	1.1
シ 農林水産業の活性化対策	-0.6
ア 国際的な交流や協力	-0.9
ソ 学校教育の充実	-1.3
イ 県政の広報・広聴活動	-1.9
ク 福祉対策	-2.2
セ 良質な住宅の供給	-2.8
ス 交通網の整備	-4.3
チ 震災からの復興対策	-5.1
カ 芸術文化の振興	-5.1
エ 防災対策の充実	-6.0

《北播磨》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(55.7%)で5割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」(48.6%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(38.6%)と続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」(52.9%)で5割を超えて最も多く、「ケ 医療施設の充実」(49.3%)、「コ 中小企業の育成」(43.9%)の順で続いている。

17項目中、9項目で『やっている』が『努力が必要』を上回っている。



北播磨で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「工 防災対策の充実」(5.4ポイント)、ウ 県政の合理的運営への努力」(3.9ポイント)など7項目である。

『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「キ 環境対策」(3.6ポイント)、「ケ 医療施設の充実」(3.2ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(3.1ポイント)など11項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「チ 震災からの復興対策」(8.4ポイント)、「カ 芸術文化の振興」(7.5ポイント)、「ス 交通網の整備」(4.9ポイント)など8項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「サ 雇用安定と職業能力開発」(8.9ポイント)、「キ 環境対策」(5.7ポイント)、「工 防災対策の充実」(5.4ポイント)など13項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
工 防災対策の充実	5.4
ウ 県政の合理的運営への努力	3.9
オ 生涯学習活動への支援	2.4
タ 交通安全・防犯対策	2.1
キ 環境対策	1.3
チ 震災からの復興対策	1.0
ク 福祉対策	0.9
ケ 医療施設の充実	-0.3
シ 農林水産業の活性化対策	-0.4
イ 県政の広報・広聴活動	-0.8
コ 中小企業の育成	-1.3
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.9
ソ 学校教育の充実	-2.8
ス 交通網の整備	-3.0
カ 芸術文化の振興	-3.4
セ 良質な住宅の供給	-4.1
ア 国際的な交流や協力	-4.2

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
キ 環境対策	3.6
ケ 医療施設の充実	3.2
ソ 学校教育の充実	3.1
チ 震災からの復興対策	3.0
サ 雇用安定と職業能力開発	3.0
カ 芸術文化の振興	2.3
シ 農林水産業の活性化対策	2.1
コ 中小企業の育成	2.1
工 防災対策の充実	1.8
ス 交通網の整備	1.4
イ 県政の広報・広聴活動	0.7
オ 生涯学習活動への支援	-0.1
タ 交通安全・防犯対策	-0.2
ア 国際的な交流や協力	-0.7
ク 福祉対策	-1.3
セ 良質な住宅の供給	-2.7
ウ 県政の合理的運営への努力	-4.4

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
チ 震災からの復興対策	8.4
カ 芸術文化の振興	7.5
ス 交通網の整備	4.9
ケ 医療施設の充実	3.7
工 防災対策の充実	3.1
タ 交通安全・防犯対策	3.0
ウ 県政の合理的運営への努力	2.6
セ 良質な住宅の供給	1.9
オ 生涯学習活動への支援	-0.4
コ 中小企業の育成	-0.8
イ 県政の広報・広聴活動	-1.1
シ 農林水産業の活性化対策	-1.2
ク 福祉対策	-1.4
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.5
ソ 学校教育の充実	-2.4
キ 環境対策	-2.7
ア 国際的な交流や協力	-5.6

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

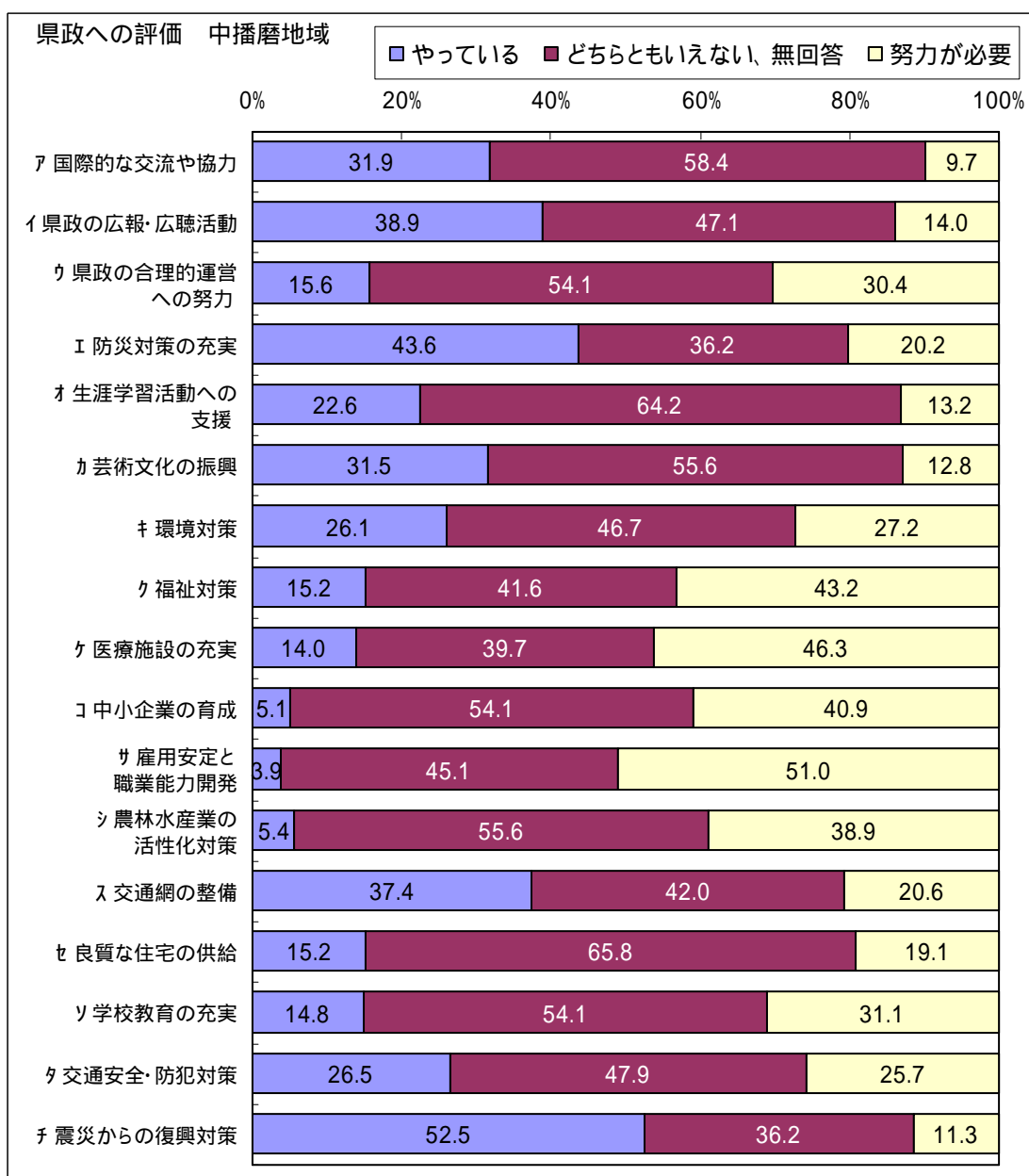
「努力が必要」	増減
サ 雇用安定と職業能力開発	8.9
キ 環境対策	5.7
工 防災対策の充実	5.4
コ 中小企業の育成	4.3
シ 農林水産業の活性化対策	4.1
チ 震災からの復興対策	3.0
イ 県政の広報・広聴活動	2.6
ク 福祉対策	1.8
タ 交通安全・防犯対策	1.7
ソ 学校教育の充実	1.6
カ 芸術文化の振興	0.8
オ 生涯学習活動への支援	0.8
ケ 医療施設の充実	0.6
ア 国際的な交流や協力	-0.2
ウ 県政の合理的運営への努力	-0.5
セ 良質な住宅の供給	-1.8
ス 交通網の整備	-4.4

《中播磨》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(52.5%)で5割を超えて最も多く、「エ 防災対策の充実」(43.6%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(38.9%)、「ス 交通網の整備」(37.4%)の順で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力の開発」(51.0%)で5割を超えて最も多く、「ケ 医療施設の充実」(46.3%)、「ク 福祉対策」(43.2%)、「コ 中小企業の育成」(40.9%)が4割台で続いている。

17項目中、9項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



中播磨で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ス 交通網の整備」(2.2ポイント)、「オ 生涯学習活動への支援」(1.4ポイント)など4項目である。

『努力が必要』が全県結果を上回っているのは、「シ 農林水産業の活性化対策」(3.9ポイント)、「キ 環境対策」(3.0ポイント)、「ク 福祉対策」(2.6ポイント)など8項目である。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「チ 震災からの復興対策」(11.4ポイント)、「カ 芸術文化の振興」(7.1ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(5.5ポイント)、「タ 交通安全・防犯対策」(5.1ポイント)の12項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「シ 農林水産業の活性化対策」(6.0ポイント)、「ウ 県政の合理的運営への努力」(5.2ポイント)、「サ 雇用安定と職業能力の開発」、「ケ 医療施設の充実」(ともに4.8ポイント)など7項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ス 交通網の整備	2.2
オ 生涯学習活動への支援	1.4
イ 防災対策の充実	0.4
ウ 県政の合理的運営への努力	0.1
ア 国際的な交流や協力	-0.2
イ 県政の広報・広聴活動	-0.4
コ 中小企業の育成	-0.9
ソ 学校教育の充実	-1.2
シ 農林水産業の活性化対策	-1.7
キ 環境対策	-1.9
カ 芸術文化の振興	-1.9
ク 福祉対策	-2.1
チ 震災からの復興対策	-2.2
サ 雇用安定と職業能力開発	-2.3
セ 良質な住宅の供給	-2.5
タ 交通安全・防犯対策	-4.7
ケ 医療施設の充実	-4.9

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
シ 農林水産業の活性化対策	3.9
キ 環境対策	3.0
ク 福祉対策	2.6
サ 雇用安定と職業能力開発	1.1
イ 防災対策の充実	1.0
ス 交通網の整備	0.6
タ 交通安全・防犯対策	0.5
ケ 医療施設の充実	0.2
ソ 学校教育の充実	0.0
カ 芸術文化の振興	-0.2
チ 震災からの復興対策	-0.7
コ 中小企業の育成	-0.9
ア 国際的な交流や協力	-1.0
ウ 県政の合理的運営への努力	-1.9
セ 良質な住宅の供給	-2.2
イ 県政の広報・広聴活動	-3.5
オ 生涯学習活動への支援	-5.1

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
チ 震災からの復興対策	11.4
カ 芸術文化の振興	7.1
ソ 学校教育の充実	5.5
タ 交通安全・防犯対策	5.1
ス 交通網の整備	4.8
イ 防災対策の充実	4.4
イ 県政の広報・広聴活動	2.9
キ 環境対策	2.0
コ 中小企業の育成	2.0
オ 生涯学習活動への支援	1.6
セ 良質な住宅の供給	0.8
ア 国際的な交流や協力	0.5
ウ 県政の合理的運営への努力	-0.3
ク 福祉対策	-0.3
ケ 医療施設の充実	-0.3
シ 農林水産業の活性化対策	-1.1
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.9

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

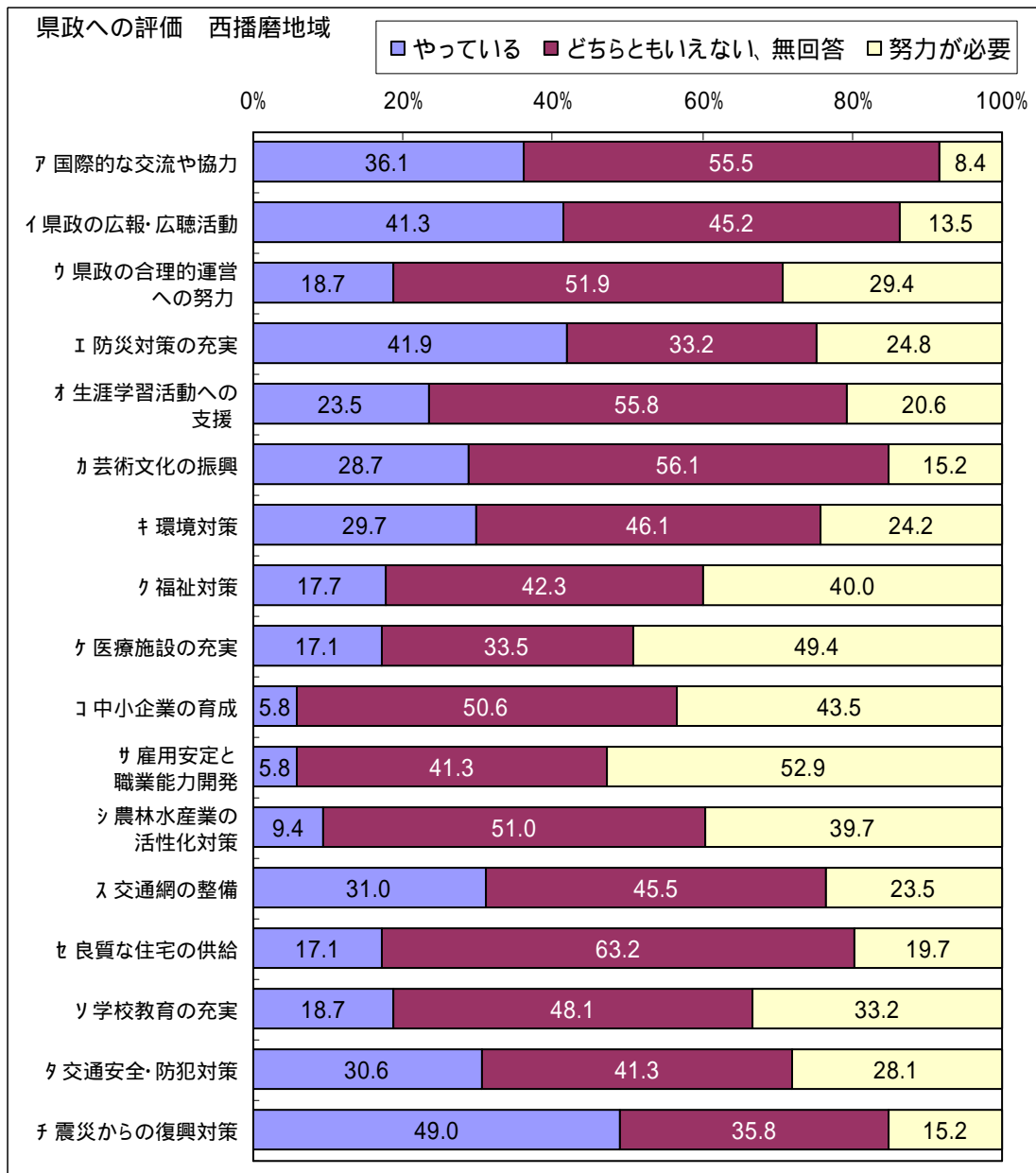
「努力が必要」	増減
シ 農林水産業の活性化対策	6.0
ウ 県政の合理的運営への努力	5.2
サ 雇用安定と職業能力開発	4.8
ケ 医療施設の充実	4.8
ク 福祉対策	2.9
キ 環境対策	2.0
イ 県政の広報・広聴活動	0.8
コ 中小企業の育成	-0.6
イ 防災対策の充実	-1.1
ア 国際的な交流や協力	-2.7
ス 交通網の整備	-3.0
ソ 学校教育の充実	-3.8
セ 良質な住宅の供給	-4.6
カ 芸術文化の振興	-6.2
タ 交通安全・防犯対策	-6.5
チ 震災からの復興対策	-6.5
オ 生涯学習活動への支援	-7.7

《西播磨》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(49.0%)で5割近くと最も多く、「エ 防災対策の充実」(41.9%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(41.3%)、「ア 国際的な交流や協力」(36.1%)の順で続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」(52.9%)で5割を超えて最も多く、「ケ 医療施設の充実」(49.4%)、「コ 中小企業の育成」(43.5%)、「ク 福祉対策」(40.0%)、「シ 農林水産業の活性化対策」(39.7%)と続いている。

17項目中、8項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



西播磨で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ア 国際的な交流や協力」(4.1ポイント)、
「ウ 県政の合理的運営への努力」(3.3ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(2.7ポイント)など8項目である。

『努力が必要』は、「エ 防災対策の充実」(5.6ポイント)、「シ 農林水産業の活性化対策」(4.7ポイント)
など11項目で全県結果を上回っている。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「イ 県政の広報・広聴活動」(5.4ポイント)、「ソ 学
校教育の充実」(5.2ポイント)、「タ 交通安全・防犯対策」、「ス 交通網の整備」(ともに4.5ポイント)な
ど12項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「エ 防災対策の充実」(5.5ポイント)、「シ 農林水産
業の活性化対策」(4.4ポイント)、「キ 環境対策」(3.5ポイント)など10項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ア 国際的な交流や協力	4.1
ウ 県政の合理的運営への努力	3.3
ソ 学校教育の充実	2.7
オ 生涯学習活動への支援	2.4
シ 農林水産業の活性化対策	2.2
イ 県政の広報・広聴活動	1.9
キ 環境対策	1.7
ク 福祉対策	0.4
コ 中小企業の育成	-0.2
サ 雇用安定と職業能力開発	-0.3
タ 交通安全・防犯対策	-0.5
セ 良質な住宅の供給	-0.6
エ 防災対策の充実	-1.2
ケ 医療施設の充実	-1.8
ス 交通網の整備	-4.2
カ 芸術文化の振興	-4.7
チ 震災からの復興対策	-5.7

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
エ 防災対策の充実	5.6
シ 農林水産業の活性化対策	4.7
ス 交通網の整備	3.6
ケ 医療施設の充実	3.3
チ 震災からの復興対策	3.2
サ 雇用安定と職業能力開発	3.0
タ 交通安全・防犯対策	2.9
オ 生涯学習活動への支援	2.3
カ 芸術文化の振興	2.1
ソ 学校教育の充実	2.1
コ 中小企業の育成	1.8
キ 環境対策	0.0
ク 福祉対策	-0.6
セ 良質な住宅の供給	-1.6
ア 国際的な交流や協力	-2.3
ウ 県政の合理的運営への努力	-2.9
イ 県政の広報・広聴活動	-4.0

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
イ 県政の広報・広聴活動	5.4
ソ 学校教育の充実	5.2
タ 交通安全・防犯対策	4.5
ス 交通網の整備	4.5
ア 国際的な交流や協力	4.3
カ 芸術文化の振興	4.0
ケ 医療施設の充実	2.9
ウ 県政の合理的運営への努力	2.1
チ 震災からの復興対策	1.9
エ 防災対策の充実	1.3
セ 良質な住宅の供給	1.2
シ 農林水産業の活性化対策	0.9
キ 環境対策	-0.5
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.3
オ 生涯学習活動への支援	-1.9
ク 福祉対策	-2.3
コ 中小企業の育成	-2.3

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

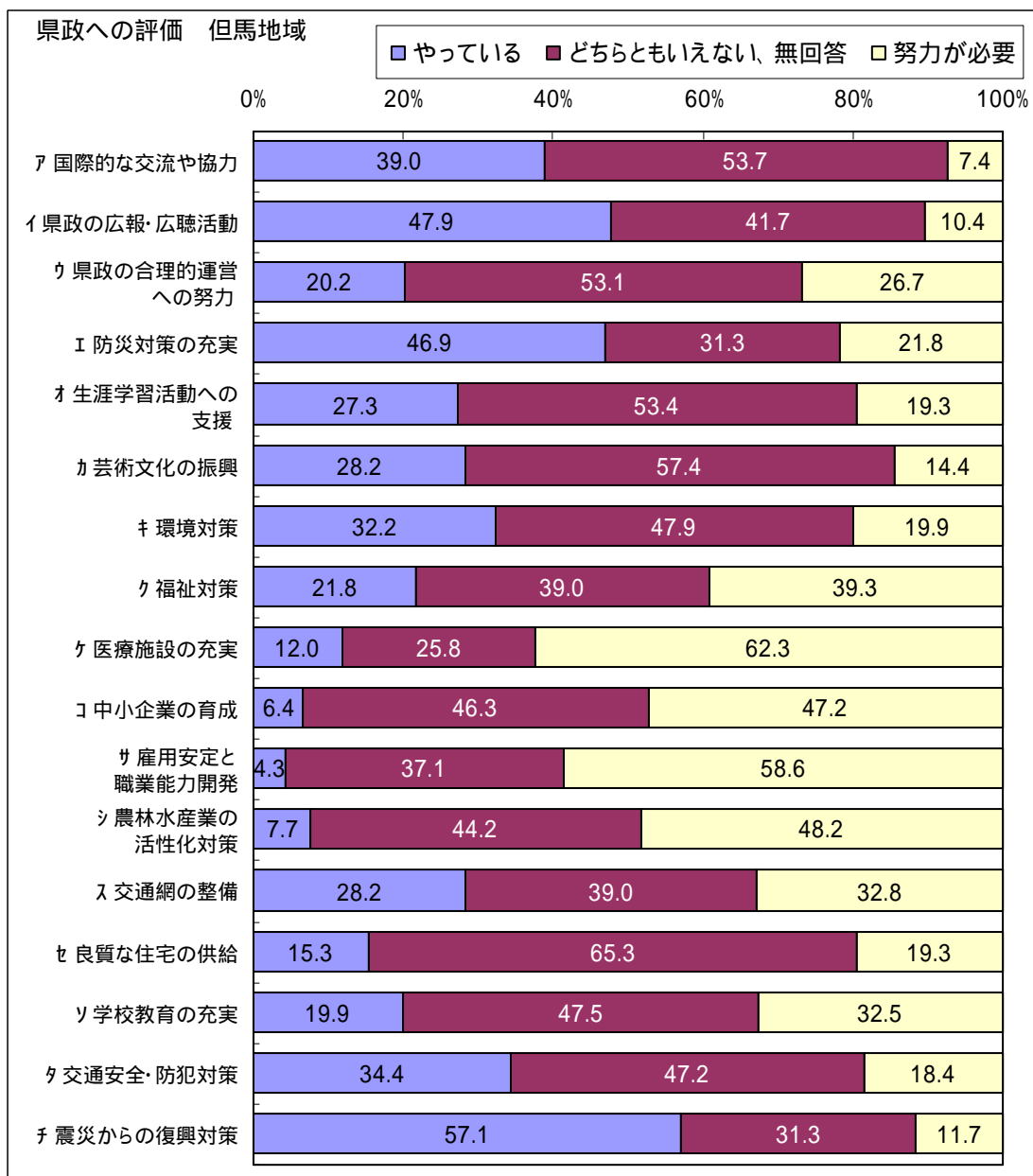
「努力が必要」	増減
エ 防災対策の充実	5.5
シ 農林水産業の活性化対策	4.4
キ 環境対策	3.5
ウ 県政の合理的運営への努力	2.9
コ 中小企業の育成	2.9
チ 震災からの復興対策	2.6
サ 雇用安定と職業能力開発	2.1
オ 生涯学習活動への支援	1.7
ク 福祉対策	1.0
ソ 学校教育の充実	0.7
セ 良質な住宅の供給	-0.7
カ 芸術文化の振興	-0.8
ア 国際的な交流や協力	-2.1
タ 交通安全・防犯対策	-2.8
イ 県政の広報・広聴活動	-3.1
ケ 医療施設の充実	-4.9
ス 交通網の整備	-8.0

《但馬》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(57.1%)で5割台後半と最も多く、「イ 県政の広報・広聴活動」(47.9%)、「エ 防災対策の充実」(46.9%)が4割台で続いている。

『努力が必要』は、「セ 雇用安定と職業能力開発」(58.6%)、「シ 農林水産業の活性化対策」(48.2%)、「コ 中小企業の育成」(47.2%)、「ク 福祉対策」(39.3%)の順で続いている。

17項目中、9項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



但馬で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「イ 県政の広報・広聴活動」(8.5ポイント)、
「ア 国際的な交流や協力」(6.9ポイント)、「生涯学習活動への支援」(6.1ポイント)など12項目とな
っている。

『努力が必要』は、「ケ 医療施設の充実」(16.2ポイント)、「シ 農林水産業の活性化対策」(13.2ポ
イント)、「ス 交通網の整備」(12.8ポイント)の3項目で10ポイント以上上回るなど、9項目で全県結果を
上回っている。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「イ 県政の広報・広聴活動」(5.8ポイント)、「ソ 学
校教育の充実」(4.3ポイント)など7項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「サ 雇用安定と職業能力開発」(8.1ポイント)、「シ
農林水産業の活性化対策」(5.2ポイント)、「エ 防災対策の充実」(3.6ポイント)の8項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
イ 県政の広報・広聴活動	8.5
ア 国際的な交流や協力	6.9
オ 生涯学習活動への支援	6.1
ウ 県政の合理的運営への努力	4.8
ク 福祉対策	4.5
キ 環境対策	4.3
ソ 学校教育の充実	3.9
エ 防災対策の充実	3.8
タ 交通安全・防犯対策	3.2
チ 震災からの復興対策	2.3
シ 農林水産業の活性化対策	0.5
コ 中小企業の育成	0.5
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.9
セ 良質な住宅の供給	-2.3
カ 芸術文化の振興	-5.2
ス 交通網の整備	-6.9
ケ 医療施設の充実	-7.0

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
ケ 医療施設の充実	16.2
シ 農林水産業の活性化対策	13.2
ス 交通網の整備	12.8
サ 雇用安定と職業能力開発	8.7
コ 中小企業の育成	5.4
エ 防災対策の充実	2.5
ソ 学校教育の充実	1.4
カ 芸術文化の振興	1.3
オ 生涯学習活動への支援	1.0
チ 震災からの復興対策	-0.3
ク 福祉対策	-1.3
セ 良質な住宅の供給	-1.9
ア 国際的な交流や協力	-3.3
キ 環境対策	-4.3
ウ 県政の合理的運営への努力	-5.5
タ 交通安全・防犯対策	-6.8
イ 県政の広報・広聴活動	-7.1

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
イ 県政の広報・広聴活動	5.8
ソ 学校教育の充実	4.3
ア 国際的な交流や協力	1.3
コ 中小企業の育成	1.1
セ 良質な住宅の供給	0.9
タ 交通安全・防犯対策	0.8
ケ 医療施設の充実	0.7
サ 雇用安定と職業能力開発	-0.1
シ 農林水産業の活性化対策	-0.2
カ 芸術文化の振興	-0.6
オ 生涯学習活動への支援	-0.9
ス 交通網の整備	-0.9
エ 防災対策の充実	-1.0
ク 福祉対策	-1.4
チ 震災からの復興対策	-1.6
ウ 県政の合理的運営への努力	-2.3
キ 環境対策	-6.7

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

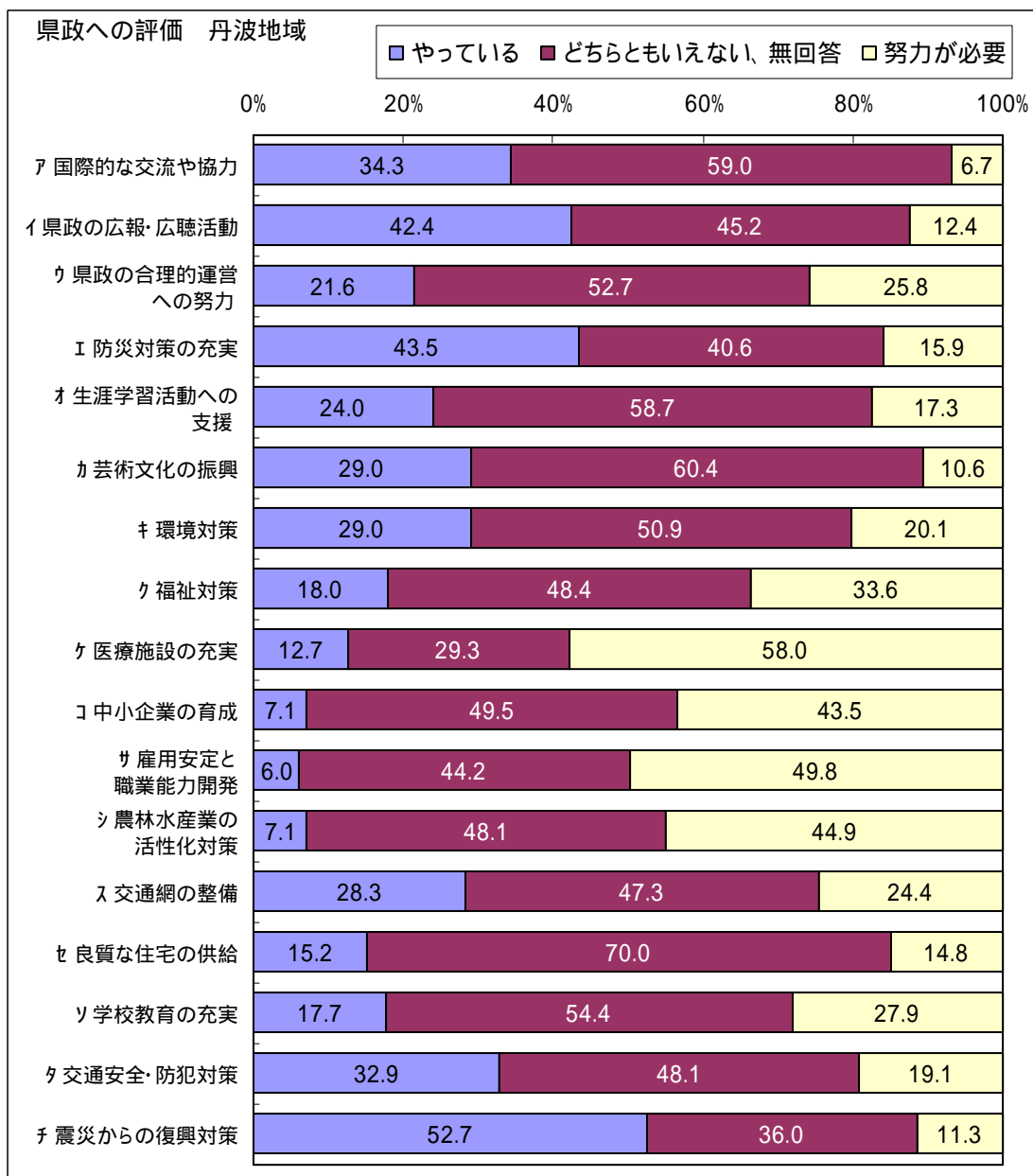
「努力が必要」	増減
サ 雇用安定と職業能力開発	8.1
シ 農林水産業の活性化対策	5.2
エ 防災対策の充実	3.6
ケ 医療施設の充実	2.4
キ 環境対策	2.4
ソ 学校教育の充実	2.1
チ 震災からの復興対策	0.7
ス 交通網の整備	0.5
コ 中小企業の育成	-0.4
ア 国際的な交流や協力	-0.5
ク 福祉対策	-0.5
セ 良質な住宅の供給	-1.1
イ 県政の広報・広聴活動	-1.5
タ 交通安全・防犯対策	-1.7
オ 生涯学習活動への支援	-2.0
ウ 県政の合理的運営への努力	-2.8
カ 芸術文化の振興	-3.1

《丹波》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(52.7%)で5割を超えて最も多く、「エ 防災対策の充実」(43.5%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(42.4%)が4割台で続いている。

『努力が必要』は、「ケ 医療施設の充実」(58.0%)が6割近くと最も多く、「サ 雇用安定と職業能力開発」(49.8%)、「シ 農林水産業の活性化対策」(44.9%)、「コ 中小企業の育成」(43.5%)が4割台で続いている。

17項目中、7項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



丹波で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ウ 県政の合理的運営への努力」(6.1ポイント)、「イ 県政の広報・広聴活動」(3.1ポイント)、「オ 生涯学習活動への支援」(2.8ポイント)など10項目である。

『努力が必要』は、「ケ 医療施設の充実」で全県結果を11.9ポイント上回っており、「シ 農林水産業の活性化」(9.9ポイント)、「ス 交通網の整備」(4.4ポイント)など計4項目で全県結果を上回っている。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「エ 防災対策の充実」(8.1ポイント)、「チ 震災からの復興対策」(5.4ポイント)、「ケ 医療施設の充実」(3.9ポイント)、「ス 交通網の整備」(3.8ポイント)など10項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「キ 環境対策」(7.2ポイント)、「コ 中小企業の育成」(6.7ポイント)、「サ 雇用安定と職業能力開発」(5.6ポイント)、「シ 農林水産業の活性化対策」(5.1ポイント)など7項目である。

県政への評価【全県結果との比較】

よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ウ 県政の合理的運営への努力	6.1
イ 県政の広報・広聴活動	3.1
オ 生涯学習活動への支援	2.8
ア 国際的な交流や協力	2.2
タ 交通安全・防犯対策	1.7
ソ 学校教育の充実	1.6
コ 中小企業の育成	1.1
キ 環境対策	1.0
ク 福祉対策	0.7
エ 防災対策の充実	0.3
シ 農林水産業の活性化対策	-0.1
サ 雇用安定と職業能力開発	-0.1
チ 震災からの復興対策	-2.1
セ 良質な住宅の供給	-2.5
カ 芸術文化の振興	-4.4
ケ 医療施設の充実	-6.2
ス 交通網の整備	-6.9

県政への評価【全県結果との比較】

もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
ケ 医療施設の充実	11.9
シ 農林水産業の活性化対策	9.9
ス 交通網の整備	4.4
コ 中小企業の育成	1.7
サ 雇用安定と職業能力開発	0.0
チ 震災からの復興対策	-0.7
オ 生涯学習活動への支援	-1.0
カ 芸術文化の振興	-2.5
ソ 学校教育の充実	-3.2
エ 防災対策の充実	-3.4
ア 国際的な交流や協力	-4.0
キ 環境対策	-4.1
イ 県政の広報・広聴活動	-5.2
タ 交通安全・防犯対策	-6.1
ウ 県政の合理的運営への努力	-6.4
セ 良質な住宅の供給	-6.4
ク 福祉対策	-7.0

県政への評価【前年結果との比較】

よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
エ 防災対策の充実	8.1
チ 震災からの復興対策	5.4
ケ 医療施設の充実	3.9
ス 交通網の整備	3.8
タ 交通安全・防犯対策	3.3
ウ 県政の合理的運営への努力	2.8
セ 良質な住宅の供給	2.3
コ 中小企業の育成	1.6
シ 農林水産業の活性化対策	1.6
サ 雇用安定と職業能力開発	1.6
ク 福祉対策	0.0
ソ 学校教育の充実	0.0
ア 国際的な交流や協力	-0.1
イ 県政の広報・広聴活動	-0.8
カ 芸術文化の振興	-1.6
オ 生涯学習活動への支援	-6.2
キ 環境対策	-6.4

県政への評価【前年結果との比較】

もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

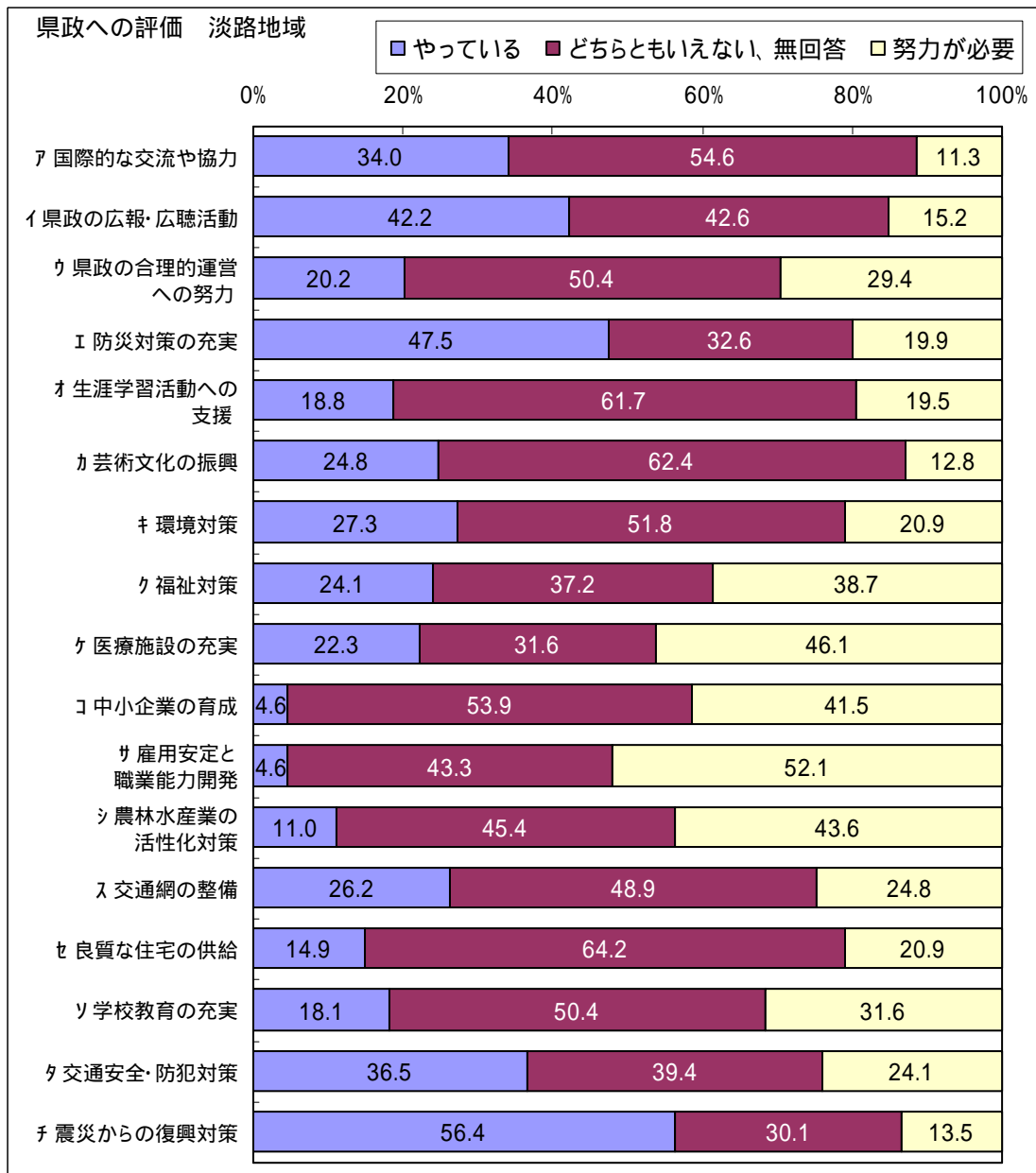
「努力が必要」	増減
キ 環境対策	7.2
コ 中小企業の育成	6.7
サ 雇用安定と職業能力開発	5.6
シ 農林水産業の活性化対策	5.1
オ 生涯学習活動への支援	4.7
ウ 県政の合理的運営への努力	3.7
カ 芸術文化の振興	0.1
イ 県政の広報・広聴活動	-0.2
チ 震災からの復興対策	-1.6
ソ 学校教育の充実	-1.7
ア 国際的な交流や協力	-2.1
エ 防災対策の充実	-3.8
ス 交通網の整備	-4.9
セ 良質な住宅の供給	-4.9
タ 交通安全・防犯対策	-5.1
ク 福祉対策	-6.2
ケ 医療施設の充実	-7.0

《淡路》

『やっている』は、「チ 震災からの復興対策」(56.4%)で5割台半ばと最も多く、「エ 防災対策の充実」(47.5%)、「イ 県政の広報・広聴活動」(42.2%)、「タ 交通安全・防犯対策」(36.5%)、「ア 国際的な交流や協力」(34.0%)と続いている。

『努力が必要』は、「サ 雇用安定と職業能力開発」(52.1%)で5割を超えて最も多く、「ケ 医療施設の充実」(46.1%)、「シ 農林水産業の活性化対策」(43.6%)、「コ 中小企業の育成」(41.5%)、「ク 福祉対策」(38.7%)と続いている。

17項目中、9項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。



淡路で『やっている』が全県結果を上回っているのは、「ク 福祉対策」(6.8 ポイント)、「タ 交通安全・防犯対策」(5.4 ポイント)、「ウ 県政の合理的運営への努力」(4.8 ポイント)、「エ 防災対策の充実」(4.4 ポイント)の10項目である。

『努力が必要』は、「シ 農林水産業の活性化対策」(8.6 ポイント)、「ス 交通網の整備」(4.8 ポイント)など8項目で全県結果を上回っている。

『やっている』が前年よりも増加しているのは、「チ 震災からの復興対策」(11.7 ポイント)、「エ 防災対策の充実」(10.1 ポイント)、「イ 県政の広報・広聴活動」(6.9 ポイント)、「ソ 学校教育の充実」(6.7 ポイント)など16項目である。

『努力が必要』が前年よりも増加しているのは、「ウ 県政の合理的運営への努力」(2.4 ポイント)、「ア 国際的な交流や協力」(1.3 ポイント)、「タ 交通安全・防犯対策」(0.6 ポイント)の3項目である。

県政への評価【全県結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	比率の差
ク 福祉対策	6.8
タ 交通安全・防犯対策	5.4
ウ 県政の合理的運営への努力	4.8
エ 防災対策の充実	4.4
シ 農林水産業の活性化対策	3.8
ケ 医療施設の充実	3.4
イ 県政の広報・広聴活動	2.8
ソ 学校教育の充実	2.1
ア 国際的な交流や協力	2.0
チ 震災からの復興対策	1.6
キ 環境対策	-0.6
コ 中小企業の育成	-1.4
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.5
オ 生涯学習活動への支援	-2.4
セ 良質な住宅の供給	-2.8
カ 芸術文化の振興	-8.6
入 交通網の整備	-8.9

県政への評価【全県結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	比率の差
シ 農林水産業の活性化対策	8.6
入 交通網の整備	4.8
サ 雇用安定と職業能力開発	2.3
チ 震災からの復興対策	1.5
オ 生涯学習活動への支援	1.2
ア 国際的な交流や協力	0.7
エ 防災対策の充実	0.6
ソ 学校教育の充実	0.4
ケ 医療施設の充実	0.0
コ 中小企業の育成	-0.3
カ 芸術文化の振興	-0.3
セ 良質な住宅の供給	-0.4
タ 交通安全・防犯対策	-1.1
ク 福祉対策	-1.9
イ 県政の広報・広聴活動	-2.3
ウ 県政の合理的運営への努力	-2.8
キ 環境対策	-3.3

県政への評価【前年結果との比較】
よくやっている+まあまあやっている (%)

「やっている」	増減
チ 震災からの復興対策	11.7
エ 防災対策の充実	10.1
イ 県政の広報・広聴活動	6.9
ソ 学校教育の充実	6.7
ウ 県政の合理的運営への努力	6.4
ケ 医療施設の充実	6.1
タ 交通安全・防犯対策	5.7
セ 良質な住宅の供給	4.2
ク 福祉対策	3.7
シ 農林水産業の活性化対策	3.4
入 交通網の整備	2.4
ア 国際的な交流や協力	2.2
カ 芸術文化の振興	2.0
コ 中小企業の育成	1.8
サ 雇用安定と職業能力開発	1.8
キ 環境対策	1.7
オ 生涯学習活動への支援	-0.6

県政への評価【前年結果との比較】
もう少し努力が必要+もっと努力が必要 (%)

「努力が必要」	増減
ウ 県政の合理的運営への努力	2.4
ア 国際的な交流や協力	1.3
タ 交通安全・防犯対策	0.6
イ 県政の広報・広聴活動	-0.3
サ 雇用安定と職業能力開発	-1.5
ケ 医療施設の充実	-2.3
シ 農林水産業の活性化対策	-2.7
ク 福祉対策	-2.9
キ 環境対策	-3.6
チ 震災からの復興対策	-3.8
コ 中小企業の育成	-4.5
入 交通網の整備	-4.6
オ 生涯学習活動への支援	-5.1
セ 良質な住宅の供給	-6.1
エ 防災対策の充実	-6.1
カ 芸術文化の振興	-6.6
ソ 学校教育の充実	-6.8